

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	筑波大学
設置者名	国立大学法人筑波大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
人文・文化学群	人文学類		209	1.0	2.0	212.0	13	
	比較文化学類				16.0	226.0	13	
	日本語・日本文化学類				40.0	250.0	13	
社会・国際学群	社会学類				2.0	211.0	13	
	国際総合学類				4.0	213.0	13	
人間学群	教育学類			2.0	53.0	264.0	13	
	心理学類				23.0	234.0	13	
	障害科学類				74.0	285.0	13	
生命環境学群	生物学類					209.0	13	
	生物資源学類				11.0	220.0	13	
	地球学類				9.0	218.0	13	
理工学群	数学類				2.0	211.0	13	
	物理学類					209.0	13	
	化学類				51.0	260.0	13	
	応用理工学類				4.0	213.0	13	

理工学群	工学システム学類				16.0	225.0	13	
	社会工学類					209.0	13	
情報学群	情報科学類			1.0	5.0	215.0	13	
	情報メディア創成 学類				25.0	235.0	13	
	知識情報・図書館学類				24.0	234.0	13	
医学群	医学類				193.0	402.0	19	
	看護学類				173.0	382.0	13	
	医療科学類				49.0	258.0	13	
体育専門学群					2.0	211.0	13	
芸術専門学群					511.0	720.0	13	
学際サイエンス・デザイン専門学群						209	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

KdB(教育課程編成支援システム)
<https://kdb.tsukuba.ac.jp/>
 において、検索欄に「実務経験教員」と入力、「概要・シラバス・備考欄を含む」にチェックを入れ、要件欄で「開設授業科目一覧」を選択し、検索ボタンを押すと抽出可能。下欄の「科目一覧ダウンロード」ボタンを押すと EXCEL 形式での一覧表が作成できます。

【参考：KdB(教育課程編成支援システム)を利用したシラバスの閲覧について】
<https://www.tsukuba.ac.jp/education/ug-courses-openclass/2025/pdf/kdb-howto.pdf>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校

法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2－②を用いること。

学校名	筑波大学
設置者名	国立大学法人筑波大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

筑波大学基幹サイトにて公表

<https://www.tsukuba.ac.jp/about/disclosure-misc/teikyo-22/info-soshiki2/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	(現職) 帝京大学 先端総合研究機構長	R7. 4. 1 ～R8. 3. 31	大学や研究機関等での研究者かつ管理運営者としての経験を活かした法人運営全般に関する助言
非常勤	(現職) 株式会社 True Data 社外取締役 (現職) SOMPO ホールディングス株式会社 社外取締役 (現職) 株式会社良品計画社外取締役 (現職) オフィス KITO 合同会社代表社員 (現職) 富士電機 E&C 株式会社顧問	R7. 4. 1 ～R8. 3. 31	企業における経験を活かした大学 IR や経営人材の育成等の立案に関する助言
非常勤	(現職) UiPath 株式会社特別顧問 (現職) 農業生産法人株式会社伊江牛顧問 (現職) 株式会社肥後銀行特別参与 (現職) 株式会社	R7. 4. 1 ～R8. 3. 31	金融機関における経験を活かした資産運用や寄附金等の外部資金の獲得等に関する助言

	FOLIO ホールディング ス特別顧問 (現職) 株式会社 FOLIO 特別顧問		
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	筑波大学
設置者名	国立大学法人筑波大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
・授業計画(シラバス)の作成過程 7月～ 各教育組織において次年度教育課程編成開始 12月～ 学内会議においてカリキュラムの承認 チェックリストによる項目の確認 ・授業計画の作成・公表時期 4月 授業計画(シラバス)公表 ・平成20年度から「シラバス作成のためのガイドライン」を作成し、それに沿って授業計画(シラバス)を作成している。 ・改定を行い、令和7年度から新ガイドラインに基づきシラバスを作成・公開する。	
授業計画書の公表方法	https://kdb.tsukuba.ac.jp/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)																									
・授業計画（シラバス）によりあらかじめ学生に示した成績評価方法・基準に基づき 各授業科目の学修成果の評価を行い、単位の授与又は履修の認定を行っている。 ・授業の到達目標（学修成果）として、学生がその授業科目を修得した時点で期待される、知っている・できること等を授業計画（シラバス）に明確に記載する。期待される能力等の文章をそのまま載せるのではなく、科目の内容に即した具体的な記載を行う。目標に達しているかどうかを観察測定し、成績評価に結びつけている。																									
3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。																									
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)																									
・客観的な指標としてG P A制度を導入し、その具体的な内容（G P Aの算出方法など）を公表している。 ・算出方法は次のとおり。（算出された数値の小数点第3位以下は切り捨て） $G P A = \frac{(\text{「A+」の単位数} \times 4.3 + \text{「A」の単位数} \times 4 + \text{「B」の単位数} \times 3 + \text{「C」の単位数} \times 2)}{GPA \text{ 対象科目の総履修登録単位数}}$ ・成績評価の評語及びG P は、次表のとおり。 <table><tr><th>標語</th><th>G P (評価点)</th><th>評価基準</th><th>参考(100 点満点での目安)</th></tr><tr><td>A+</td><td>4. 3</td><td>到達目標を達成し、きわめて優秀な成績をおさめている</td><td>90 点以上</td></tr><tr><td>A</td><td>4</td><td>到達目標を達成し、優秀な成績をおさめている</td><td>80～89 点</td></tr><tr><td>B</td><td>3</td><td>到達目標を達成している</td><td>70～79 点</td></tr><tr><td>C</td><td>2</td><td>到達目標を最低限達成している</td><td>60～69 点</td></tr><tr><td>D</td><td>0</td><td>到達目標を達成していない</td><td>60 点未満</td></tr></table> ・本学のG P A制度は、「筑波大学G P A制度に係わる実施要項（学群）」を定めて実施しており、学生の学習意欲を高めるとともに教育の質の保証について一層の具体化を進め、適切な修学指導に役立てている。 ・各学期末に学期・累積G P Aを記載した成績通知を学生の保護者宛に行っている。 ・各教育組織における「成績評価分布の目標」を設定して、成績の分布状況を把握し、適切な修学指導を行っている。		標語	G P (評価点)	評価基準	参考(100 点満点での目安)	A+	4. 3	到達目標を達成し、きわめて優秀な成績をおさめている	90 点以上	A	4	到達目標を達成し、優秀な成績をおさめている	80～89 点	B	3	到達目標を達成している	70～79 点	C	2	到達目標を最低限達成している	60～69 点	D	0	到達目標を達成していない	60 点未満
標語	G P (評価点)	評価基準	参考(100 点満点での目安)																						
A+	4. 3	到達目標を達成し、きわめて優秀な成績をおさめている	90 点以上																						
A	4	到達目標を達成し、優秀な成績をおさめている	80～89 点																						
B	3	到達目標を達成している	70～79 点																						
C	2	到達目標を最低限達成している	60～69 点																						
D	0	到達目標を達成していない	60 点未満																						
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.tsukuba.ac.jp/education/ug-courses-gpa/pdf/gpa_gaiyo.pdf																								

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) ・学士課程における教育の目標とその達成方法及び教育内容の改善の方策を含む教育の枠組みを明らかにした「筑波大学 学群スタンダード」を作成し、広く社会に公表している。 ・ディプロマ・ポリシーをもとに、各教育組織の履修細則に基づき、各教育組織で判定を行い、卒業認定を実施している。
学部等名 人文・文化学群 人文学類
(概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（人文学）の学位を授与します。 ●専門的能力…人文系の諸学問分野の専門的知識と固有の方法論とを修得し、それに基づいて自らの取り組む問題に関する文献や原資料を調査・収集・分析することを通して、実証的に自身の考えを構築し不断に更新していくことができる。 （関連するコンピテンス：哲学の理解、史学の理解、先史学・考古学の理解、民俗学・文化人類学の理解、言語学の理解、資料読解・分析力 ディスカッション力、情報収集力・状況対応力、論理構成力・研究力） ●コミュニケーション能力…外国語やコンピュータを的確に駆使しながら、他者に自らの考えを論理的に伝達するとともに、他者の考えを十分に理解し、対話を通じて相互に了解可能な共通認識に到達することができる。 （関連するコンピテンス：資料読解・分析力 ディスカッション力） ●想像力…「人間とは何か」という問いに根差して知性と感性を磨き、人間存在とその諸活動の所産としての文化全般に鋭い洞察を加え、現代世界の諸課題の発見と解決に果敢に挑戦し、人類の未来へとまなざしを向けることができる。 （関連するコンピテンス：情報収集力・状況対応力）
学部等名 人文・文化学群 比較文化学類
(概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（比較文化）の学位を授与します。 ●ひとつの学問領域に留まることのない、複眼的な知力と逞しい問題解決能力を備えている。 （関連するコンピテンス：文化事象の理解力、文化的課題への対応力） ●文献資料のみならず多様なメディアやフィールドを広く調査し、批判的に情報を解釈する能力を備えている。 （関連するコンピテンス：文化事象の理解力、文化的現象の分析力） ●独創的な着眼点、徹底した資料収集、堅実で粘り強い文献読解、卓抜な構成力、論理的一貫性などを有した、高度な論文執筆能力を備えている。 （関連するコンピテンス：文化事象の理解力、文化的現象の分析力） ●自国の文化伝統を踏まえつつ、グローバル化する社会の文化的多様性を理解する姿勢と教養を備えている。 （関連するコンピテンス：文化的課題への対応力、国際的な主体性） ●グローバル化する社会に貢献できる国際的なコミュニケーション能力を備えている。

(関連するコンピテンス：国際的なコミュニケーション能力) ●多様な文化的環境に主体的に働きかけ、チームワークのもとで活動を遂行する能力を備えている。 (関連するコンピテンス：国際的なコミュニケーション能力、国際的な主体性)		
学部等名	人文・文化学群	日本語・日本文化学類
(概要) ★学士（文学） 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）および本学群・学類の人材養成目的に基づく修得すべき知識・能力（専門コンピテンス）を身につけ、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（文学）の学位を授与します。 ●グローバルな視点から日本における言語・文化事象を総合的に捉えるための専門知識（言語学、日本語教育学、文化人類学、歴史学、文学など）と分析能力とを修得している。 (関連するコンピテンス：1. 言語事象を構造的に分析する力、2. 言語事象を社会・人間との関わりで捉える力、3. 文化事象をテキスト内在的に捉える力、4. 文化事象を社会・人間との関わりで捉える力) ●異言語・異文化を背景とする人たち、次世代の人たちと課題を共有し、ともに解決していくことのできる異文化間課題解決能力および社会的実践力を身につけている。 (関連するコンピテンス：5. 異文化間課題解決能力、6. 社会的実践力) ★学士（日本語教育学） 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）および本学群・学類の人材養成目的に基づく修得すべき知識・能力（専門コンピテンス）を身につけ、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（日本語教育学）の学位を授与します。 ●グローバルな視点から日本における言語・文化事象を総合的に捉えるための専門知識（言語学、日本語教育学、文化人類学、歴史学、文学など）と分析能力とを修得している。 (関連するコンピテンス：1. 言語事象を構造的に分析する力、2. 言語事象を社会・人間との関わりで捉える力、3. 文化事象をテキスト内在的に捉える力、4. 文化事象を社会・人間との関わりで捉える力) ●異言語・異文化を背景とする人たち、次世代の人たちと課題を共有し、ともに解決していくことのできる異文化間課題解決能力および社会的実践力を身につけている。 (関連するコンピテンス：5. 異文化間課題解決能力、6. 社会的実践力) ●専門知識に基づき、地域社会のリーダーとなって、企業活動・市民活動をけん引することのできるリーダーシップ力を身につけている。 (関連するコンピテンス：7. リーダーシップ力)		
学部等名	社会・国際学群	社会学類
(概要) ★学士（社会学） 筑波大学学士課程の教育目標に基づき、必要とされる知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ社会・国際学群社会学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（社会学）の学位を授与します。 ●社会学・社会科学を広く学びつつ、多様な社会学各論の視座や方法を関連づけて理解し、複雑化する現代社会を多角的な視点でとらえることができること。 (関連するコンピテンス：社会科学の基礎、社会科学の素養) ●既存の社会制度や慣習にみられる「常識」を改めて対象化して問題化し、これを分析する能力や社会のあるべき姿を総合的に構想する力を習得していること。 (関連するコンピテンス：社会問題の発見、社会的事象の理解・分析、社会問題の解決) ●社会的な事象を社会学的に記述し、問題提起していくコミュニケーション能力を身につけていること。 (関連するコンピテンス：社会科学的な表現・議論、実社会での応用)		

★学士（法学）

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ社会・国際学群社会学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（法学）の学位を授与します。

●法の役割と存在意義に関する深い考察を通して、社会の在り方に対する関心を持ち続け、広い視野で問題を解決する能力を獲得する。

（関連するコンピテンス：社会科学の基礎、社会科学の素養、社会問題の解決）

●法学の専門知識に関し、憲法・民法・刑法等に代表される基本的な法の概念から演繹して現実社会の事象を理解できる体系的理解力と論理的思考力を獲得する。

（関連するコンピテンス：社会的事象の理解・分析）

●自ら発信した受信する、双方向の法的コミュニケーション能力を身に付ける。

（関連するコンピテンス：社会科学的な表現・議論）

●社会事象の中に法的な問題点を発見する力と、問題の核心を捉える洞察力を修得する。

（関連するコンピテンス：社会問題の発見、実社会での応用）

★学士（政治学）

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ社会・国際学群社会学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（政治学）の学位を授与します。

●グローバル化・複雑化・多様化する政治現象を、それを取り巻く現代社会の諸現象と関連づけて学際的・総合的に理解する能力を修得している。

（関連するコンピテンス：社会科学の基礎、社会科学の素養、社会的事象の理解・分析）

●政治学の専門知識を体系的に理解し、政治現象を批判的・多角的に分析・考察する能力、混迷する社会における政策課題を発見し、政治学の立場からその解決法を導き出す能力を修得している。

（関連するコンピテンス：社会的事象の理解・分析、社会問題の発見、社会問題の解決）

●政治学の専門知識に基づく分析・考察を文章・口頭によって論理的に表現し、相互に議論する能力を身に付け、社会各界や自己が所属する組織・集団をリードする力を備えている。

（関連するコンピテンス：社会科学的な表現・議論、実社会での応用）

●政治的・社会的な問題に対して、公共性に立脚した自律的な市民としての責任感や倫理観を身に付けている。

（関連するコンピテンス：社会問題の発見、社会問題の解決、実社会での応用）

★学士（経済学）

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ社会・国際学群社会学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（経済学）の学位を授与します。

●経済分析に必要な技術的能力を修得していること。ミクロ経済学、マクロ経済学など、経済学の基礎となる科目、さらに経済数学や計量経済学など、理論と実証分析に必要な手法を学ぶ科目を履修して、分析のための技術・知識を修得すること。

（関連するコンピテンス：社会科学の基礎、社会科学の素養、社会的事象の理解・分析、社会科学的な表現・議論）

●経済学の専門知識を体系的に身につけていること。専門科目の選択履修により、経済学のより深い専門的な知識を修得すること。

（関連するコンピテンス：社会的事象の理解・分析、社会問題の解決）

●経済理論と歴史・現状に関する知識を合わせた総合的な分析能力を身につけていること。現代経済史、地域経済論、日本経済論などの履修によって、経済問題に対する幅広い理解を体得すること。

（関連するコンピテンス：社会科学の基礎、社会科学の素養、社会問題の発見、社会的事象の理解・分析、社会科学的な表現・議論）

●経済問題、社会問題に対する広い関心と洞察力を備えていること。演習科目の履修によ

って、経済学のツールを社会の諸問題に適用する能力を獲得すること。 (関連するコンピテンス：社会科学の素養、社会問題の発見、社会的事象の理解・分析、社会問題の解決、社会科学的な表現・議論、実社会での応用)
学部等名 社会・国際学群 国際総合学類
(概要) ★学士 (国際関係学) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力 (汎用コンピテンス) を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士 (国際関係学) の学位を授与します。 ●国際政治学、国際法、経済学、言語学、文化人類学等の各領域の専門的知識と、IT スキルに裏打ちされた多角的な方法論を踏まえた、文理融合型の学際的見識を修得している。 (関連するコンピテンス：国際学 (国際関係) の理解、国際学 (国際開発) の理解) ●最新の世界事情を歴史的・文化的背景を踏まえて理解し、基本的な解決策を提示する国際ガバナンスのプロセスを理解している。 (関連するコンピテンス：国際学 (国際関係) の理解、国際学 (国際開発) の理解) ●国際学ゼミナールの議論と卒業論文の研究を通して、高度の論理的思考力と多様な価値観を前提とした表現力を習得している。 (関連するコンピテンス：国際学 (国際関係) の分析能力、国際学 (国際関係) の論理的表現能力、国際学 (国際開発) についての分析能力、国際学 (国際開発) についての論理的表現能力) ●「ヒアリング力」、「交渉力」、「提案力」、「前向きな姿勢」、「向上心」といった基本的なヒューマン・スキルと、コンピューターによる分析・表現・プレゼンテーションのテクニカル・スキルを身に付けている。 (関連するコンピテンス：国際学 (国際関係) の分析能力、国際学 (国際関係) の論理的表現能力、国際学 (国際開発) についての分析能力、国際 (国際開発) についての論理的表現能力) ★学士 (国際開発学) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力 (汎用コンピテンス) を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士 (国際開発学) の学位を授与します。 ●経済開発、社会開発等の社会科学、または情報学、環境学等に関する専門的方法論を駆使しうる、文理融合型の学際的見識を修得している。 (関連するコンピテンス：国際学 (国際開発) の理解、国際学 (国際関係) の理解) ●グローバル・コミュニケーションの基盤としての IT スキルを持ち、国際交流基盤の成り立ちを理解している。 (関連するコンピテンス：国際学 (国際開発) の理解、国際学 (国際関係) の理解) ●国際学ゼミナールの議論と卒業論文の研究を通して、高度の数理的ないし論理的思考力と実践的な技法を習得している。(関連するコンピテンス：国際学 (国際開発) の分析能力、国際学 (国際開発) の論理的表現能力、国際学 (国際関係) についての分析能力、国際学 (国際関係) についての論理的表現能力) ●「ヒアリング力」、「交渉力」、「提案力」、「前向きな姿勢」、「向上心」といった基本的なヒューマン・スキルと、コンピューターによる分析・表現・プレゼンテーションのテクニカル・スキルを身に付けている。 (関連するコンピテンス：国際学 (国際開発) の分析能力、国際学 (国際開発) の論理的表現能力、国際学 (国際関係) についての分析能力、国際学 (国際関係) についての論理的表現能力)
学部等名 人間学群 教育学類

(概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ人間学群教育学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（教育学）の学位を授与します。 ●教育学の基礎としての人間に関する総合的な知と教養を備えている (関連するコンピテンス：人間科学の理解力) ●教育に対する幅広い学識を修得し、体系的な見方・考え方ができる (関連するコンピテンス：教育学の基礎的体系的知識、教育学における総合的思考力) ●教職などの専門職に採用される水準の教育専門家的資質・能力を備えている (関連するコンピテンス：教育学的実践力) ●教育学の理論と実践に関して、大学院に進学できる水準の基礎的研究能力を備えている (関連するコンピテンス：教育学に関する先導的発信力)
学部等名 人間学群 心理学類
(概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ人間学群心理学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（心理学）の学位を授与します。 ●心理学に関する専門的知識と心理学の方法論を活用して適切にデータを収集し、科学的に分析することができる (関連するコンピテンス：人間観察力、行動分析力) ●自己理解と他者理解に基づき、他者と協同して、課題解決を図ることができる。 (関連するコンピテンス：人間観察力、心理学的支援力) ●人間と社会の多様な現象を実証的に探求し、問題に対処していく実践的な志向性が身についている。 (関連するコンピテンス：心理学的問題解決実践志向、実証的な志向性に基づく探究心) ●国際社会における多様性と多文化共生について心理学的視点から理解し、相互互惠の関係を形成できるコミュニケーション能力を備えている。 (関連するコンピテンス：普遍性と多様性の理解)
学部等名 人間学群 障害科学類
(概要) ★学士（障害科学） 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ人間学群障害科学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（障害科学）の学位を授与します。 ●障害科学の全体的な理念・概念を理解し、障害科学に関連した障害教育、障害心理・生理、障害福祉についての基礎的知識と技能を修得している (関連するコンピテンス：人間科学の理解力、障害科学の基礎的知識、障害科学における実践力) ●障害科学に関連した問題を志向し、その問題を解決する能力と科学的思考力をもち、専門研究を展開できる基礎的能力を修得している (関連するコンピテンス：障害科学における分析的思考力) ●障害科学に関連したリーダーシップにつながる基礎的能力を備えている (関連するコンピテンス：障害科学における実践力、障害科学に関する先導的発信力) ●障害科学に関連した英語等外国語力を修得している (関連するコンピテンス：障害科学の基礎的知識、障害科学に関する先導的発信力) ★学士（特別支援教育学） 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ人間学群障害科学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（特別支援教育学）の学位を授与します。

●特別支援教育に関わる先導的な研究・教育を担うことのできる専門的知識や技術を修得し、特別支援教育学に関連した生理学・心理学についての基礎的理解を備えている (関連するコンピテンス：人間科学の理解力、障害科学の基礎的知識) ●教職などの専門職に採用される水準の能力を備えている (関連するコンピテンス：障害科学の基礎的知識、障害科学における実践力) ●特別支援教育学に関連した問題を志向し、その問題を解決する能力と科学的思考力を持ち、専門研究を展開できる基礎的能力を修得している (関連するコンピテンス：障害科学における分析的思考力) ●特別支援教育学に関連したリーダーシップにつながる基礎的实践能力を修得している (関連するコンピテンス：障害科学における実践力、障害科学に関する先導的発信力) ●特別支援教育学に関連した英語等外国語力を修得している (関連するコンピテンス：障害科学の基礎的知識、障害科学に関する先導的発信力) ★学士（社会福祉学） 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ人間学群障害科学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（社会福祉学）の学位を授与します。 ●ノーマライゼーションという福祉理念を実現するための施策や援助方法を理解し、社会福祉学に関連した生理学・心理学・教育学についての基礎的理解を備えている (関連するコンピテンス：人間科学の理解力、障害科学の基礎的知識) ●社会福祉士国家試験に合格する水準の能力や福祉行政などの専門職に採用される水準の能力を備えている (関連するコンピテンス：人間科学の理解力、障害科学の基礎的知識、障害科学における実践力) ●社会福祉学に関連した理論と実践について、包括的かつ科学的に探究し実践できる専門的知識や技術、研究能力を修得している (関連するコンピテンス：人間科学の理解力、障害科学の基礎的知識、障害科学における分析的思考力) ●社会福祉学に関連したリーダーシップにつながる基礎的实践能力を修得している (関連するコンピテンス：障害科学における実践力、障害科学に関する先導的発信力) ●社会福祉学に関連した英語等外国語力を修得している (関連するコンピテンス：障害科学の基礎的知識、障害科学に関する先導的発信力)	学部等名 生命環境学群 生物学類 (概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（理学）の学位を授与します。 ●自然科学の理解…自然科学の基礎的な知識を習得し、科学的な思考法を身に付けている。 ●生物学の理解…専門とする分野にとどまらず、生物学一般に関する幅広い理解を深めるとともに、多様な生物学の研究手法を身に付けている。 ●生物現象の分析能力…生物現象について実験・観察で得られたデータや膨大な生物情報を適切な手法により分析し、適確に記述し批判的に評価する能力を身に付けている。 ●国際的コミュニケーション能力…国際的に活躍するために必須となる英語力、及び自分の考えや意見を正しく分かりやすく表現するコミュニケーション能力を身に付けている。 ●論理的表現能力…卒業研究の研究課題に関連する英語学術論文を読み、その内容を研究レポートにまとめる等を通じて、学術論文の読み方と論理的表現能力を身に付けている。 ●問題発見・解決型能力と自己表現能力…最終年次に卒業研究を行うことにより、主体的に問題を発見し、解決する能力を身に付けている。また、研究成果についてプレゼンテーションを行うとともに、要旨のWeb公開を通じて、科学的表現能力を身に付けている。 学部等名 生命環境学群 生物資源学類
--	---

(概要)

★学士（生物資源学）

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（生物資源学）の学位を授与します。

●自然環境と人間社会の関わりの本質を理解できる幅広い知識を修得している。

（関連するコンピテンス：生物資源学に関する体系的な専門知識、生物資源学に関する専門の基礎となる教養）

●多様な生物資源利用に関する体系的な専門的知識とそれを社会で活用できる能力、あるいは大学院でさらに高度な専門的探求ができる能力を修得している。

（関連するコンピテンス：生物資源学に関する体系的な専門知識、生物資源学に関する国際的な専門知識、生物資源学に関する ICT の活用力、生物資源に関する問題意識の醸成力）

●生物資源の開発・利用分野における海外協力に必要な異文化理解能力とコミュニケーション能力を修得している。

（関連するコンピテンス：生物資源学に関する体系的な専門知識、生物資源学に関する国際的な専門知識）

●情報通信技術（ICT）を駆使して生物資源利用に関する情報や知識を分析し、それらを内外に受発信できる。

（関連するコンピテンス：生物資源学に関する体系的な専門知識、生物資源学に関する専門の基礎となる教養、生物資源学に関する ICT の活用力）

●農林業の発展や食料・環境問題に対する貢献意欲を持ち、卒業後も自己成長を続ける力を備えている。

（関連するコンピテンス：生物資源学に関する体系的な専門知識、生物資源に関する問題意識の醸成力）

★学士（農学）

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（農学）の学位を授与します。

●自然環境と人間社会の関わりを理解できる幅広い知識を修得している。

（関連するコンピテンス：農学に関する体系的な専門知識、農学に関する専門の基礎となる教養）

●多様な生物資源利用に関する体系的な専門的知識とそれを社会で活用できる能力、あるいは大学院でさらに高度な専門的探求ができる能力を修得している。

（関連するコンピテンス：農学に関する体系的な専門知識、農学に関する国際的な専門知識、農学に関する ICT の活用力、農業に関する問題意識の醸成力）

●生物資源の開発・利用分野における海外協力に必要な異文化理解能力とコミュニケーション能力を修得している。

（関連するコンピテンス：農学に関する体系的な専門知識、農学に関する国際的な専門知識）

●情報通信技術（ICT）を駆使して生物資源利用に関する情報や知識を分析し、それらを内外に受発信できる。

（関連するコンピテンス：農学に関する体系的な専門知識、農学に関する専門の基礎となる教養、農学に関する ICT の活用力）

●農林業の発展や食料・環境問題に対する貢献意欲を持ち、卒業後も自己成長を続ける力を備えている。

（関連するコンピテンス：農学に関する体系的な専門知識、農業に関する問題意識の醸成力）

●日本で農学の専門家として実務にあたるための基本的な知識・能力を修得している

（関連するコンピテンス：農学に関する体系的な専門知識、農業に関する問題意識の醸成力）

学部等名 生命環境学群 地球学類
(概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ生命環境学群地球学類の人材養成目的にかなう下記の専門コンピテンスを修得したものに学士（理学）の学位を授与します。 ●専門とする分野にとどまらない、自然科学一般に関する幅広い知識について理解している。 ●地球科学に関する高度な専門知識と多様な研究手法について理解している。 ●科学的なデータ・情報を適切な手法で解析し、合理的な推論を導く能力を修得している。 ●安全確保上の注意点を踏まえ、室内における実験機器や分析装置を使用する技能を習得している。 ●安全確保や個人情報保護などに配慮しつつ、野外での観察・観測やデータ収集を遂行する能力を修得している。 ●研究・調査を企画・遂行し、その成果を卒業研究論文・レポート等としての的確にまとめ発表する能力を修得している。
学部等名 理工学群 数学類
(概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（理学）の学位を授与します。 ●自然科学の基礎的な知識を習得し、科学的な思考法を身につけている。 (関連するコンピテンス：自然科学の基礎知識) ●数学の基礎である「微分積分」と「線形代数」を自在に駆使できる。 (関連するコンピテンス：自然科学の基礎知識) ●数学的な論理展開の方法を理解し、数学的思考力・論理力と応用力を身につけている。 (関連するコンピテンス：数学の専門知識（代数学・解析学・幾何学・情報数学の理解）) ●代数・幾何・解析・情報数学のいずれかの分野における専門知識を習得している。 (関連するコンピテンス：数学の専門知識（代数学・解析学・幾何学・情報数学の理解）) ●専門分野に関する基礎的な英語能力および発表能力がある。 (関連するコンピテンス：数学の専門知識（代数学・解析学・幾何学・情報数学の理解）、数学英語力の養成)
学部等名 理工学群 物理学類
(概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、本学群・学類の人材養成目的に基づき、以下の知識・能力（専門コンピテンス）を修得したものに、学士（理学）の学位を授与します。 ●自然科学の基礎となる概念や考え方を理解し、問題を解く能力（微積分、線形代数、および、化学、生物に関する科目など） (関連するコンピテンス：自然科学の理解) ●古典物理学の基礎となる概念や考え方を理解し、問題を解く能力（力学、専門電磁気学、解析力学、熱物理学など） (関連するコンピテンス：古典物理学の理解) ●現代物理学の基礎となる概念や考え方を理解し、問題を解く能力（量子力学、統計力学、相対性理論など） (関連するコンピテンス：現代物理学の理解) ●各分野の専門的な物理学の概念や考え方を理解し、問題を解く能力（卒業研究、各専門分野の物理学など） (関連するコンピテンス：専門物理学の理解) ●計算プログラムを理解・実装し、その結果を物理学的に正しく考察できる能力（卒業研

究、計算物理学) (関連するコンピテンス：計算分析能力) ●実験の原理および操作を理解し、その結果を物理学的に正しく考察できる能力（卒業研究、物理学実験、実験物理学など） (関連するコンピテンス：実験分析能力) ●物理学の内容を英語等で表現および議論する能力（卒業研究、科学英語など） (関連するコンピテンス：専門的対話能力) ●自ら物理学における課題を探索し、その課題を解く能力（卒業研究、課題探求実習セミナーなど） (関連するコンピテンス：課題解決能力)
学部等名 理工学群 化学類
(概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（理学）の学位を授与します。 ●自然科学の基礎的な知識を習得し、科学的な思考法を身につけている。 (関連するコンピテンス：1 基礎化学の知識と理解力、2 無機・分析化学分野の知識と理解力、応用力、3 熱力学・統計力学分野の知識と理解力、応用力、4 量子化学・分光学分野の知識と理解力、応用力、5 有機化学分野の知識と理解力、応用力、6 生物化学分野の知識と理解力、応用力、7 化学実験の遂行能力) ●物質を、分子・原子・電子・化学結合レベルで理解している。 (関連するコンピテンス：1 基礎化学の知識と理解力、2 無機・分析化学分野の知識と理解力、応用力、3 熱力学・統計力学分野の知識と理解力、応用力、4 量子化学・分光学分野の知識と理解力、応用力、5 有機化学分野の知識と理解力、応用力、6 生物化学分野の知識と理解力、応用力) ●自然界における普遍的な法則と未知物質・未知現象の探求、機能性物質の創製と材料開発、環境問題やエネルギー問題の解決、生命現象の解明に必要な化学的基礎知識を持っている。 (関連するコンピテンス：1 基礎化学の知識と理解力、2 無機・分析化学分野の知識と理解力、応用力、3 熱力学・統計力学分野の知識と理解力、応用力、4 量子化学・分光学分野の知識と理解力、応用力、5 有機化学分野の知識と理解力、応用力、6 生物化学分野の知識と理解力、応用力、7 化学実験の遂行能力) ●上述した化学に関する基礎的で必要不可欠な知識と理解に裏打ちされた柔軟な思考力と、国際的に活躍できる能力を持っている。 (関連するコンピテンス：1 基礎化学の知識と理解力、8 化学英語の理解力、表現力) ●他者と協調して化学に関する問題を解決することができる。 (関連するコンピテンス：専門コンピテンス全般)
学部等名 理工学群 応用理工学類
(概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づく修得すべき知識・能力（専門コンピテンス）として、工学分野の様々な問題に対応するための基礎的能力（物理・化学・生物現象の理解力と数学的な論理力・計算力）と専門的能力（「応用物理と計測」、「電子・量子工学とナノ科学」、「物性工学と材料工学」、「物質・分子工学と複合化学」の4つの内、いずれかまたは複数の知識と論理的思考能力）を獲得し、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（工学）の学位を授与します。 ●最先端科学技術を原子・分子レベルで原理から理解できる基礎学力を備え、さらに発展・創造できる専門知識を身につけている ●科学技術で直面するさまざまな課題を物理、化学、生物の学際的で幅広い視点から論理

的に思考できる ●チームのなかで活躍できる協調性や異分野の人とコミュニケーションして自己表現できる能力を身に付けている ●国際的に活躍することができる語学力やプレゼンテーション能力を備えている
学部等名 理工学群 工学システム学類
(概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を習得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、工学分野の様々な問題に対応するための基礎能力と論理的思考能力を獲得し、学修の成果が以下に示す所定の水準に達したと認められる者に、学士（工学）の学位を授与します。 ●広い分野に応用できる基礎能力については、数学・物理学・コンピュータなどに係る専門基礎科目を修め、これらの知識を応用して工学的な諸問題を分析できることを求めます。具体的には、論理的・数学的な思考力と解析力を身につけ、物理的な自然現象に対する理解を深め、コンピュータを利用し情報を取得・処理する能力を身につけることを求めます。 ●広い視野を持った仕事の遂行能力については、各主専攻の専門科目を修め、これらの最新知識を獲得して、科学技術と社会・全世界・地球全体との関連を理解し、新たな技術を企画し、具体的なシステムを設計し運用できることなどを求めます。さらに、実験・卒業研究などで、同級生との協調・指導教員の指導などを経て、問題点に対する具体的な解決策を考案し、計画的に仕事を進められることなどを求めます。 ●社会人・職業人としての人間基本力については、外国語・実験・卒業研究などの科目を修め、国際的にも活躍できるコミュニケーション能力と自分の考えを筋道を立てて第三者へわかりやすく表現できるプレゼンテーション能力を身につけることを求めます。さらに、自主性と行動力を伴い、技術者としての社会性と責任感・倫理観を持つことなどを求めます。
学部等名 理工学群 社会工学類
(概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ理工学群社会工学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（社会工学）の学位を授与します。 ●経済・企業・都市などの社会システムに関する基礎的理解と洞察力を有し、社会環境における不確実性を縮減するためにエビデンスに基づいた具体的政策を提言することができる。 （関連するコンピテンス：社会システムの基礎的理解と洞察力） ●複雑な社会が直面する諸問題を解決するために、数学（微積分・線形代数）・統計学（データ解析）・情報技術（プログラミング）に関する知識をツールとして用いることができる。 （関連するコンピテンス：複雑な社会問題解決のための数学・統計学・情報技術） ●現代社会が直面するグローバルな問題の本質を見極めることができる。 （関連するコンピテンス：グローバル課題の分析能力） ●経済学・経営工学・都市計画等の多面的な視点から社会的要請に柔軟に対応できる。 （関連するコンピテンス：社会的要請への対応力） ●経済学・経営工学・都市計画分野における専門家・技術者としての職業倫理を遵守できる。 ●客観的で説得力のあるコミュニケーション・スキルを持つ。 （関連するコンピテンス：コミュニケーション・スキル） ●英語を用いた基礎的なコミュニケーション・スキルを持つ。 ●チームによる協働が必要な場合は、その一員として協調的に行動できる。 ●主体的に課題を探究し、自主的・継続的に学習することができる。 （関連するコンピテンス：課題探究能力）

学部等名 理工学群 総合理工学位プログラム
(概要) 筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ理工学群総合理工学位プログラムの学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（工学）の学位を授与します。 ●数学と物理学の確固たる基礎学力を身につけていること。 （関連するコンピテンス： ・数学的な論理力と計算力 ・物理現象の理解） ●分野横断的工学分野の課題を原理的な視点から理解・分析し、創造的に解決できること。 （関連するコンピテンス： ・化学・生物現象の理解、物理学実験・システム工学実験の分析力 ・マイクロ工学・ナノ科学の能力 ・マクロ工学・システム工学の能力 ・課題探求・解決能力） ●多文化・多分野のチームの中で活躍できる協調性、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけていること。 （関連するコンピテンス： ・課題探求・解決能力）
学部等名 情報学群 情報科学類
(概要) ★学士（情報科学） 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（情報科学）の学位を授与します。 ●情報科学を支える基礎知識を身につけている （関連するコンピテンス：情報科学の基礎） ●数理モデリングとプログラムの構成原理および手法を理解し、質の高いソフトウェアを作り出す高い能力を備えている （関連するコンピテンス：ソフトウェアサイエンス分野の専門能力） ●ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク技術を体系的に把握し、情報システムをデザインすることができる能力を備えている （関連するコンピテンス：情報システム分野の専門能力） ●多様な知能情報処理技術ならびにメディア処理技術を体系的に理解・応用できる能力を備えている （関連するコンピテンス：知能情報メディア分野の専門能力） ●情報科学に関する専門英語能力とグローバルな視野をもとに国際的に活躍できる能力を備えている （関連するコンピテンス：専門英語コミュニケーション力） ●情報科学に関する未知の問題を解決する実践力、問題解決能力とイノベーション創出能力を備えている （関連するコンピテンス：実践的技術力と問題解決能力） ●情報倫理、セキュリティ、知的所有権を理解している （関連するコンピテンス：専門技術者としての情報倫理） ★学士（情報工学） 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（情報工学）の学位を授与します。 ●情報科学を支える基礎知識を身につけている

(関連するコンピテンス：情報科学の基礎) ●数理モデリングとプログラムの構成原理および手法を理解し、質の高いソフトウェアを作り出す能力を備えている 関連するコンピテンス：ソフトウェアサイエンス分野の専門能力) ●ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク技術を体系的に把握し、情報システムをデザインすることができる高い能力を備えている (関連するコンピテンス：情報システム分野の専門能力) ●多様な知能情報処理技術ならびにメディア処理技術を体系的に理解・応用できる高い能力を備えている (関連するコンピテンス：知能情報メディア分野の専門能力) ●情報科学に関する専門英語能力とグローバルな視野をもとに国際的に活躍できる能力を備えている (関連するコンピテンス：専門英語コミュニケーション力) ●情報科学に関する未知の問題を解決する実践力、問題解決能力とイノベーション創出能力を備えている (関連するコンピテンス：実践的技術力と問題解決能力) ●情報倫理、セキュリティ、知的所有権を理解している (関連するコンピテンス：専門技術者としての情報倫理)
学部等名 情報学群 情報メディア創成学類 (概要) 筑波大学学士課程の教育目標に掲げられた知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（情報メディア科学）の学位を授与します。 ●専門性…情報メディア科学に関する概念、原理、理論、技術を体系的に理解し、それらに関する研究開発を行うことができる。 (関連するコンピテンス：デジタルコンテンツ、ネットワークサイエンス、情報メディアとインタラクション、コンピューティングとシステム、数理的基盤、人間の認知と社会) ●デザイン力…工学・科学における機能美や実現可能性を論理的思考に基づいて客観的に判断できる審美眼的素養を備え、それに基づいて実システムとして設計できるデザイン力を身につけている。 (関連するコンピテンス：情報メディアとインタラクション、数理的基盤、デザインと創造性) ●ヒューマンスキル…プロジェクトチームで協働できるコミュニケーション能力、課題発見能力、問題解決能力を身につけている。 (関連するコンピテンス：情報メディアとインタラクション、人間の認知と社会、デザインと創造性) ●倫理観…知的財産保護や個人情報保護等に代表される技術と社会における倫理観を備えている。 (関連するコンピテンス：人間の認知と社会)
学部等名 情報学群 知識情報・図書館学類 (概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ情報学群知識情報・図書館学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（図書館情報学）の学位を授与します。 ●文理融合型基礎の獲得：情報学分野に関する文理にわたる幅広い基礎知識と視野を獲得していること 知識共有現象の理解：知識を生成・加工・蓄積・伝達・利用する知識共有現象を多様な学問的観点から理解していること

●調査研究能力：量的調査、質的調査、統計解析などのさまざまな調査分析手法を習得し調査研究を遂行できること ●知識基盤構築能力：情報技術を駆使して知識資源やデータ基盤を形成・活用する能力を有していること ●知識伝達能力：さまざまな情報源から適切な情報を検索し蓄積された知識を適切に加工・表現して伝達する能力を有すること ●多様性の理解と倫理性の獲得：文化や価値観の違いを理解し、倫理観と公共心を備えていること
学部等名 医学群 医学類
(概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ医学類卒業時コンピテンシーを修得したと認められる者に、学士（医学）の学位を授与します。 ●プロフェッショナリズム 豊かな人間性と生命の尊厳について深い認識と倫理観を有し、人の命と健康を守る医師になる者としての自覚と責任感をもって医療を实践できる。常に向上心を持ち、省察を行い、生涯にわたり自己研鑽を続けることができる。 ●科学的思考 事象について、好奇心・探究心を持って科学的な視点でとらえるとともに、未知の問題を解決するための科学的な方法を理解できる。 ●コミュニケーション 多職種を含むチームで連携し患者中心の医療を提供するために、患者やその家族、およびチームメンバーとの間で適切にコミュニケーションをとることができる。 ●診療の実践 医療の基盤となっている基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学の知識を有し、それを応用して、患者の問題を全人的に理解し、それを解決するための適切な診療を实践できる。 ●医療の社会性 人間個体はもちろん、地域・社会あるいは人類全体のグローバルな問題を広くとらえ、保健・医療・福祉の関連法規、制度、システム、資源を理解した上で、社会基盤に基づく地域・社会の健康を支える活動を実践できる。 ●未来開拓力 自身の未来を切り拓き、広く社会に貢献するために、グローバルな視野を持ち、困難な状況においてもたくましくしなやかに、積極果敢に挑戦する姿勢を示す。また、「教育の筑波」としての伝統を継承し、情熱をもって教育を实践し、周囲と協働してリーダーシップを発揮できる。
学部等名 医学群 看護学類
(概要) ★学士（看護学） 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（看護学）の学位を授与します。 ●教養教育（リベラルアーツ）の学習に裏付けられた専門科目を修得している。 （関連するコンピテンス：看護における対象理解、看護の専門知識・技術） ●科学的根拠に基づいた知識・技術、および高度看護専門職にふさわしい倫理観と態度を身につけている。 （関連するコンピテンス：科学的根拠に基づく看護の実践力、看護倫理とケアリング） ●自ら新たな知識・技術を学ぶ態度と習慣を身につけ、未知の問題を解決する能力を獲得している。

(関連するコンピテンス：科学的根拠に基づく看護の実践力) ●生涯にわたって自己学習を継続する能力を備えている。 (関連するコンピテンス：看護職としてのキャリア形成力) ●国際的な動向の理解、多様な視点から看護の役割を探究する能力を身につけている。 (関連するコンピテンス：医療における連携・協働、国際的な看護の視点) ★学士（ヘルスケア） 筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ医学群学位プログラムの学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（ヘルスケア）の学位を授与します。 ●教養教育（リベラルアーツ）の学習に裏付けられた専門科目を修得している。 (関連するコンピテンス：ヘルスケアのニーズに対する理解、ヘルスケアの専門知識・技術) ●科学的根拠に基づいた知識・技術、およびヘルスケアサービスの専門職にふさわしい倫理観と態度を身につけている。 (関連するコンピテンス：学際的視点に基づいたヘルスケア、ヘルスケアと倫理) ●自ら新たな知識・技術を学ぶ態度と習慣を身につけ、未知の問題を解決する能力を獲得している。 (関連するコンピテンス：学際的視点に基づいたヘルスケア) ●生涯にわたって自己学習を継続する能力を備えている。 (関連するコンピテンス：ヘルスケアの場に対するキャリア形成力) ●国際的な動向の理解、多様な視点からヘルスケアサービスの専門職としての役割を探究する能力を身につけている。 (関連するコンピテンス：ヘルスケアにおける連携力、国際的なヘルスケアの視点)
学部等名 医学群 医療科学類
(概要) ★学士（医療科学） 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ医学群医療科学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（医療科学）の学位を授与します。 ●人間に関する幅広い知識を身に付け、生命の尊厳と倫理を尊重する人間観を学んでいる。 ●人間科学の学習に必要な基礎知識と技能ともに、人間の健康と疾病に関する医学的知識を修得している。 ●臨床検査技術に関する基礎的な知識、技能を身につけ、臨床検査技師に必要な専門科目を修得して、臨床検査技師として備えるべき基礎学力、臨床能力ならびに倫理性を身につけている。 ●医科学分野における研究開発を経験し、自ら研究を推進する幅広い基礎学力、情報収集能力ならびに自学自習能力を獲得している。 ●チーム医療の役割を理解し、臨床検査技師として行動する基礎能力と医療コミュニケーション能力を獲得している。 ★学士（国際医療科学） 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ医学群医療科学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（国際医療科学）の学位を授与します。 ●人間に関する幅広い知識を身につけ、生命の尊厳と倫理を尊重する人間観を学んでいる。 ●人間科学の学習に必要な基礎知識と技能とともに、人間の健康と疾病に関する医学的知識を修得している。 ●医科学分野における研究開発を経験し、自ら研究を推進する幅広い基礎学力、情報収集能力ならびに自学自習能力を獲得している。

●医科学研究の原理と基本的な技術を身につけている。 ●医学の分野において世界的に活躍できる基礎学力、技能、研究コミュニケーション力を修得し、国際的な問題を解決するために学ぶ態度と探索能力ならびに対応立案能力を獲得している。
学部等名 体育専門学群
(概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ学群の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（体育学）の学位を授与します。 ●幅広い運動に関する基本的な技能と初心者に対する指導力を身に付けている。 （関連するコンピテンス：コーチング学を理解、コーチング学の応用展開力） ●特定の運動種目に関する高い運動能力とアスリートに対する指導力を身に付けている。 （関連するコンピテンス：コーチング学を理解、コーチング学の応用展開力） ●体育・スポーツ、健康、コーチングに関する幅広い知識と理論を身に付け、それらを今後の社会との関係から体系づける能力を身に付けている。 （関連するコンピテンス：体育・スポーツ学を理解、健康体力学の理解、コーチング学の理解） ●体体育・スポーツ、健康、コーチングに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組むことができる能力を身に付けている。 （関連するコンピテンス：体育・スポーツ学の分析能力、健康体力学の分析能力、コーチング学の応用展開力） ●嘉納治五郎先生の「精力善用・自他共栄」「一世化育」の理念を理解し、体育・スポーツ組織をマネジメントするためのリーダーシップやコミュニケーション力（外国語能力を含む）を身に付けている。 （関連するコンピテンス：キャリア形成力）
学部等名 芸術専門学群
(概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ芸術に関する学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（芸術学）の学位を授与します。 ●創造的表現力 芸術に関する独創的で柔軟な発想や思考を、美術・デザインの専門的知識・技能を駆使して適切に表現できる。 ●問題解決能力 現代における美術・デザインに関する諸問題を自発的に見出し、習得した知識・技能を活用して柔軟な考察と的確な判断によって解決できる。 ●幅広い知識に基づく論理的思考力 学際的・国際的な教育による幅広い視野と専門的な知識・経験に基づき、多様な諸課題に対して論理的な思考ができる。 ●感性豊かなコミュニケーション能力 形による感性の発信力や感性を共有し協働する能力を培い、豊かでクリエイティブな人間関係を形成するコミュニケーションができる。 ●自律的・社会的な創造活動のための基礎力 社会における芸術の意義と役割を理解し、美術・デザインの専門家として自律的に創造活動を継続できる。
学部等名 学際サイエンス・デザイン専門学群

(概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本専門学群の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（学術）の学位を授与します。 ●データサイエンスを理解し利活用できる能力が身についている。 ●地球規模課題解決の観点から、自然科学、人文社会科学を理解し利活用できる能力が身についている。 ●環境学を理解し地球規模課題解決のために利活用できる能力が身についている。 ●多様な他者に敬意を払いつつ円滑なコミュニケーションをとる能力が身についている。 ●日本文化や伝統の理解を通じた多様な価値観に基づき思考する能力が身についている。	
学部等名 地球規模課題学位プログラム	
(概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ地球規模課題学位プログラムの人材養成目的に基づき所定の年限在学し、所定の単位数を修得した者に学士（学術）の学位を授与します。学位プログラムの卒業にあつては、以下の各号に到達していることを目標とします。 ●文理融合の立場から、地球規模課題を俯瞰できる幅広い知識を修得していること。 （関連するコンピテンス：基礎的知識、情報解析力、専門的知識） ●地球規模課題に関して、体系的な専門知識を身に付け、多角的な視点から総合的に分析し、創意工夫によって課題解決に取り組む能力を修得していること。 （関連するコンピテンス：基礎的知識、情報分析力、専門的知識、問題発見・解決能力） ●グローバル社会において自分自身の見解を論理的かつ説得的に主張しつつ、他者の意見にも十分耳を傾ける柔軟なコミュニケーション能力を有し、異分野・異文化の環境において積極的にリーダーシップを発揮し、社会に貢献できる能力を修得していること。 （関連するコンピテンス：論理的コミュニケーション能力、問題発見・解決能力、提言力） ●グローバル社会における高い倫理観及びダイバーシティに関する理解能力を修得していること。 （関連するコンピテンス：基礎的知識、専門的知識、問題発見・解決能力）	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	筑波大学
設置者名	国立大学法人筑波大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.tsukuba.ac.jp/about/disclosure-misc/teikyo-22/index.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.tsukuba.ac.jp/about/disclosure-misc/teikyo-22/index.html
財産目録	－
事業報告書	https://www.tsukuba.ac.jp/about/disclosure-misc/teikyo-22/index.html
監事による監査報告（書）	https://www.tsukuba.ac.jp/about/disclosure-misc/teikyo-22/index.html

2. 事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：_____）	対象年度：_____）
公表方法：_____	
中長期計画（名称： 第4期中期目標・中期計画 対象年度：令和4年度～令和9年度）	
公表方法： https://www.tsukuba.ac.jp/about/disclosure-public/publicity-term/pdf/r4_r9chuuki.pdf	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法：<https://www.tsukuba.ac.jp/about/disclosure-statistics/>

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法：<https://www.tsukuba.ac.jp/about/disclosure-statistics/>

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人文・文化学群
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/) (概要) 人文系と文化系の多様な学問領域における古今東西の高度な専門知識のみならず、豊かな教養、国際的視野、優れたコミュニケーション能力を身につけ、異文化および自国文化に対する深い理解力を持つ、グローバル社会の中で真に活躍できる人材を養成します。
学部等名 人文・文化学群 人文学類
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/) (概要) 「人間とは何か」という問いを根底におき、人間存在とその諸活動の所産としての文化全般について主体的に考察しうるとともに、グローバル化が進展する世界における諸問題に積極的に関与し発言しうる、真に教養ある人材を養成します。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/) (概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（人文学）の学位を授与します。 ●専門的能力…人文系の諸学問分野の専門的知識と固有の方法論とを修得し、それに基づいて自らの取り組む問題に関する文献や原資料を調査・収集・分析することを通して、実証的に自身の考えを構築し不断に更新していくことができる。 (関連するコンピテンス：哲学の理解、史学の理解、先史学・考古学の理解、民俗学・文化人類学の理解、言語学の理解、資料読解・分析力、ディスカッション力、情報収集力・状況対応力、論理構成力・研究力) ●コミュニケーション能力…外国語やコンピュータを的確に駆使しながら、他者に自らの考えを論理的に伝達するとともに、他者の考えを十分に理解し、対話を通じて相互に了解可能な共通認識に到達することができる。 (関連するコンピテンス：資料読解・分析力、ディスカッション力) ●想像力…「人間とは何か」という問いに根差して知性と感性を磨き、人間存在とその諸活動の所産としての文化全般に鋭い洞察を加え、現代世界の諸課題の発見と解決に果敢に挑戦し、人類の未来へとまなざしを向けることができる。 (関連するコンピテンス：情報収集力・状況対応力)
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/)

学士（人文学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

●総合的な方針

哲学、史学、考古学・民俗学、言語学という四つの主専攻を置き、各主専攻には専門分野毎にコース（全体として11コース）を設け、1年次から卒業まで段階的に専門知識を深く身につける充実した学修カリキュラムを提供しています。また、各授業は基本的に春学期と秋学期で完結するカリキュラムとし、在学中の海外留学などに柔軟に対応できるようにしています。

●順次性に関する方針

教育課程前半では、専門分野に関する基礎的な能力を育てつつ、「総合智教育」の理念に基づいて豊かな教養の涵養を重視します。教育課程後半では専門分野に関する洞察をより深め、卒業研究につながる教育内容を提供します。

・1年次には「専門導入科目」などを通じて、人文科学一般に関する広い知識を伝えるとともに、各種の共通科目によって主体的な思考の基礎となる教養を育てます。それと並行して「専門基礎科目」を通じて専門を学ぶための基礎を養います。

・2年次から3年次に主専攻・コースを選択し、各分野の研究の方法論を身に付け、問題解決能力を高めます。同時に、現代世界の諸問題に対する人文学的視点の重要性を意識させるとともに、実習授業などで直接的に社会との連携や対話を深めます。さらに、演習授業では、教員・学生間の対話を通して自己発信能力を向上させます。また、早くから「人間とは何か」という問いに立脚した卒業研究に向けての問題意識を高めます。こうして身につけた幅広い教養と専門的能力に基づき、4年次で卒業論文を作成させます。

●実施に関する方針

学生の志望を尊重し、主専攻・コースは主体的に選択させます。教員が学生の学修状況を詳しく把握し、学修の進展に応じて適切な課題を与えることが可能な少人数教育を重視しています。また、多くの教室では映像や音声メディアも駆使した授業を受けられる設備が整っているとともに、PCサテライトを利用して学修する環境も整えています。

●学修成果の評価に関する方針

それぞれの授業科目では、教員が厳正な教育評価を実施します。2年次末には、各コースが指定している専門基礎科目が履修されているかを確認し、その結果に基づいてコースへの所属を決定します。4年次には、12月に提出される卒業論文の内容とそれについての口頭試問の結果を総合的に評価し、学類が定める学位授与の方針における目標に到達しているか判断します。

●特色

一定の範囲内で、他コースや他主専攻、他学類の授業も履修し、幅広い視野を身につけられるような教育課程を編成しています。また、在学中に最低二つの外国語を重点的に学び、幅広いコミュニケーション能力を身に付けることができるようにしています。さらに、留学先で履修した授業の単位の認定が可能です。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/admission-policy/>）

（概要）

●求める人材

人文系の学問に必要な論理的な思考力と表現力を十分に持つと同時に、世界の多様な文化や歴史に対して開かれた関心を持ち、自律的な学習と批判的な考察を通して問題を自ら発見し、解決していく能力と意欲を有する人材。

●入学までに学んでおいてほしいこと

人文系の学問の基礎となる言語や社会に関する学科について十分な能力を習得し、希望する専攻分野に関連する他の学科についても基礎的な知識を有していることが望ましい。

●人材養成目的

「人間とは何か」という問いを根底におき、人間存在とその諸活動の所産としての文化全般について主体的に考察しうるとともに、グローバル化が進展する世界における諸問題に積極的に関与し発言しうる、真に教養ある人材を養成します。

(入学者選抜方針) ●個別学力検査等（前期日程） 入学後の学習に必要な基礎学力と思考力を十分に持ち、人文系の学問に取り組むことのできる人材を選抜します。 ●個別学力検査等（後期日程） 論理的な思考力と表現力を持つと同時に、旺盛な知識欲と探求心を有し、人文系の学問への適応性を示す人材を選抜します。 ●推薦入試 高等学校における学習の基礎をしっかりと身につけた志願者の中から、個性豊かな課題意識と向上心を持ち、人文系の学問への適応性を示す人材を選抜します。 ●ＡＣ入試 人文系の学問に関わる専門知識を主体的に吸収し、自己の判断力を磨いていく能力と創造的な問題解決能力を有する人材を選抜します。 ●国際バカロレア特別入試 人文系の学問に強い関心を抱くと同時に、旺盛な知識欲と探究心を持ち、よりグローバルな観点から新たな問題提起をなし得る発展性のある人材を選抜します。 ●外国学校経験者特別入試 第１種）人文系の学問に関する強い関心と論理的な思考力を持ち、入学後の学業遂行に必要な知識と日本語能力を備えている者を選抜します。
学部等名 人文・文化学群 比較文化学類
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/)
(概要) 人類が築いてきた様々な文化を、「学際性」と「現代性」という問題意識のもとに比較・検討し、それを通じてひとつの学問分野に閉ざされることのない、開かれた知と批判的思考力を持った人材を育成します。また、国際的なコミュニケーション能力によって、グローバル化する社会に求められる問題解決能力と交渉力を備えた人材を育成します。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/)
(概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（比較文化）の学位を授与します。 ●ひとつの学問領域に留まることのない、複眼的な知力と逞しい問題解決能力を備えている。 (関連するコンピテンス：文化事象の理解力、文化的課題への対応力) ●文献資料のみならず多様なメディアやフィールドを広く調査し、批判的に情報を解釈する能力を備えている。 (関連するコンピテンス：文化事象の理解力、文化的現象の分析力) ●独創的な着眼点、徹底した資料収集、堅実で粘り強い文献読解、卓抜な構成力、論理的一貫性などを有した、高度な論文執筆能力を備えている。 (関連するコンピテンス：文化事象の理解力、文化的現象の分析力) ●自国の文化伝統を踏まえつつ、グローバル化する社会の文化的多様性を理解する姿勢と教養を備えている。 (関連するコンピテンス：文化的課題への対応力、国際的な主体性) ●グローバル化する社会に貢献できる国際的なコミュニケーション能力を備えている。 (関連するコンピテンス：国際的なコミュニケーション能力) ●多様な文化的環境に主体的に働きかけ、チームワークのもとで活動を遂行する能力を備えている。

(関連するコンピテンス：国際的なコミュニケーション能力、国際的な主体性)
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/)
学士（比較文化）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。 ●総合的な方針 複数の学問領域を横断的に履修できる学際的で柔軟性に富む編成に留意し、学生ひとりひとりの問題意識とキャリア展望に対応する教育課程の構築を心がけます。また、国際的なコミュニケーション能力や異文化理解力を身につけるために、授業を含めた様々な機会を数多く提供するように努めます。 ●順次性に関する方針 ・1年次は主として入門的・概論的な科目や、共通科目の外国語を必修としています。各領域では文献研究やフィールドワークなどの前提となる学問の基礎的方法を身につける6領域に関する比較文化研究、概括的な知識を学ぶ概論科目を提供し、複数の学問の基礎知識を広く身につけることを目指します。1年次末に、1年次ガイダンスを実施の上、1年次研究計画案を提出させ、2年次以降の専門的な学習についての指導を行います。 ・2年次は興味のあるいくつかの領域の専門導入基礎演習および専門科目を履修するとともに、今日のグローバル社会に求められる国際コミュニケーション能力を確実に身につけるために、中級の専門外国語科目を学びます。また2年次後半では、より専門的に深く学ぶために、どの領域・コースに属するかについて考えます。2年次ガイダンスを実施し、2年次研究計画案を提出させ、領域やコースの選定に向けての指導を行います。 ・3年次は領域・コースの所属を確定し、そこで提供されている専門科目や卒業論文基礎演習を本格的に履修します。3年次ガイダンスを実施し、3年次研究計画案を提出させ、教員との緊密な交流の中で卒業論文に向けて自分自身の研究課題を深めていきます。引き続き上級の専門外国語を履修します。 ・4年次は卒業論文の制作を軸に、一つのテーマを巡って様々な文献の精読、フィールドワーク、ディスカッションを行います。教員との議論を通じて論理性を鍛えていきます。卒業論文中間発表会を実施し、卒論の進捗状況についてアセスメントと指導を行います。 ●実施に関する方針 「地域文化研究」、「超域文化研究」という2つの「領野」の下に、複数の地域や学問分野を包含した6領域を設定し、学際的な文化研究の履修が可能となるように配慮するとともに、単なる知識の修得を超えた知力・コミュニケーション能力の育成と、演習形式の授業を重視します。外国語では、英語はディベートや論文指導も含む多様な内容の授業を展開し、英語以外にドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語に加え、朝鮮語、さらにはギリシャ語、ラテン語、インド古典語など、多数の外国語の授業を提供し、少人数での実践的な語学教育を行います。 ●学修成果の評価に関する方針 各授業科目では、担当教員が厳正な教育評価を実施します。 4年次末には、単位取得状況、卒業論文口頭試問の結果、ならびに各コンピテンスが身についているかを学修成果として総合的に評価し、卒業判定を行います。 ●特色 「国際性の日常化」を重視し、大学院留学生がTAとして積極的に授業に参画します。さらに正規カリキュラムにはない言語を大学院留学生TA主導の課外活動として修得することが可能です。これらを含む留学生との交流の場が豊富に設けられます。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/admission-policy/） (概要)
●求める人材 ・自らの問題意識を出発点として、さまざまな学問領域に関心を寄せながら、文化・社会に

ついて広く柔軟に学ぶ意欲を持つ人。 ・異文化理解に裏付けられたグローバル・コミュニケーション能力を身につけようとする人。 ・海外経験・社会経験などを通じて得た問題意識を学問的に深めたい人。 ●入学までに学んでおいてほしいこと 日本語及び外国語に関する優れた能力、特に文化・社会に対する旺盛な好奇心と高い教養を身につけておくことが望ましい。また、希望する学問領域に関連する社会科科目の知識を備えていることが望ましい。 ●人材養成目的 人類が築いてきた様々な文化を、「学際性」と「現代性」という問題意識のもとに比較・検討し、それを通じてひとつの学問分野に閉ざされることのない、開かれた知と批判的思考力を持った人材を育成します。また、国際的なコミュニケーション能力によって、グローバル化する社会に求められる問題解決能力と交渉力を備えた人材を育成します。 (入学者選抜方針) ●個別学力検査等(前期日程) 文化・社会に強い関心と知識を持ち、学業遂行の上で必要な能力と知識を有する者を選抜します。特に勉学に対する意欲と論理的思考力、表現力を重視します。 ●推薦入試 文化・社会に強い関心と知識を持ち、それを自分自身の言葉で表現する能力を重視して選抜します。 ●A C入試 文化・社会に強い関心と知識を持ち、特定の専門分野について具体的で個性的なテーマを設定し、そのアプローチと内容に関して独自の研究成果を挙げている者を選抜します。 ●国際バカロレア特別入試 自立して世界的に活躍できる人材を育成するため、本学類の教育を受けるのに必要な基礎学力を有し、探究心旺盛で積極性・主体性に富む人材を受け入れます。 ●外国学校経験者特別入試 第1種)文化系の学問に関する強い関心と論理的思考力を持ち、入学後の学業遂行に必要な知識と日本語能力を備えている者を選抜します。
学部等名 人文・文化学群 日本語・日本文化学類
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/) (概要) 日本における言語・文化事象を総合的に捉え、グローバルな視点で理解する力を養います。これにより、多文化共生社会を見据えたうえで、異言語・異文化を背景とする人たち、次世代の人たちと課題を共有し、ともに解決していくことのできる文化の創造者たる人材を養成します。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/) (概要) ★学士(文学) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力(汎用コンピテンス)および本学群・学類の人材養成目的に基づく修得すべき知識・能力(専門コンピテンス)を身につけ、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士(文学)の学位を授与します。 ●グローバルな視点から日本における言語・文化事象を総合的に捉えるための専門知識(言語学、日本語教育学、文化人類学、歴史学、文学など)と分析能力とを修得している。 (関連するコンピテンス：1. 言語事象を構造的に分析する力、2. 言語事象を社会・人間

との関わりで捉える力、3. 文化事象をテキスト内在的に捉える力、4. 文化事象を社会・人間との関わりで捉える力)

●異言語・異文化を背景とする人たち、次世代の人たちと課題を共有し、ともに解決していくことのできる異文化間課題解決能力および社会的実践力を身につけている。

(関連するコンピテンス：5. 異文化間課題解決能力、6. 社会的実践力)

★学士（日本語教育学）

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）および本学群・学類の人材養成目的に基づく修得すべき知識・能力（専門コンピテンス）を身につけ、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（日本語教育学）の学位を授与します。

●グローバルな視点から日本における言語・文化事象を総合的に捉えるための専門知識（言語学、日本語教育学、文化人類学、歴史学、文学など）と分析能力とを修得している。

(関連するコンピテンス：1. 言語事象を構造的に分析する力、2. 言語事象を社会・人間との関わりで捉える力、3. 文化事象をテキスト内在的に捉える力、4. 文化事象を社会・人間との関わりで捉える力)

●異言語・異文化を背景とする人たち、次世代の人たちと課題を共有し、ともに解決していくことのできる異文化間課題解決能力および社会的実践力を身につけている。

(関連するコンピテンス：5. 異文化間課題解決能力、6. 社会的実践力)

●専門知識に基づき、地域社会のリーダーとなって、企業活動・市民活動をけん引することのできるリーダーシップ力を身につけている。

(関連するコンピテンス：7. リーダーシップ力)

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/>)

(概要)

★学士（文学）

●総合的な方針

すべての学生が言語学、日本語教育学、文化人類学、歴史学、文学などに関する知識を幅広く学ぶように一専攻制を採用しています。また、知識教育だけでなく、実習やインターンシップを通して学ぶ実践性を重視した授業科目を提供しています。

さらに、海外で学ぶ国際研修、留学生とともに調査・研究を行う協働授業、留学生をサポートするためのチューター制度を通して、現地・現場はもちろん、日常の学習の場を通して多文化共生のあり方を理解できるよう教育課程を編成しています。

●順次性に関する方針

・1 年次…共通科目および他学類のカリキュラムから幅広く専門基礎科目を履修することで、広い視野のなかで、自らの専門分野を発見し位置づけます。

・2 年次…専門科目を通して、言語学、日本語教育学、文化人類学、歴史学、文学などに関するバランスのとれた知識の獲得を目指します。さらに、実習、留学生との合同授業、国際研修などの実践的な科目を通して、異言語・異文化との接触の中で、自国語・自文化に対する問題意識を醸成します。同時に、専門英語などを通して、研究および発信ができる外国語力（特に英語力）を身につけます。

・3 年次…演習などのより専門的な科目を履修しながら、卒業研究のテーマ設定に向けて、総合的かつより高度な知識と研究方法を身につけます。さらに、実習などの実践的な科目において、問題意識を深め、課題解決のための応用力・実践力を向上させます。

・4 年次…卒業論文執筆を通して、全人格的・総合的な分析能力を高め、問題発見、解決能力の統合をめざします。

●実施に関する方針

・学年別説明会を開催し、カリキュラムに関して定期的な全体指導を行います。

・3 年次に総合演習を設けて、専門科目の学修から卒業論文作成への架け橋となるような指導を行います。複数教員によるグループ指導によって各教員の専門性を生かしつつ総合的な研究指導を行うとともに、卒業論文作成で学生に求められる個別能力の強化を目指し

て、チュートリアル指導も提供します。

・海外で実施する国際研修やインターンシップ、国内で行うフィールド実習、さらに情報リテラシーなどの授業を通して、実践的な場面でのコミュニケーション能力や課題解決能力の獲得をめざします。

●学修成果の評価に関する方針

直接評価と間接評価を組み合わせ、授業形態に応じた評価方法を定めることで、学生の能力と主体性を多角的に評価します。また、年次ごとに学生の修得したコンピテンスを把握し評価することで、学生の学修計画の改善に役立てます。

★学士（日本語教育学）

●総合的な方針

すべての学生が言語学、日本語教育学、文化人類学、歴史学、文学などに関する知識を幅広く学ぶように一専攻制を採用しています。また、知識教育だけでなく、実習やインターンシップを通して、実践力・リーダーシップ力を育成する授業科目を提供しています。さらに、海外で学ぶ国際研修や、多様な言語・文化的背景を持つ学生とともに調査・研究を行う協働授業を通して、多文化共生のあり方を理解できるよう教育課程を編成しています。

●順次性に関する方針

・1年次…入学後半年間は集中日本語教育を受け、その後は、共通科目および他学類のカリキュラムから幅広く専門基礎科目を履修することで、広い視野のなかで、自らの専門分野を発見し位置づけます。

・2年次…専門科目を通して、言語学、日本語教育学、文化人類学、歴史学、文学などに関するバランスのとれた知識の獲得を目指します。さらに、実習や国際研修などの国内外での学修活動を通して、より広い視野の中で、日本語・日本文化に対する問題意識を醸成します。同時に、専門英語などを通して、研究および発信ができる外国語力（特に英語力）を身につけます。

・3年次…演習などのより専門的な科目を履修しながら、卒業研究のテーマ設定に向けて、総合的かつより高度な知識と研究方法を身につけます。さらに、「Japan-Expert インターンシップ」等の実習を通して問題意識を深め、課題解決のための応用力・実践力・リーダーシップ力を向上させます。

・4年次…卒業論文執筆を通して、全人格的・総合的な分析能力を高め、問題発見、解決能力の統合をめざします。

●実施に関する方針

・日本語教育コーディネーターを配置し、学修等について支援します。さらに、学年別説明会を開催し、カリキュラムに関して定期的な全体指導を行います。

・3年次に総合演習を設けて、専門科目の学修から卒業論文作成への架け橋となるような指導を行います。複数教員によるグループ指導によって各教員の専門性を生かしつつ総合的な研究指導を行うとともに、卒業論文作成で学生に求められる個別能力の強化を目指して、チュートリアル指導も提供します。

・実習やインターンシップの説明会を行うなど学生への情報提供に努め、参加費用のための奨学金の獲得にも力を入れています。

●学修成果の評価に関する方針

直接評価と間接評価を組み合わせ、授業形態に応じた評価方法を定めることで、学生の能力と主体性を多角的に評価します。また、年次ごとに学生の修得したコンピテンスを把握し評価することで、学生の学修計画の改善に役立てます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/admission-policy/>）

（概要）

●求める人材

旺盛な知的好奇心を持ち、日本語や日本文化、さらに多文化共生社会のあり方に対する明確な問題意識とそれに対応した能力を有する人材を求めています。

●入学までに学んでおいてほしいこと 日本語および外国語に関して、十分な読解力と自分の考えを明確に伝える表現力を高めておくことが望ましい。 ●人材養成目的 日本における言語・文化事象を総合的に捉え、グローバルな視点で理解する力を養います。これにより、多文化共生社会を見据えたうえで、異言語・異文化を背景とする人たち、次世代の人たちと課題を共有し、ともに解決していくことのできる文化の創造者たる人材を養成します。 (入学者選抜方針) ●推薦入試 高等学校における平素の学習や活動の成果などを基に、志願者の能力・適性を総合的に評価します。明確な問題意識と勉学への意欲とを持ち、日本語や日本文化、さらに多文化共生社会のあり方に関する専門領域に対する適応性を示す人材を選抜します。 ●ＡＣ入試 日本語や日本文化、多文化共生社会のあり方について独自の視点を持ち、自ら問題を見出し、解決する能力を重視して選抜します。 ●国際バカロレア特別入試 国際バカロレア資格を取得した者を対象として、日本語や日本文化、多文化共生社会のあり方に対する旺盛な知的好奇心と明確な問題意識を持ち、国際的な視野に立って自ら問題を見出し、解決する能力を有する人材を選抜します。語学力を含めたコミュニケーション能力を重視し評価します。 ●Japan-Expert (学士)プログラム 日本語、日本文化に幅広い興味を有し、将来、国内外において日本での就学・就労や日系企業での就労を希望する者に日本語を教える日本語教師への適応性を有する人材を選抜します。
学部等名 社会・国際学群
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/) (概要) 社会科学分野を基本としつつ環境学や情報学等の分野も加えた総合的な知の体系と、専門性に裏付けられた方法論を身に付け、グローバル化する社会で生起する複雑な諸問題を的確に理解し、分析する能力を備え、社会の要請に柔軟かつ独創的に対応できる人材を育成します。
学部等名 社会・国際学群 社会学類
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/) (概要) 社会学・法学・政治学・経済学の専門知識を集中的に深める教育を提供するだけでなく、各分野の基礎知識を総合的に修得するための横断的な教育も併せて実施することで、社会科学全般のジェネラルな視点に裏打ちされた高い専門性を発揮しうるグローバル（グローバル＋ローカル）志向の人材養成を目指します。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/)

(概要)

★学士（社会学）

筑波大学学士課程の教育目標に基づき、必要とされる知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ社会・国際学群社会学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（社会学）の学位を授与します。

●社会学・社会科学を広く学びつつ、多様な社会学各論の視座や方法を関連づけて理解し、複雑化する現代社会を多角的な視点でとらえることができること。

（関連するコンピテンス：社会科学の基礎、社会科学の素養）

●既存の社会制度や慣習にみられる「常識」を改めて対象化して問題化し、これを分析する能力や社会のあるべき姿を総合的に構想する力を習得していること。

（関連するコンピテンス：社会問題の発見、社会的事象の理解・分析、社会問題の解決）

●社会的な事象を社会学的に記述し、問題提起していくコミュニケーション能力を身につけていること。

（関連するコンピテンス：社会科学的な表現・議論、実社会での応用）

★学士（法学）

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ社会・国際学群社会学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（法学）の学位を授与します。

●法の役割と存在意義に関する深い考察を通して、社会の在り方に対する関心を持ち続け、広い視野で問題を解決する能力を獲得する。

（関連するコンピテンス：社会科学の基礎、社会科学の素養、社会問題の解決）

●法学の専門知識に関し、憲法・民法・刑法等に代表される基本的な法の概念から演繹して現実社会の事象を理解できる体系的理解力と論理的思考力を獲得する。

（関連するコンピテンス：社会的事象の理解・分析）

●自ら発信した受信する、双方向の法的コミュニケーション能力を身に付ける。（関連するコンピテンス：社会科学的な表現・議論）

●社会事象の中に法的な問題点を発見する力と、問題の核心を捉える洞察力を修得する。

（関連するコンピテンス：社会問題の発見、実社会での応用）

★学士（政治学）

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ社会・国際学群社会学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（政治学）の学位を授与します。

●グローバル化・複雑化・多様化する政治現象を、それを取り巻く現代社会の諸現象と関連づけて学際的・総合的に理解する能力を修得している。

（関連するコンピテンス：社会科学の基礎、社会科学の素養、社会的事象の理解・分析）

●政治学の専門知識を体系的に理解し、政治現象を批判的・多角的に分析・考察する能力、混乱する社会における政策課題を発見し、政治学の立場からその解決法を導き出す能力を修得している。

（関連するコンピテンス：社会的事象の理解・分析、社会問題の発見、社会問題の解決）

●政治学の専門知識に基づく分析・考察を文章・口頭によって論理的に表現し、相互に議論する能力を身に付け、社会各界や自己が所属する組織・集団をリードする力を備えている。

（関連するコンピテンス：社会科学的な表現・議論、実社会での応用）

●政治的・社会的な問題に対して、公共性に立脚した自律的な市民としての責任感や倫理観を身に付けている。

（関連するコンピテンス：社会問題の発見、社会問題の解決、実社会での応用）

★学士（経済学）

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ社会・国際学群社会学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標

に達したと認められる者に、学士（経済学）の学位を授与します。

●経済分析に必要な技術的能力を修得していること。ミクロ経済学、マクロ経済学など、経済学の基礎となる科目、さらに経済数学や計量経済学など、理論と実証分析に必要な手法を学ぶ科目を履修して、分析のための技術・知識を修得すること。

（関連するコンピテンス：社会科学の基礎、社会科学の素養、社会的事象の理解・分析、社会科学的な表現・議論）

●経済学の専門知識を体系的に身につけていること。専門科目の選択履修により、経済学のより深い専門的な知識を修得すること。

（関連するコンピテンス：社会的事象の理解・分析、社会問題の解決）

●経済理論と歴史・現状に関する知識を合わせた総合的な分析能力を身につけていること。現代経済史、地域経済論、日本経済論などの履修によって、経済問題に対する幅広い理解を体得すること。

（関連するコンピテンス：社会科学の基礎、社会科学の素養、社会問題の発見、社会的事象の理解・分析、社会科学的な表現・議論）

●経済問題、社会問題に対する広い関心と洞察力を備えていること。演習科目の履修によって、経済学のツールを社会の諸問題に適用する能力を獲得すること。

（関連するコンピテンス：社会科学の素養、社会問題の発見、社会的事象の理解・分析、社会問題の解決、社会科学的な表現・議論、実社会での応用）

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/>）

（概要）

★学士（社会学）

学士（社会学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

●総合的な方針

社会学・法学・政治学・経済学が同じ学類の中に存在するという最大の特長を生かし、社会科学を総合的に学ぶことによって、広い視野と総合性を習得できるようにします。そのうえで、社会学に関する次のような力を育てることを方針とします。

- ・社会学的な関心や視座に関する知識の習得と、調査・分析する力や理論的な記述・表現する力など社会学的な実践力の習得をめざし、順序性に配慮して編成します。

- ・学生の主体的な取り組みを促すために、各自の興味関心に即して問題意識を育み、それに基づく学習ができるよう、自由な科目選択の可能性に配慮します。

●順次性に関する方針

- ・1年次では、社会学的知識の基礎に関する科目（専門基礎科目）を配置します。また社会科学に関する基礎的知識と広い視野を養うことができる法学・政治学・経済学の専門基礎科目を開設しています。

- ・2～3年次では、専門基礎科目群に並行して、広範囲にわたる社会学的諸テーマのそれぞれに関する専門科目群、社会学の研究法に関する科目群を配置します。少人数による演習や実習は、それらを自ら実践することを目指します。いずれも学生の関心にあわせて選択できるように配慮します。

- ・4年次には、引き続き社会学的知識に関する専門科目群、社会学的な実践に関わる演習や実習、卒業論文演習などの科目を配置し、卒業論文においてそれらを融合した集大成の作品にすることを目指します。

●実施に関する方針

- ・社会制度や慣習をめぐる「常識」を相対化できる資料、教材の開発をします。

- ・個人の関心を尊重した課題の設定や資料の収集、分析の実践を行います。

- ・調査実習の実施や、講義におけるゲスト・スピーカーの活用など地域や現場との連携を図るとともに、理論と社会事象の統合を行います。

●学修成果の評価に関する方針

社会学主専攻の学修成果の評価は、教育課程編成・実施の方針に基づき、各授業科目の到達目標に達したかを、各教科のシラバスに記載されている評価方法によって適正に行う。

特に、社会学主専攻では学生が自主的な研究テーマ・課題を設定し卒業論文を執筆する。「卒業論文演習」科目の評価、及び論文の完成度の評価において、学位授与の方針で定められた学修の目標及び水準に達したと承認された場合に、社会学の学位を授与する。卒業論文執筆の過程では、卒業論文の中間報告会を開催し、指導教員を含む複数の教員による評価や助言を通して、論文の高い水準を保証できるシステムを実施している。以上、段階を追って編成された各過程科目の評価と、集大成としての卒業論文の公正な評価によって、学生は学問的かつ汎用的な高い水準の能力を修得することになる。

★学士（法学）

学士（法学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

●総合的な方針

法的な判断能力リーガルマインドの基層となるべき、幅広い柔軟な社会科学的素養を身に付ける機会を提供するとともに、法学の学問的特性を踏まえた段階的な学習と、実践的な知識の習得を可能とするような教育課程とします。

●順次性に関する方針

・1年次には、法学の基礎になる概念と知識を会得するために不可欠な専門基礎科目として法学概論と民事法概論を置き、必修としています。さらに、社会科学全般に関する幅広い知識と素養を得るための社会学・法学・政治学・経済学の「専門基礎科目」を開設しています。

・1年次・2年次には、3年次に法学主専攻に進学するために必要な基本科目として、主要3分野（憲法・民法・刑法）の中から「憲法Ⅰ・Ⅱ」「民法総則」「刑法総論」を配置しています。

・2年次・3年次には、主要3分野のそれ以外の科目や、商法、会社法、行政法等の科目を配置します。

・3年次・4年次には、民事訴訟法、刑事訴訟法、法哲学等の科目や、より専門性の高い科目、さらには少人数での討議や教員との対話を通じた学習に重点を置いた演習科目を配置し、それまでに培った法学の基本的な理解の上に、法的知識の応用力の獲得と、特定のテーマについての調査・分析の方法への習熟や法的なコミュニケーション能力の習得を目的とします。

●実施に関する方針

・学士（法学）として必須の基本的な法理論と知識の習得に加えて、現在および将来に想定される社会問題にも対処できる人材を養成するにあたり、学生が法学の学習に興味を抱くような手法を取り入れます。

・模擬法廷を利用した具体的かつ臨場感のある授業、裁判所等の施設の見学、社会と法とのつながりを実感できる最新の資料や映像を用いた資料の利用や作成、そして特色ある演習の充実を図ることにより、上記方針の実現を目指します。

・他大学との合同ゼミや国内外の主要大学が参加するイベントへの出場を通じて、習得した知識とコミュニケーション能力とを総合的に発揮する場を提供します。

●学修成果の評価に関する方針

法学主専攻を担当する教員が開設する授業科目では、基本的にシラバスに沿った方法により、各教員が厳正・公正な成績評価を行なっています。期末考査や中間考査はもとより、授業における教員からの質問に対する学生の発言や、演習での学生同士のディスカッションも重視し、答案用紙からだけでは読み取りにくい、所謂リーガルマインドの習得程度やディプロマ・ポリシーで想定しているコンピテンスの獲得のチェックを行なうように努めています。卒業論文は必修科目ではありませんが、卒業論文提出希望者には、中間発表の場を設け、指導教員を含めた法学主専攻担当教員が立ち会い、大学での学びの集大成となる論文完成に向けた各種アドバイスや、多方面からの質疑応答を行なうことにしています。なお、適切な教育内容であることの検証に役立てるため、ほぼ全ての科目において、授業アンケートを実施しています。

★学士（政治学）

学士（政治学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

●総合的な方針

社会学類では、社会科学における学際性と各主専攻の持つ専門性をバランスよく修得することを求めています。政治学主専攻は、広い視野と総合性、政治学の高い専門性を兼ね備え、公共性を身に付けた自律した市民を育成するため、政治学の基礎から専門・応用に至る段階的な教育課程を編成します。

具体的には、グローバル化・複雑化する政治現象を、それを取り巻く現代社会の諸現象と関連づけて学際的・総合的に理解する能力を修得するために、社会学・法学・経済学が同じ学類の中に存在するという最大の特長を生かし、社会科学を総合的に学ぶ教育課程を実施します。また政治学の専門知識を体系的に理解し、政治現象を批判的・多角的に分析・考察する能力、混迷する社会における政策課題を発見し、政治学の立場からその解決法を導き出す能力を修得するために、「政治学概論」と「国際政治史」を基礎とし、政治学の諸領域をより専門的に扱う科目群を学ぶ教育課程を実施します。政治学の専門知識に基づく分析・考察を文章・口頭によって論理的に表現し、議論する能力を身に付け、社会各層や自己が所属する組織・集団をリードする力を身に付けるために、「政治学入門演習」「演習Ⅰ～Ⅳ」「卒業論文」を実施します。

●順次性に関する方針

・1年次には、政治学を学ぶために不可欠な理論・思想・歴史を講義する専門基礎科目を置き、必修とします。また社会に対する基礎的知識と広い視野を養うことができる社会学・法学・政治学・経済学の専門基礎科目を開設します。

・2年次は、政治学の諸領域についての専門的知識を修得します。また「政治学入門演習」で政治学の基礎を演習形式で学び、「政治学外書講読」で政治学を英語でも理解できるようにします。

・3年次は、政治学の専門的知識をより深く修得し、「演習Ⅰ・Ⅱ」で自己の研究テーマを深めます。4年次は、「演習Ⅲ・Ⅳ」で自己の研究テーマについて追究し、卒業論文またはゼミ論文として完成させます。

●実施に関する方針

社会学類政治学主専攻が提供する講義科目は、原則として2単位・学期完結で実施します。必修の「演習Ⅰ～Ⅳ」は、少人数によって実施し、2人以上の教員の演習科目を履修します。

●学修成果の評価に関する方針（政治学）

政治学主専攻の学修成果の評価は、教育課程編成・実施の方針に基づき、履修学生が、講義および演習科目において設定されている到達目標を達成しているか、各教科のシラバスに記載されている評価方法を通じて適正に実施しています。特徴としては、3、4年次に2つ以上の演習を履修し、同時期に、複数の教員からの指導を受けることのできるカリキュラムを提供しています。選択科目である卒業論文については、原則として1人の教員が審査を担当していますが、演習を通じて実質的な集団指導を行っています。

★学士（経済学）

学士（経済学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

●総合的な方針

社会科学諸分野の基礎的学習の上に、経済学を主専攻として選択する学生については、経済学の論理的思考法に基づいて経済、社会の諸問題を考察し、その処方箋を考えることのできる力の育成を目指しています。まず、経済学を専門とするために必要となる経済学基礎論、現代経済史などの専門基礎科目と、専門科目であるゲーム理論入門を置き、それらの履修に続いて、2年次以降、さらに専門性を高めた科目（ミクロ経済学、マクロ経済学）を履修します。

学、実証分析入門、経済数学、地域経済論その他の専門科目)を選択させます。また1年次から高校レベル数学の経済学への応用の仕方を基礎経済数学(専門科目)によって育成し、順次、大学数学の応用まで段階的に教育していきます。これらの講義科目と並行して、教員と少人数で主体的な学習をする場として経済学演習科目を開設し、専門的な文献を読み込むこと、あるいは実験や視察研修に参加することを通して、授業で学んだ知識をさらに深め、応用する力を強化する機会を設けています。卒業論文は必修ではありませんが、自主的な研究課題にチャレンジすることで、4年間の学習で身に付けた経済学の知識をさらに深化させ、先端的な研究レベルの学問に取り組む機会として、推奨しています。

●順次性に関する方針

2年次終了時の主専攻分野の決定で「経済学」を選択する学生は、専門基礎科目のうち、「経済学基礎論」と「現代経済史」の履修が必修です。このほか、経済学の思考法の理解を確実なものとするために、経済理論(ミクロ、マクロなど)、経済数学、実証分析、経済史などが選択専門科目として提供されており、2年次以降、順次選択して履修します。

1、2年次の学習で得た、経済学の基礎的な知識や思考法の理解に基づいて、3、4年次では、より高度な専門知識を習得し、応用力を養うことを目指します。応用科目(公共経済学、産業組織論、情報と契約の経済学、地域経済論、日本経済論など)の履修によって、経済学の理論を現実社会の諸問題に応用する力を身につけます。

●実施に関する方針

講義科目として開講される専門科目に加え、学生の主体的な学習を促し、各教員の専門的な知識を深く学ばせるため、演習科目を設置しています。演習科目では、企業経営者の話を聞いたり、地域経済に関する実態調査を行ったりして、社会のなかの生きた経済学を学ぶ機会を提供しているものもあります。経済実験、ゲーム理論実験という理論を体感することができる演習科目もあります。

さらに、英語による経済学の学習能力を高めるために、英語による講義(Economic Historyなど)を開設しています。

希望する学生には、卒業論文執筆の指導を行います。

●学修成果の評価に関する方針

経済学主専攻では、卒業論文は選択科目の一つとして位置づけられています。評価は、指導教員(1名)が行います。卒業論文のタイトルの決定期限は5月で、社会学類教員会議で報告されます。「経済学演習」を除く大多数の授業科目において授業評価アンケートを実施しています。

入学者の受入れに関する方針(公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/admission-policy/>)

(概要)

●求める人材

社会科学を総合的に学習するために必要な基礎学力と、グローバル化する社会の様々な事象への関心や洞察力・分析力を併せ持つ人材。

●入学までに学んでおいてほしいこと

社会科学を学ぶための読解力や表現力の基礎となる英語と日本語。また、地理や世界史・日本史および数学に関する基本的な知識も備えていることが望ましい。

●人材養成目的

社会学・法学・政治学・経済学の専門知識を集中的に深める教育を提供するだけでなく、各分野の基礎知識を総合的に修得するための横断的な教育も併せて実施することで、社会科学全般のジェネラルな視点に裏打ちされた高い専門性を発揮しうるグローバル(グローバル+ローカル)志向の人材養成を目指します。

(入学者選抜方針)

●個別学力検査等(前期日程)

入学後の学習に必要となる基礎学力および論理的思考力を十分に備えている人材を評価します。

●推薦入試

高等学校における学習をしっかりと身につけたうえで、希望する主専攻分野(社会学、

法学、政治学、経済学）に関連する分野について、明確な問題意識と優れた能力を有する者を評価します。 ●国際バカロレア特別入試 社会科学を学ぶために必要な高い基礎学力に加え、社会的な事象に対する深い関心と問題意識、明確な目標に向けて主体的に学ぶ力と積極性、語学力を含めた高いコミュニケーション能力などを総合的に評価します。 ●編入学試験 社会・国際学群社会学類では、社会科学系の学問に対する高い問題意識と意欲を持ち、希望する主専攻分野（社会学、法学、政治学、経済学）に関する初歩的な素養および論理的思考力を十分に備えている人材を評価します。
学部等名 社会・国際学群 国際総合学類
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/） （概要） グローバル化とともに複雑化する国際的な諸問題に対して、問題の本質を発見する洞察力和情報分析能力を身に付け、先見性と独自性に富む解決策を他者に伝えるコミュニケーション能力を備えた、文理融合型の実践的な人材を養成します。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/） （概要） ★学士（国際関係学） 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（国際関係学）の学位を授与します。 ●国際政治学、国際法、経済学、言語学、文化人類学等の各領域の専門的知識と、ITスキルに裏打ちされた多角的な方法論を踏まえた、文理融合型の学際的見識を修得している。 （関連するコンピテンス：国際学（国際関係）の理解、国際学（国際開発）の理解） ●最新の世界事情を歴史的・文化的背景を踏まえて理解し、基本的な解決策を提示する国際ガバナンスのプロセスを理解している。 （関連するコンピテンス：国際学（国際関係）の理解、国際学（国際開発）の理解） ●国際学ゼミナールの議論と卒業論文の研究を通して、高度の論理的思考力と多様な価値観を前提とした表現力を習得している。 （関連するコンピテンス：国際学（国際関係）の分析能力、国際学（国際関係）の論理的表現能力、国際学（国際開発）についての分析能力、国際学（国際開発）についての論理的表現能力） ●「ヒアリング力」、「交渉力」、「提案力」、「前向きな姿勢」、「向上心」といった基本的なヒューマン・スキルと、コンピューターによる分析・表現・プレゼンテーションのテクニカル・スキルを身に付けている。 （関連するコンピテンス：国際学（国際関係）の分析能力、国際学（国際関係）の論理的表現能力、国際学（国際開発）についての分析能力、国際学（国際開発）についての論理的表現能力） ★学士（国際開発学） 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（国際開発学）の学位を授与します。 ●経済開発、社会開発等の社会科学、または情報学、環境学等に関する専門的方法論を駆使しうる、文理融合型の学際的見識を修得している。 （関連するコンピテンス：国際学（国際開発）の理解、国際学（国際関係）の理解）

●グローバル・コミュニケーションの基盤としての IT スキルを持ち、国際交流基盤の成り立ちを理解している。 （関連するコンピテンス：国際学（国際開発）の理解、国際学（国際関係）の理解） ●国際学ゼミナールの議論と卒業論文の研究を通して、高度の数理的ないし論理的思考力と実践的な技法を習得している。 （関連するコンピテンス：国際学（国際開発）の分析能力、国際学（国際開発）の論理的表現能力、国際学（国際関係）についての分析能力、国際学（国際関係）についての論理的表現能力） ●「ヒアリング力」、「交渉力」、「提案力」、「前向きな姿勢」、「向上心」といった基本的なヒューマン・スキルと、コンピューターによる分析・表現・プレゼンテーションのテクニカル・スキルを身に付けている。 （関連するコンピテンス：国際学（国際開発）の分析能力、国際学（国際開発）の論理的表現能力、国際学（国際関係）についての分析能力、国際学（国際関係）についての論理的表現能力）
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/）
（概要） ★学士（国際関係学） 学士（国際関係学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。 ●総合的な方針 現在の国際問題は経済や文化と深く関係しており、その解明は政治学的なアプローチだけでは不十分です。国際関係学専攻では、政治学、国際法、経済学、文化人類学、言語学などの分野を横断する学際教育により、ガバナンス志向的な問題解決の能力を有するグローバル人材を養うことを目標としています。国際開発学専攻と共通する領域もありますが、より社会科学的側面から国際社会で発生する様々な問題を捉え分析してゆく学問体系を持ちます。教育課程は基本的に、国際開発学専攻との共通点の多い専門基礎科目から、より専門性の高い国際関係学分野に固有の科目及びゼミナールへと、知見を掘り下げていくという観点から編成されています。 ●順次性に関する方針 ・1 年次…基本的な学問分野の学習 必修の専門導入科目「国際学Ⅰ～Ⅳ」を通じて、国際関係の基礎とグローバルな視野、広範な教養を身につけます。基礎的な社会・人文科学、及び環境学、情報学といった複数のディシプリンを俯瞰することで、自分が得意とし、将来的に深く学んでいきたい専攻と専門分野を決めていくステップとなります。同時に、英語を中心とした語学力とコミュニケーション能力を強化します。 ・2 年次…学際的な分析法の習得 主に選択の基礎科目を学び、国際的な比較や歴史的な背景を考察すると同時に、環境学・情報学との融合領域に対する知見や分析方法の習得を通じて、学際的な素養と国際問題への洞察力を涵養します。さらに、語学はスキル・手段であるという認識を確立した上で、広い視野、価値観の相対性を前提とした、真のコミュニケーション能力を強化します。 ・3 年次…課題解決的、及び理論的な研究国際関係学専攻科目の学習を通じて、隣接分野の動向も踏まえた、具体的な解決策の構築に寄与する理論的知見を習得します。急速に変動し複雑化する国際状況に対応して「何が問題であるか」を突きとめる問題解決へと立ち向かう鋭い問題意識とバランスのとれた国際感覚を身につけます。 ・4 年次…国際的に通用する説得的な政策の研究 少人数の国際学ゼミナールへの参加と卒業論文の執筆を通じて、4 年間の研究成果を構築します。独創的な問題設定を行い、論理立てて分析・実証し、自らのガバナンス力を高めることで、国際的に活躍できるグローバル人材を目指します。 ●実施に関する方針

学習モチベーション形成のために、諸外国の研究者や政治家を招いて国際問題に関するシンポジウムや討論会を開催します。これらの機会を通じ、学生が日常的に国際化を意識できる学習環境を創出できるように努めています。

●学修成果の評価に関する方針

学位授与の方針における到達目標を踏まえ、汎用コンピテンスとともに、国際関係学についての理解や分析能力、論理的表現力に関して、試験、レポート、独立論文、卒業論文などにより、習熟度を評価します。

★学士（国際開発学）

学士（国際開発学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

●総合的な方針

国際開発学主専攻は、国際関係学主専攻と共通する側面もありますが、より社会・数理工学的側面から国際社会で発生する様々な問題を捉え分析してゆく学問体系を持ちます。国際社会のあり方に関する様々な視点を踏まえて、開発を巡る実践的な知識と技術を身に付けたグローバル人材を養うことを目標としています。教育課程は基本的に、国際関係学主専攻との共通点の多い専門基礎科目から、より専門性の高い国際開発学分野に固有の科目及びゼミナールへと、知見を深めていくという観点から編成されています。

●順次性に関する方針

・1年次…基本的な学問分野の学習

必修の専門導入科目「国際学Ⅰ～Ⅳ」を通じて、国際関係の基礎と、環境・情報・土木・都市分野の広範な教養を身につけます。これらの領域の基礎的な複数のディシプリンを俯瞰することで、自分が得意とし、将来的に深く学んでいきたい主専攻と専門分野を決めていくステップとなります。同時に、英語を中心とした語学力とコミュニケーション能力を強化します。

・2年次…学際的な分析法の習得

主に選択の基礎科目を学び、現代社会における開発に関わる諸現象について、分析・評価・マネジメントの技法を習得するとともに、ITの理論と技術を習得します。語学はスキル・手段であるという認識を確立した上で、広い視野、価値観の相対性を前提とした、真のコミュニケーション能力を強化します。

・3年次…課題解決的、及び理論的な研究国際開発学主専攻科目の学習を通じて、インターネットに代表される国境を越えて発展するITについて学ぶと同時に、開発学的なアプローチに基づくモデル化の技法を習得し、国際交流の基盤における問題発見と解決に関する目的意識を養います。

・4年次…国際的に通用する実証的な技法の研究

少人数の国際学ゼミナールへの参加と卒業論文の執筆を通じて、4年間の研究成果を構築する。独創的な問題設定を行い、論理立てて分析・実証し、自らの技法を高めることで、国際的に活躍できるグローバル人材を目指します。

●実施に関する方針

学習モチベーション形成のために、諸外国の研究者や政治家を招いて国際問題に関するシンポジウムや討論会を開催します。これらの機会を通じ、学生が日常的に国際化を意識できる学習環境を創出できるように努めています。

●学修成果の評価に関する方針

学位授与の方針における到達目標を踏まえ、汎用コンピテンスとともに、国際開発学についての理解や分析能力、論理的表現力に関して、試験、レポート、独立論文、卒業論文などにより、習熟度を評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/admission-policy/>）

（概要）

●求める人材

経済活動や環境問題は国境を越えて展開します。そこには、絶対的に正しいものはあり

ません。既成観念にとらわれず、多様な価値観の存在を想像しながら、ものごとを観察し、何が問題かを見分け、何をどうすればいいのか、筋道をたてて考え、それを周りに説明でき、理解者を増やしていく意欲・チャレンジ精神をもつ人材が望まれます。 ●入学までに学んでおいてほしいこと 将来、国際社会で活躍することを見据え、読解力や表現力の基礎となる語学力を高めておくこと。また、文科系、理科系を問わず、多様な視点から社会を捉えるための十分な知識と理解力を有していることが望ましい。 ●人材養成目的 グローバル化とともに複雑化する国際的な諸問題に対して、問題の本質を発見する洞察力和情報分析能力を身に付け、先見性と独自性に富む解決策を他者に伝えるコミュニケーション能力を備えた、文理融合型の実践的な人材を養成します。 (入学者選抜方針) ●個別学力検査等 (前期日程) 高い基礎学力と優れた語学能力に加えて、国語、地理歴史、数学、理科のいずれかの学力を総合的に評価します。 ●推薦入試 基礎学力とコミュニケーション能力に加えて、国際関係や国際開発への幅広い関心と強い学習意欲を有する人材を選抜します。 ●国際バカロレア特別入試 国際バカロレア試験において一定レベルの成績をおさめ、国際関係や国際開発の諸問題を主体的に学ぶための知識や思考力、問題意識、明確な目標をもって学ぶ意欲、語学力を含めたコミュニケーション能力を総合的に評価し選抜します。
学部等名 人間学群
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/) (概要) 人間と人間がかかわる社会・自然に関する幅広い興味と関心を基盤にしつつ、人間の発達や支援に関して科学的に分析・理解する態度と専門的な知識や技能を身につけ、これらの態度・知識・技能を活用して、人が抱える様々な問題へ主体的かつ創造的に対処することで、人間社会に広く貢献することができる人材を養成します。
学部等名 人間学群 教育学類
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/) (概要) 人間形成、学校教育開発、教育計画・設計、地域・国際教育にかかわる教育学の専門的知識・技能を活用し、学校、自治体、民間機関、国際機関など様々な分野で貢献できる人材、研究能力を有する人材を養成します。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/) (概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ人間学群教育学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（教育学）の学位を授与します。 ●教育学の基礎としての人間に関する総合的な知と教養を備えている (関連するコンピテンス：人間科学の理解力) ●教育に対する幅広い学識を修得し、体系的な見方・考え方ができる

(関連するコンピテンス：教育学の基礎的体系的知識、教育学における総合的思考力) ●教職などの専門職に採用される水準の教育専門家的資質・能力を備えている (関連するコンピテンス：教育学的実践力) ●教育学の理論と実践に関して、大学院に進学できる水準の基礎的研究能力を備えている (関連するコンピテンス：教育学に関する先導的発信力)
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/)
(概要) 学士(教育学)に係る学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。 ●総合的な方針 教育学を構成する様々な研究領域のつながりを考えて、教育学の総合性に対応した4つの系列(人間形成系列、教育計画・設計系列、学校教育開発系列、地域・国際教育系列)を設けています。学生はこれらの系列を指針としながら科目を選択的に履修しますが、将来の目的に合わせて特に関心のある系列を1つ選び、その系列の授業については集中的な履修を行うことが推奨されています。また、2年次になると、小学校教員免許状の取得を希望する学生は「初等教育学コース」に所属し、そうでない学生は「教育学コース」に所属することになります。 ●順次性に関する方針 ・1年次…「基礎科目(共通科目・関連科目)」と「人間学群コア・カリキュラム」を履修し、教育学に加えて心理学と障害科学の基礎を学び、人間・社会・自然に関する幅広い興味と関心を育てながら、教育学の基礎としての人間に関する総合的な知と教養を培います。 ・2年次…研究力を高めるために、「教育学研究法」を履修します。また各系列科目の概論的な講義を受講し専門性の幅を広げるとともに、「教育インターンシップ基礎論」「教育インターンシップ実践演習」を履修します。 ・3年次…系列ごとに設けられた「演習」及び「探究」を履修して専門知識の体系的性を完成させるとともに、「教育学実践演習」を履修し、「卒業研究」の準備段階とします。それによって、教育に対する幅広い学識と体系的な見方・考え方を培います。 ・4年次…原則として5月と10月に開催される2回の卒業研究指導会(構想発表会と中間発表会)で発表し、そこでの指導を踏まえて、4年間の学習の成果を「卒業論文」としてまとめます。 ●実施に関する方針 2つのコースと4つの系列を準備し、個人の専門的な研究関心を深めることと同時に、教育学という総合的な学問を様々な観点から学べるようにしています。さらに、小学校の教員免許状をはじめ、中学校(社会科)や高等学校(地理歴史と公民)の教員免許状、および社会教育主事の資格に必要な科目も用意されています。 ●学修成果の評価に関する方針 各授業科目では、教育課程編成・実施の方針に基づいてシラバスに記載された方法によって公正かつ厳格に成績評価を行います。とりわけ、卒業研究は4年間の学修成果の集大成として重視し、2名の査読者による論文の審査を行うとともに、口頭での概要説明及び質疑応答を全員に義務づけ、それらの総合的な結果に基づいて評価を行います。また、学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に則して教育内容が適切に構成され、効果的な教育方法によって実施されているかを検証するため、教育インターンシップ実践演習や卒業研究等の一部科目を除く大多数の授業科目において授業評価アンケートを実施します。
入学者の受入れに関する方針(公表方法：https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/admission-policy/)

(概要) ●求める人材 人間社会が形成してきた文化や教育・学習活動に対する幅広い関心と高い問題意識を抱き、学問的に深めたいという志を持ちながら、自主的に学び、考え、科学的。論理的、かつ実践的な問題解決能力を培う意欲のある人材を求めます。 ●入学までに学んでおいてほしいこと 人間の発達や支援、教育について、様々な考え方や見方に触れることにより、人間、社会、自然に関する興味と関心を培うようにして欲しい。 (入学者選抜方針) ●個別学力検査等（前期日程） 広い基礎学力と外国語に加えて、国語、数学、地理歴史、公民、理科のいずれかの学力を総合的に評価します。 ●個別学力検査等（後期日程） 広い基礎学力を評価します。また、論述において、応答性、論理性等を評価します。 ●推薦入試 一定のレベルの学力を有し、教育学について明確な目的意識と勉学への意欲を持ち、教育学類の教育に適応性があるかどうかを評価します。あるいは、教育学について明確な問題意識を持ち、その問題意識に関連した優れた活動実績を有するかどうかを評価します。 ●国際バカロレア特別入試 国際バカロレア試験において一定レベルの成績をおさめ、教育学類の学習について明確な目的意識を持ち、教育に関する領域で国際的視野に基づく活動を志しているかどうかを評価します。 ●外国学校経験者特別入試 第1種）教育的な事象に対する強い関心と問題意識を持ち、入学後の授業に適応できる理解力・思考力・日本語能力を有する者を総合的に評価します。 第2種）海外生活での経験を活かしたグローバルな視点から、教育的な事象に対する強い関心と問題意識を持ち、入学後の授業に適応できる理解力・思考力・日本語能力を有する者を総合的に評価します。
学部等名 人間学群 心理学類
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/)
(概要) 人間のこころと行動に関する幅広い興味や関心を基盤とし、それらを科学的・実証的に分析し理解する姿勢を育みます。そして、専門的な知識や技能を備え、実践的な課題に主体的かつ創造的に取り組む力を養い、国際的に通用する知性、人間性、そして柔軟性と逞しさを兼ね備えた人材の育成を目指します。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/)
(概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ人間学群心理学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（心理学）の学位を授与します。 ●心理学に関する専門的知識と心理学の方法論を活用して適切にデータを収集し、科学的に分析することができる (関連するコンピテンス：人間観察力、行動分析力) ●自己理解と他者理解に基づき、他者と協同して、課題解決を図ることができる。 (関連するコンピテンス：人間観察力、心理学的支援力) ●人間と社会の多様な現象を実証的に探求し、問題に対処していく実践的な志向性が身についている。 (関連するコンピテンス：心理学的問題解決実践志向、実証的な志向性に基づく探究心)

●国際社会における多様性と多文化共生について心理学的視点から理解し、相互互恵的関係を形成できるコミュニケーション能力を備えている。
(関連するコンピテンス：普遍性と多様性の理解)

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/>)

(概要)

学士（心理学）に係る学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

●総合的な方針

授業科目を心理学に関する知識の獲得、研究方法の習得、発表と討論、実習という4カテゴリに分類した上で、心理学の代表的な分野をすべて網羅した幅広い心理学教育を基礎から行い、卒業研究の完成へと導きます。

●順次性に関する方針

以下のステップを踏んで基礎的分野から応用・実践的分野まで幅広い心理学教育を行います。

・1年次…心理学概論および心理学研究法により心理学の基本的知識を学び、心理学統計法Ⅰ・Ⅱ・同実習により心理学の基礎的分析技法を習得します。

・2年次…基幹となる専門科目群を幅広く学修し、心理学の専門的知識の深化をはかります。心理学実験では基礎的研究技法を習得します。心理学英語セミナーでは英語論文の講読を通して心理学研究の専門知識や方法論、心理学論文執筆の基本的なルールなどを習得します。

・3年次…講義・演習科目を中心として心理学に関する高度な専門知識を修得します。また、心理学研究実習Ⅰでは十分な先行研究の理解に基づいて実験・調査研究を行い、データ収集能力と科学的分析能力、そして討論ができる能力を実践的に身につけます。3年次の終わりには卒業研究セミナーを履修し、本格的に卒業研究の準備を始めます。

・4年次…卒業研究を通じて、論理的思考力、洞察力、創造力を培います。特に卒業論文の制作過程では、自らの研究を論理的に構築し、課題を深く探究する力を養います。また、最終発表会における発表や質疑応答を通じて、応答力や議論を深める能力を熟成させ、効果的なコミュニケーション力を身につけます。

●実施に関する方針

履修規程に準拠し、心理学を幅広く学修することを保証します。学生自らが先行研究に関する文献研究と実験・調査研究を行う科目を設け、主体的な学修を促します。心理学研究実習Ⅰ・Ⅱおよび卒業研究により、教員や大学院生と共に最新の心理学研究を直に学ぶ機会を与えます。

●学修成果の評価に関する方針

各授業科目では、教育課程編成・実施の方針に基づいてシラバスに記載された方法によって公正かつ厳格に成績評価を行います。とりわけ、卒業研究は4年間の学修成果の集大成として重視し、2名の査読者による論文の審査を行うとともに、口頭での概要説明及び質疑応答を全員に義務づけ、それらの総合的な結果に基づいて評価を行います。また、学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に則して教育内容が適切に構成され、効果的な教育方法によって実施されているかを検証するため、すべての授業科目において授業評価アンケートを実施します。

●その他特筆すべき特色

・海外への留学を積極的に勧め、グローバルな人材の育成に努めます。

・講義とグループディスカッションに加え、「人間学群」の専門性と関連の深い職種・進路先からの外部講師を招聘し、学生自身のキャリアデザインについて考える機会を与えます。

・座学に加えて、様々な実習を通して実践力・応用力を向上させ、知識の定着化・有用化の機会を与えます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/admission-policy/） （概要） ●求める人材 人間のこころと行動に高い関心と興味を持ち、さらには、人間を深く理解しようとする探究心を持ち、自主的に学び、考え、科学的、論理的かつ実践的な問題解決能力を培う意欲のある人材。 ●入学までに学んでおいてほしいこと 高等学校での学習内容を深め、特に英語書籍・論文を理解できる英語力を習得していること。自分の考えを明確に伝える日本語および英語の表現力を高めておくことが望ましい。 （入学者選抜方針） ●個別学力検査等（前期日程） 広い基礎学力と外国語に加えて、国語、数学、地理歴史、公民、理科のいずれかの学力を総合的に評価します。 ●個別学力検査等（後期日程） 広い基礎学力を評価します。また、論述において、応答性、論理性等を評価します。 ●推薦入試（大学入学共通テストを課す） 一定レベルの学力を有し、人間のこころと行動について明確な目的意識を持つ人材で、心理学類の教育に適応性があるかどうかを評価します。または、人間のこころと行動について、旺盛な知的好奇心を持ち、それに関連する自主研究や部活動、社会活動等において優れた実績を有するかどうかを評価します。 ●国際バカロレア特別入試 国際バカロレア試験において一定レベルの成績をおさめ、心理学類の学習に関して明確な目的意識を持ち、心理学の領域において国際的視野に基づく活動を志す人材を評価します。 ●外国学校経験者特別入試 第1種）心理学類の学習に高い関心を有し、入学後の授業に適応できる理解力・思考力・日本語能力を有する人材を選抜します。 第2種）海外生活での経験を活かしたグローバルな視点から、心理学類の学習に高い関心を有し、入学後の授業に適応できる理解力・思考力・日本語能力を有する人材を選抜します。
学部等名 人間学群 障害科学類
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/）
（概要） 乳児から高齢者までの感覚、運動、認知、言語などの機能の障害、健康や高齢・発達に関わる障害、障害をめぐる環境や社会・文化的課題に関する基礎的知識と支援方法を、教育・心理・福祉・医療などの領域から総合的に身につけ、共生社会の創造に貢献する、国際的に通用する能力をもつ人材を養成します。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/）
（概要） ★学士（障害科学） 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ人間学群障害科学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（障害科学）の学位を授与します。 ●障害科学の全体的な理念・概念を理解し、障害科学に関連した障害教育、障害心理・生理、障害福祉についての基礎的知識と技能を修得している （関連するコンピテンス：人間科学の理解力、障害科学の基礎的知識、障害科学における実践力）

●障害科学に関連した問題を志向し、その問題を解決する能力と科学的思考力をもち、専門研究を展開できる基礎的能力を修得している (関連するコンピテンス：障害科学における分析的思考力) ●障害科学に関連したリーダーシップにつながる基礎的能力を備えている (関連するコンピテンス：障害科学における実践力、障害科学に関する先導的発信力) ●障害科学に関連した英語等外国語力を修得している (関連するコンピテンス：障害科学の基礎的知識、障害科学に関する先導的発信力) ★学士（特別支援教育学） 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ人間学群障害科学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（特別支援教育学）の学位を授与します。 ●特別支援教育に関わる先導的な研究・教育を担うことのできる専門的知識や技術を修得し、特別支援教育学に関連した生理学・心理学についての基礎的理解を備えている (関連するコンピテンス：人間科学の理解力、障害科学の基礎的知識) ●教職などの専門職に採用される水準の能力を備えている（関連するコンピテンス：障害科学の基礎的知識、障害科学における実践力） ●特別支援教育学に関連した問題を志向し、その問題を解決する能力と科学的思考力をもち、専門研究を展開できる基礎的能力を修得している (関連するコンピテンス：障害科学における分析的思考力) ●特別支援教育学に関連したリーダーシップにつながる基礎的实践能力を修得している (関連するコンピテンス：障害科学における実践力、障害科学に関する先導的発信力) ●特別支援教育学に関連した英語等外国語力を修得している (関連するコンピテンス：障害科学の基礎的知識、障害科学に関する先導的発信力) ★学士（社会福祉学） 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ人間学群障害科学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（社会福祉学）の学位を授与します。 ●ノーマライゼーションという福祉理念を実現するための施策や援助方法を理解し、社会福祉学に関連した生理学・心理学・教育学についての基礎的理解を備えている (関連するコンピテンス：人間科学の理解力、障害科学の基礎的知識) ●社会福祉士国家試験に合格する水準の能力や福祉行政などの専門職に採用される水準の能力を備えている (関連するコンピテンス：人間科学の理解力、障害科学の基礎的知識、障害科学における実践力) ●社会福祉学に関連した理論と実践について、包括的かつ科学的に探究し実践できる専門的知識や技術、研究能力を修得している (関連するコンピテンス：人間科学の理解力、障害科学の基礎的知識、障害科学における分析的思考力) ●社会福祉学に関連したリーダーシップにつながる基礎的实践能力を修得している (関連するコンピテンス：障害科学における実践力、障害科学に関する先導的発信力) ●社会福祉学に関連した英語等外国語力を修得している (関連するコンピテンス：障害科学の基礎的知識、障害科学に関する先導的発信力)
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/) (概要)
★学士（障害科学） 学士（障害科学）に関して、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。 ●総合的な方針

学類の基本的な履修形態として、障害や障害者に関する幅広い知識を身に付ける「障害科学履修モデル」を設定しています。障害科学の全体的な理念・概念の理解を基に、障害科学が包含する特別支援教育、障害心理・生理、障害福祉等の全領域に関して、視覚障害学、聴覚障害学、言語障害学、運動障害学、健康・高齢障害学、知的・発達・行動・情緒障害学の基礎的な知識や技能を修得します。さらに、この分野を新たに開拓していくための研究方法の学修として、臨床研究、実験や調査、文献研究等で用いられる多様な技術の基礎を修得します。

●順次性に関する方針

- ・1年次…モチベーションを高め、学びの基礎を整える

「障害科学Ⅰ・Ⅱ」により障害科学の基本的な原理を学び、「障害科学実践入門」において実践現場を見学・参観し、障害科学探求のモチベーションを高めます。また、「障害原理論」・「障害者福祉論」・「障害者教育基礎理論」を通して専門分野を知ること、障害科学を全体的に理解します。

- ・1～2年次…基礎的能力を培い、進路を考える

障害別の「障害児の心理・生理・病理」、「障害児教育総論」、「社会福祉原論」等で各専門の基礎を学び、「心理学統計Ⅰ」と「障害科学研究法入門・実習」を通して研究方法の基礎を学びます。「キャリアデザイン入門」、「人間フィールドワーク」等を通じて、自らの修学の方針性と卒業後の進路を考えます。

- ・3～4年次…障害科学の研究・実践技術の修得

障害科学に関する専門知識や技能を修得し、大学院進学に備えます。「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」において、研究手法の修得や障害科学に関する研究を計画・実行し、卒業研究をまとめるとともに、大学院進学に向けた学習も行います。

●実施に関する方針

障害科学履修モデルに基づいて、履修規程で卒業に必要とされる単位を修得することにより、障害科学を幅広く学修します。演習・実習の活動内容を含む授業では、主体的な学修のために参加型の形態をとる一方、附属特別支援学校教員・福祉施設などの現職専門家や大学院生の参加を図り、先端的・実践的な知識・技能を修得します。国際化を志向し、英語による授業「Current Topics in Disability Sciences」を開講しています。

●学修成果の評価に関する方針

各授業科目では、教育課程編成・実施の方針に基づいてシラバスに記載された方法によって公正かつ厳格に成績評価を行います。とりわけ、卒業研究は4年間の学修成果の集大成として重視し、指導教員と副指導教員による論文の指導と審査を行うとともに、口頭での概要説明及び質疑応答を全員に義務づけ、それらの総合的な結果に基づいて評価を行います。また、学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に則して教育内容が適切に構成され、効果的な教育方法によって実施されているかを検証するため、卒業研究等の一部科目を除く大多数の授業科目において授業評価アンケートを実施します。

●特色

- ・「障害学生支援技術」等で障害のある学生の支援方法を学び、大学の障害学生支援の活動に参加しています。
- ・海外の大学等の取得単位やボランティア活動・学内外の研究活動を卒業単位認定します。

★学士（特別支援教育学）

学士（特別支援教育学）に関して、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

●総合的な方針

特別支援教育に関わる先導的な研究・教育を担う専門家の養成を目指す「特別支援教育学履修モデル」を設定しています。特別支援学校教諭一種免許状に対応した豊富な科目群を設け、広い教養と深い専門性を身につけます。5つの教育領域（視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱）の全てを担当できる特別支援学校教諭免許状を取得することもできます。

●順次性に関する方針

- ・1年次…モチベーションを高め、学びの基礎を整える

「障害科学Ⅰ・Ⅱ」により特別支援教育学の基礎をなす基本的な原理を学び、「障害科学実践入門」では附属特別支援学校などの実践現場を見学・参観し、モチベーションを高めます。「障害原理論」・「障害者福祉論」・「障害者教育基礎理論」を通して特別支援教育学の基礎を理解します。

・1～2年次…基礎的能力を培い、進路を考える

障害別の「障害児の心理・生理・病理」、「障害児教育総論」等で各専門の基礎を学び、障害別の「指導法」等から基礎的方法論を学びます。「心理学統計法Ⅰ」と「障害科学研究法入門・実習」を通して研究方法の基礎を学修します。「キャリアデザイン入門」、「人間フィールドワーク」等を通じて、学修の方向性と卒業後の進路を考えます。

・3～4年次…特別支援教育学の研究・実践技術の修得

特別支援学校教諭免許状取得に必要な専門科目において、専門的な知識と実践技術、技能を修得します。「特別支援教育実習」（附属特別支援学校での教育実習など）を通じて基礎的实践能力を身につける一方、「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」において、研究手法の修得や特別支援教育学に関する研究を計画・実行し、卒業研究をまとめるとともに、大学院進学に向けた学習も行います。

●実施に関する方針

特別支援教育学履修モデルに基づいて、履修規程で卒業に必要とされる単位を修得し、あわせて小、中または高の教職課程の単位を修得することにより、特別支援学校教諭免許取得が可能です。演習・実習系の授業では、主体的な学修のために参加型の形態をとる一方、附属特別支援学校教員などの現職専門家や大学院生の参加を図り、先端的・実践的な知識・技能を修得します。国際化を志向し、英語による授業「Current Topics in Disability Sciences」を開講しています。

●学修成果の評価に関する方針

各授業科目では、教育課程編成・実施の方針に基づいてシラバスに記載された方法によって公正かつ厳格に成績評価を行います。とりわけ、卒業研究は4年間の学修成果の集大成として重視し、指導教員と副指導教員による論文の指導と審査を行うとともに、口頭での概要説明及び質疑応答を全員に義務づけ、それらの総合的な結果に基づいて評価を行います。また、学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に則して教育内容が適切に構成され、効果的な教育方法によって実施されているかを検証するため、卒業研究等の一部科目を除く大多数の授業科目において授業評価アンケートを実施します。

●特色

・「障害学生支援技術」等で障害のある学生の支援方法を学び、大学の障害学生支援の活動に参加しています。

・海外の大学等の取得単位やボランティア活動・学内外の研究活動を卒業単位認定します。

★学士（社会福祉学）

学士（社会福祉学）に関して、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

●総合的な方針

社会福祉学を探究するとともに、社会福祉士を目指す「社会福祉学履修モデル」を設定しています。現代の社会福祉が対象とする高齢者、障害児者、及び、家庭養育環境や発達に伴う生活問題を抱えた子どもたちについて、ノーマライゼーションという福祉理念を実現するための施策や援助方法を、包括的かつ科学的に学修します。また、従来の社会福祉学の枠組を越えて、「障害」をめぐる教育や医療・リハビリテーションとの連携について、社会福祉の現場実習を含めて融合的に学修します。

●順次性に関する方針

・1年次…モチベーションを高め、学びの基礎を整える

「障害科学Ⅰ・Ⅱ」により社会福祉学の基礎をなす基本的な原理を学び、「障害科学実践入門」では実践現場を見学・参観し、モチベーションを高めます。「障害原理論」・「障害者福祉論」・「障害者教育基礎理論」を通して社会福祉学の基礎を理解します。

・1～2年次…基礎的能力を培い、進路を考える

社会福祉士国家試験受験資格に対応した指定科目を中心に、「社会福祉原論」、「医学概論」、「高齢者福祉論」等で専門基礎を、「相談援助の理論と方法」、「相談援助の基盤と専門職」で基礎的方法論を学びます。「心理学統計法Ⅰ」と「障害科学研究法入門・実習」、「社会福祉調査論」では研究方法の基礎を学びます。「キャリアデザイン入門」、「人間フィールドワーク」等を通じ、学修の方向性と卒業後の進路を考えます。

・3～4年次…研究・実践技術の修得

「ソーシャルワーク演習」等の専門科目において、専門的な知識と実践技術、技能を演習形式で学びます。「ソーシャルワーク実習」等において基礎的实践能力を身につける一方、「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」において、研究手法の修得や障害福祉学に関する研究を計画・実行し、卒業研究をまとめるとともに、大学院進学に向けた学習も行います。

●実施に関する方針

社会福祉学履修モデルに基づき、履修規程で卒業に必要とされる単位を修得することにより、社会福祉士国家試験受験資格取得が可能です。授業は参加型の形態をとる一方、福祉施設などの現職専門家等の参加を図り、先端的・実践的な知識・技能を修得します。国際化を志向し、英語による授業「Current Topics in Disability Sciences」を開講しています。

●学修成果の評価に関する方針

各授業科目では、教育課程編成・実施の方針に基づいてシラバスに記載された方法によって公正かつ厳格に成績評価を行います。とりわけ、卒業研究は4年間の学修成果の集大成として重視し、指導教員と副指導教員による論文の指導と審査を行うとともに、口頭での概要説明及び質疑応答を全員に義務づけ、それらの総合的な結果に基づいて評価を行います。また、学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に則して教育内容が適切に構成され、効果的な教育方法によって実施されているかを検証するため、卒業研究等の一部科目を除く大多数の授業科目において授業評価アンケートを実施します。

●特色

・「障害学生支援技術」等で障害のある学生の支援方法を学び、大学の障害学生支援の活動に参加しています。

・海外の大学等の取得単位やボランティア活動・学内外の研究活動を卒業単位認定します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/admission-policy/>）

（概要）

●求める人材

人の障害や障害をめぐる様々な事象についての関心と問題意識、さらには、人間を深く理解しようとする探求心を持ち、自主的に学び、考え、科学的、論理的かつ実践的な問題解決能力を培う意欲のある人材を求めます。

●入学までに学んでおいてほしいこと

障害科学類では障害に関する様々な学問領域を学ぶ基礎として、英語のほか、文科系、理科系にわたる基礎教科について十分な知識と理解を得ていることが望ましい。

（入学者選抜方針）

●個別学力検査等（前期日程）

広い基礎学力と外国語に加えて、国語、数学、地理歴史、公民、理科のいずれかの学力を総合的に評価します。

●個別学力検査等（後期日程）

広い基礎学力を評価します。また、論述において、応答性、論理性等を評価します。

●推薦入試

一定のレベル（高等学校の上位10%以内）の学力を有する者、または筑波大学の個別学力試験等に合格できる程度以上の学力を有する者で、障害科学について明確な目的意識と勉学への意欲を持ち、障害科学類の教育に適応性があるかどうかを評価します。または、障害科学についての問題意識を明確に持ち、それに関連する自主研究や部活動、社会的活動等において優れた実績を有するかどうかを評価します。そのほか、外国語能力や問題解決能力等において国際的素養を有し、将来、障害科学の分野において国際的に活躍する

資質を十分に有しているかどうかを評価します。 ●国際バカロレア特別入試 障害科学類の学習に関して明確な目的意識と勉学への意欲を持ち、障害科学の領域において国際的視野に基づく活動を志す人材を選抜します。 ●外国学校経験者特別入試 第1種) 人の障害や障害をめぐる様々な事象に対する関心と明確な問題意識を持ち、入学後の授業に適応できる理解力・思考力・日本語能力を有する者を選抜します。 第2種) 海外生活での経験を活かしたグローバルな視点から、人の障害や障害をめぐる様々な事象に対する関心と明確な問題意識を持ち、入学後の授業に適応できる理解力・思考力・日本語能力を有する者を選抜します。
学部等名 生命環境学群
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/) (概要) 人間を含む多様な生物の生命現象、それを支える地球環境、さらには生物資源の保全や持続的活用の方法を総合的に理解し、豊かな人間性と問題発見・解決能力を有する、国際的視野に立って活躍できる未来創造型の人材を育成します。
学部等名 生命環境学群 生物学類
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/) (概要) 生物界のシステム、生体機能のメカニズム、生命現象の本質、生物学の研究方法及び先端研究の意義を理解し、生物と関わる幅広い学問分野でグローバルに活躍する研究者、教育者、技術者、企業人など、先端科学と社会の接点となる人材を育成します。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/) (概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（理学）の学位を授与します。 ●自然科学の理解…自然科学の基礎的な知識を習得し、科学的な思考法を身に付けている。 ●生物学の理解…専門とする分野にとどまらず、生物学一般に関する幅広い理解を深めるとともに、多様な生物学の研究手法を身に付けている。 ●生物現象の分析能力…生物現象について実験・観察で得られたデータや膨大な生物情報を適切な手法により分析し、適確に記述し批判的に評価する能力を身に付けている。 ●国際的コミュニケーション能力…国際的に活躍するために必須となる英語力、及び自分の考えや意見を正しく分かりやすく表現するコミュニケーション能力を身に付けている。 ●論理的表現能力…卒業研究の研究課題に関連する英語学術論文を読み、その内容を研究レポートにまとめる等を通じて、学術論文の読み方と論理的表現能力を身に付けている。 ●問題発見・解決型能力と自己表現能力…最終年次に卒業研究を行うことにより、主体的に問題を発見し、解決する能力を身に付けている。また、研究成果についてプレゼンテーションを行うとともに、要旨のWeb公開を通じて、科学的表現能力を身に付けている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/)

(概要) 学士（理学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。 ●総合的な方針 基礎生物学分野からゲノム生物学などの先端分野、さらには農学や医学との境界領域にわたる科目群を開設し、幅広い生物学分野を修得させます。多くの実験・実習・演習科目を配置し、実践的・創造的能力を養います。 ●順次性に関する方針 ・1 年次には自然科学全般に関する基礎的知識を習得させるとともに、生物学全般にわたる基礎的知識と技術を概論科目と基礎生物学実験により身に付けさせます。 ・2・3 年次には個々の学生の関心の高い専門分野をチュートリアル学修等を通じて意識させ、それを中心に、多様な生物学の諸分野を2年間かけて学習させることにより、幅広い生物学の理解を基礎として卒業研究に取り組むことができる専門知識と技術を身に付けさせます。 ・4 年時には卒業研究を行い、主体的に問題を発見し、解決する能力や、科学的表現能力を身に付けさせます。 ●実施に関する方針 ・1 年次の基礎生物学実験のほか、2・3 年次の専門実験実習科目を4科目以上必修とし、4 年次に卒業研究を各研究室で集中して行うことで、研究能力を養います。 ・2・3 年次の専門科目を中心に、およそ30科目の授業を英語で実施し、国際的に活躍できる能力を育成します。 ●学修成果の評価に関する方針 ・GPA等の修学状況、卒業研究の成果、資格・免許取得状況、進路状況等を指標に教育課程レベルの学習成果の達成状況を総合的・多面的に評価します。 ・シラバスで示した各科目の達成目標への到達度に基づく成績評価、レポートやアンケートなどの学修ポートフォリオ等を指標に科目レベルの学修成果の達成状況を総合的・多面的に評価します。 ●特色 国際的コミュニケーション能力強化のため、2・3 年次の科学コミュニケーションの授業に加え、3・4 年次に少人数での専門外国語の授業を必修としています。毎年数名の学類生を選抜し、1 年間マンチェスター大学等に留学させ、国際的コミュニケーション能力の特に秀でた人材を育成します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/admission-policy/） (概要) ●求める人材 生き物や生物学が好きで、自然科学と語学の基礎学力をもち、広範で多様な生命現象に対して強い好奇心と探究心をもつ、創造的能力が豊かな人材。 ●入学までに学んでおいてほしいこと 高等学校の生物の内容を十分に理解していること。また、授業は英語で行われることもあるため、十分な英語の読み書き会話の能力を有していること。さらに、ホームページや電子メール等からの情報の取得、パソコンを用いた文章・表作成などが必要となるため、それらの操作に習熟していること。 (入学者選抜方針) ●個別学力検査等（前期日程） 文科系・理科系にわたる全般的な基礎学力、高い語学力、自然科学系科目の高度な理解力、高度な思考力、そしてその応用力を総合的に評価します。 ●個別学力検査等（後期日程） 文科系・理科系にわたる全般的な基礎学力、高い語学力、生物界や生き物の仕組みに対する広い興味と高い学習意欲、高度な思考力、そして理解力を総合的に評価します。 ●推薦入試

高等学校における学習及び課外活動の成果やそれらを通じて培われた生物界や生き物の仕組みに対する広い興味と理解度、そしてそれらを学ぶ意欲、さらには人間性も含めて総合的に評価します。 ●AC入試 生物界や生き物の仕組みに対する強い興味を持ち、自ら設定したテーマに関してユニークな研究をし、その結果を分析して、独善的な考えに陥ることなく、科学的及び論理的にレポートにまとめ、それを具体的に発表する能力を評価します。 ●国際バカロレア特別入試 国際バカロレア資格を取得した者を対象として、生物界や生き物の仕組みに対する広い興味と理解度、それらを主体的に学ぶための知識や思考力、明確な目標を持って学ぶ意欲、さらには語学力を含めたコミュニケーション能力を重視して、総合的に評価します。 ●外国学校経験者特別入試 第1種) 外国学校での修学を通じて得た視点や思考法、生物界や生き物の仕組みに対する広い興味と学習意欲、生物学類の授業を理解するために必要な基礎学力及び日本語能力等を総合的に評価します。 第2種) 海外生活での経験を活かしたグローバルな視点から生命現象をとらえ、生き物の多様性や生きる仕組みに関する広い興味をベースに優れた思考力や理解力を発揮できる能力を評価します。併せて、生物学類の授業を理解するために必要な基礎学力等を総合的に評価します。 ●編入学試験 生物界や生き物の仕組みに対する広い興味と高い学習意欲、高い語学力、専門的な生物学教育を受容できる基礎的な学力、高度な思考力と理解力を総合的に評価します。	
学部等名	生命環境学群 生物資源学類
教育研究上の目的	(公表方法： https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/)
(概要)	生物資源学類は、人類の生存と安全で豊かな生活の基盤である生物資源に関する総合的学習を通じ、地域的かつ地球的視野で、食料の安定供給ならびに環境と調和した生物資源の持続的な開発・保全利用に貢献できる人材を育成します。
卒業又は修了の認定に関する方針	(公表方法： https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/)
(概要)	★学士（生物資源学） 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（生物資源学）の学位を授与します。 ●自然環境と人間社会の関わりの本質を理解できる幅広い知識を修得している。 （関連するコンピテンス：生物資源学に関する体系的な専門知識、生物資源学に関する専門の基礎となる教養） ●多様な生物資源利用に関する体系的な専門知識とそれを社会で活用できる能力、あるいは大学院でさらに高度な専門的探求ができる能力を修得している。 （関連するコンピテンス：生物資源学に関する体系的な専門知識、生物資源学に関する国際的な専門知識、生物資源学に関する ICT の活用 力、生物資源に関する問題意識の醸成力） ●生物資源の開発・利用分野における海外協力に必要な異文化理解能力とコミュニケーション能力を修得している。 （関連するコンピテンス：生物資源学に関する体系的な専門知識、生物資源学に関する国際的な専門知識） ●情報通信技術（ICT）を駆使して生物資源利用に関する情報や知識を分析し、それらを内

外に受発信できる。

（関連するコンピテンス：生物資源学に関する体系的な専門知識、生物資源学に関する専門の基礎となる教養、生物資源学に関する ICT の活用力）

●農林業の発展や食料・環境問題に対する貢献意欲を持ち、卒業後も自己成長を続ける力を備えている。

（関連するコンピテンス：生物資源学に関する体系的な専門知識、生物資源に関する問題意識の醸成力）

★学士（農学）

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（農学）の学位を授与します。

●自然環境と人間社会の関わりの本質を理解できる幅広い知識を修得している。

（関連するコンピテンス：農学に関する体系的な専門知識、農学に関する専門の基礎となる教養）

●多様な生物資源利用に関する体系的な専門知識とそれを社会で活用できる能力、あるいは大学院でさらに高度な専門的探求ができる能力を修得している。

（関連するコンピテンス：農学に関する体系的な専門知識、農学に関する国際的な専門知識、農学に関する ICT の活用力、農業に関する問題意識の醸成力）

●生物資源の開発・利用分野における海外協力に必要な異文化理解能力とコミュニケーション能力を修得している。

（関連するコンピテンス：農学に関する体系的な専門知識、農学に関する国際的な専門知識）

●情報通信技術（ICT）を駆使して生物資源利用に関する情報や知識を分析し、それらを内外に受発信できる。

（関連するコンピテンス：農学に関する体系的な専門知識、農学に関する専門の基礎となる教養、農学に関する ICT の活用力）

●農林業の発展や食料・環境問題に対する貢献意欲を持ち、卒業後も自己成長を続ける力を備えている。

（関連するコンピテンス：農学に関する体系的な専門知識、農業に関する問題意識の醸成力）

●日本で農学の専門家として実務にあたるための基本的な知識・能力を修得している。

（関連するコンピテンス：農学に関する体系的な専門知識、農業に関する問題意識の醸成力）

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/>）

（概要）

学士（生物資源学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

●総合的な方針

生物資源科学主専攻の中に農林生物学、応用生命化学、環境工学、社会経済学の4つのコースを置き、教育課程の前半では専門分野の区分のないクラスで、幅広い教養的科目を修得するとともに、生物資源科学の基礎となる共通の専門科目を学びます。後半ではコースに所属してそれぞれのコースの専門的な知識と分野横断的な知識を学び、それらの知識をまとめて卒業研究を行って専門性を深めます。

●順次性に関する方針

・1年次では、基礎科目及び専門基礎科目を履修することによって、幅広い能力を持つ専門家としての基礎を築きます。特に、生物資源学の幅広い分野への興味を涵養するとともに、学類の必修科目を学んで生物資源科学に対する理解を深め、課題解決のための問題意識を醸成します。

・2年次では、専門基礎科目と、基礎的専門科目である各コースの専門科目Ⅰを履修することによって、専門を深めるための手法を身につけます。3年次に選択するコースの科目を中心としますが、横断領域科目の専門科目Ⅰによって学際的視野を広げます。

・3年次では、4つの中から1つのコースを選び、選んだコースの専門科目Ⅱを履修することによって専門性を深めます。所属するコースの科目を中心としますが、横断領域科目の専門科目Ⅱによって関連分野の知識を広げます。

・4年次では、引き続き専門科目Ⅱを履修すると同時に必修科目の卒業研究を実施し、一つの研究課題に対して、これまでに修得した専門的知識や手法を総合的に適用することにより、生物資源学をより深く理解します。

●実施に関する方針

・1年次に「生物資源の開発・生産と持続利用」、「生物資源としての遺伝子とゲノム」、「生物資源と環境」、「生物資源学にみる食品科学・技術の最前線」、「生物資源科学演習」により生物資源学の基礎を学んだうえで専門科目を履修します。

・4つのコースでは、専門科目を体系的に履修して専門性を深めるとともに、実験・実習・演習を履修することにより、問題発見・解決能力を養うことができます。

・「食料」、「環境」、「国際」をキーワードとした横断領域科目を履修することにより、学際的視野を深めることができます。

●学修成果の評価に関する方針

シラバスに記載された評価方法に基づき、授業担当教員が厳正な教育評価を行います。また、学生が修得したコンピテンスを把握、確認することにより、コース選択、卒業研究、進路選択の指導に役立てます。

●特色

・海外協定校での実地体験、国際協力機構筑波国際センター等で研修する「国際インターンシップ科目」、地域の企業や団体で活動する「食と緑のインターンシップ科目」により、国際性や社会貢献意欲を高めることができます。

学士（農学）に係る学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

●総合的な方針

教育課程の前半では幅広い教養的科目を修得するとともに、農学の基礎となる共通の専門科目を学びます。後半では専門的な知識と分野横断的な知識を学び、インターンシップに参加するとともに、それらの知識をまとめて卒業研究を行って専門性を深めます。

●順次性に関する方針

・1年次では、日本語能力の修得・向上をはかるとともに、基礎科目及び専門基礎科目を履修することによって、幅広い能力を持つ専門家としての基礎を築きます。特に、農学の幅広い分野への興味を涵養するとともに、学類の必修科目を学んで農学に対する理解を深め、課題解決のための問題意識を醸成します。

・2年次では、専門科目のうち基礎的科目である専門科目Ⅰを履修することによって、専門を深めるための手法を身につけます。横断領域科目の専門科目Ⅰによって学際的視野を広げます。

・3年次では、専門科目Ⅱを履修することによって専門性を深めます。横断領域科目の専門科目Ⅱによって関連分野の知識を広げます。

・4年次では、引き続き専門科目Ⅱを履修すると同時に必修科目の卒業研究を実施し、一つの研究課題に対して、これまでに修得した専門的知識や手法を総合的に適用することにより農学をより深く理解します。

・3、4年次にインターンシップにより農学に関する実務経験を積みみます。

●実施に関する方針

・1年次にJapan-Expertプログラムの日本語に関する授業を履修し、日本語能力の修得・向上をします。また、「生物資源の開発・生産と持続利用」、「生物資源としての遺伝子とゲノム」、「生物資源と環境」、「生物資源学にみる食料科学・技術の最前線」、「生物資源科学演習」、2年次に専門基礎科目を履修することにより農学の基礎を学んだうえで

専門科目を履修します。

- ・専門科目を体系的に履修して専門性を深めるとともに、実験・実習・演習を履修することにより、問題発見・解決能力を養うことができます。
- ・「食料」、「環境」、「国際」をキーワードとした横断領域科目を履修することにより、学際的視野を深めることができます。
- ・Japan-Expert アグロノミストインターンシップを履修し、農学に関する実務経験を積むことができます。

●学修成果の評価に関する方針

シラバスに記載された評価方法に基づき、授業担当教員が厳正な教育評価を行います。また、学生が修得したコンピテンスを把握、確認することにより、卒業研究、進路選択の指導に役立てます。

●特色

海外協定校での実地体験、国際協力機構筑波国際センター等で研修する「国際インターンシップ科目」、地域の企業や団体で活動する「食と緑のインターンシップ科目」により、国際性や社会貢献意欲を高めることができます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/admission-policy/>）

（概要）

●求める人材

生物資源、農林業、環境保全に関心が強く、広範な学問を学ぶことができる柔軟な思考力を持ち、自ら問題を発見し解決に取り組むとともに、それを内外に伝え論理的に説明することができる意欲のある人材を望んでいます。

●入学までに学んでおいてほしいこと

数学、生物、物理、化学についての基礎的な知識と理解、さらには応用する能力および語学力を備えていることが望ましい。

（入学者選抜方針）

●個別学力検査等（前期日程）

全般的な基礎学力と語学力に加え、生物資源に関連する学問を学ぶのに必要な理解力・思考力・応用力を総合的に評価します。

●個別学力検査等（後期日程）

全般的な基礎学力と語学力に加え、生物資源に関する理解度や学習意欲、論理的に表現する能力を総合的に評価して選抜します。

●推薦入試

高等学校において優秀な成績を修め、あるいは課外活動などで優れた実績を有し、生物資源に関する学習意欲や適性、論理的表現力ならびに基礎学力と語学力を総合的に評価して選抜します。＊専門高校・総合学科特別入試枠を含みます。

●国際バカロレア特別入試

生物資源に関する学問分野について主体的に目標をもって学ぶための知識、思考力に加えて、語学力を含めたコミュニケーション能力などを重視して人材を選抜します。

●外国学校経験者特別入試

人類の生存と安全で豊かな生活の基盤である生物資源に興味を持ち、日本語で授業を理解するために必要な基礎学力等を有する人材を、生物資源に関する理解度や学習意欲、論理的に表現する能力の観点から総合的に評価して選抜します。

●編入学試験

基礎科目・専門科目に関する学力や語学力に加え、生物資源に関する理解度や学習意欲、論理的に表現する能力を総合的に評価して、本学類で発展できる人材を選抜します。原則として、3年次への編入学ですが、場合によっては2年次への編入学となることもあります。

●Japan-Expert (学士) プログラム

人類の生存と安全で豊かな生活の基盤である生物資源に興味を持ち、日本の農林業研究・技術に関心がある、及び日本の農林業研究・技術を活用し、将来、国内外の農林業に関す

る研究機関や企業等でアグロノミストとして貢献したい、などの動機や日本語での学習能力、社会的適応性について総合的に評価します。
学部等名 生命環境学群 地球学類
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/)
(概要) 地球の誕生から現在に至る地球の進化、大気圏・水圏・岩石圏で起こる様々な現象とそのプロセス、そして地球環境を舞台に展開される人間活動についての総合的な知識と思考力を有する、社会の諸分野で国際的な視野に立って活躍できる人材を養成します。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/)
(概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ生命環境学群地球学類の人材養成目的にかなう下記の専門コンピテンスを修得したものに学士（理学）の学位を授与します。 ●専門とする分野にとどまらない、自然科学一般に関する幅広い知識について理解している。 ●地球科学に関する高度な専門知識と多様な研究手法について理解している。 ●科学的なデータ・情報を適切な手法で解析し、合理的な推論を導く能力を修得している。 ●安全確保上の注意点を踏まえ、室内における実験機器や分析装置を使用する技能を習得している。 ●安全確保や個人情報保護などに配慮しつつ、野外での観察・観測やデータ収集を遂行する能力を修得している。 ●研究・調査を企画・遂行し、その成果を卒業研究論文・レポート等としての確にまとめ発表する能力を修得している。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/)
(概要) 学士（理学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。 ●総合的な方針 地球学類は、現在の地球環境を扱う「地球環境学主専攻」と、地球の変遷史を扱う「地球進化学主専攻」の二つの主専攻を設けています。各主専攻では、人文地理学、地誌学、大気科学、水文科学、地形学、環境動態解析学（以上、地球環境学主専攻）、地史・古生物学、地層学、地球変動科学、岩石学、鉱物学、地球資源科学（以上、地球進化学主専攻）の学問分野を学びます。 ●順次性に関する方針 1 年次では、自然科学を中心に人文・社会科学を含む学問全般に関する基礎的知識を習得するとともに、地球学に関する専門導入科目の履修により、2 年次以降に必要な基礎的な能力を身につけます。2 年次では、地球学入門を意図した専門科目とともに、地球学に必要な数学、物理学、化学、英語などを学ぶことで、計算・資料整理・発表等にかかわるコンピュータや実験機器の利用能力を高めます。さらに、英文の読解能力や英語コミュニケーション能力を修得するための専門英語を受講します。3 年次からは、主専攻に分かれ、専門科目を中心に履修します。講義、セミナー、室内実験、野外実験で構成された専門科目を受講することで、専門知識を深めます。また、現地での観察・測定・資料収集を通して、フィールドの様々な課題を考察する野外実験を数多く開講しており、野外調査と室内作業

を行う能力を修得します。また、主専攻の他に生命環境学際主専攻（留学生コース）を含めた副専攻を選択することができます。4 年次では卒業研究が中心となり、教員や大学院生と議論をしながら調査・実験を進めることで、研究の企画・遂行・総括能力や研究成果の内容を第三者に的確に伝達する能力を高めていきます。

●実施に関する方針

学生の主体的な学修を促すために、学類担当教員による教科書を準備するとともに、e-learning システムを活用しています。産業界や地域との連携およびキャリアパス教育の一環としてインターンシップ科目を設けています。また、学類独自に、また学群や関連学類と共同で、実験室やコンピュータなど学修を支援する環境の整備を行っています。さらに、国際化の推進のために、少人数制の専門語学や国際野外実験の開講、生命環境学際主専攻の英語講義の受講を推奨しています。

●学修成果の評価に関する方針

講義・演習・実験・卒業研究といった各授業の内容にあわせて、試験（筆記・口述）やレポートを課し、その到達度に応じて評価します。

●特色

本学類の特徴である野外実験は、本学附属研究センター、附属研修施設などと連携・協力して実施されており、大型水路や熱収支・水収支観測圃場などが研究教育目標を達成できるように整備されています。また、地学・地理オリンピックやジオパーク設立に向けた活動に協力することで、地球学類生が地球学を通じた社会との接点を持つ機会を設けています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/admission-policy/>）

（概要）

●求める人材

地球環境や地球進化に高い関心と探究心を持ち、問題解決に向けて自主的かつ積極的に取組み、広い視野から事象を分析することができる人材。

●入学までに学んでおいてほしいこと

理理科の諸科目と数学についての知識と理解力、日本語の文章表現力や英語の読解・作文能力を身につけていることが望ましい。また、地理や地学に強い関心を持ち、自ら学ぶ努力をしてほしい。

（入学者選抜方針）

●個別学力検査等（前期日程）

文科系・理科系にわたる全般的な基礎学力、高い語学力、自然科学系科目の高度な理解力、高度な思考力、そしてその応用力を総合評価して選抜します。

●個別学力検査等（後期日程）

文科系・理科系にわたる全般的な基礎学力、高い語学力、地球環境や地球進化に対する広い興味と高い学習意欲を持ち、論理的に思考・表現する能力を持つ人材を選抜します。

●推薦入試

高等学校において高度な基礎学力を身に付けた志願者から、地球環境や地球進化を学ぶ意欲と目的意識が明確であり、論理的に思考・表現する能力のある人材を選抜します。

●国際バカロレア特別入試

文科系・理科系にわたる全般的な基礎学力、高い語学力を持ち、地球環境や地球進化を学ぶ意欲と目的意識が明確で、学習に取り組む意欲のある人材を選抜します。

●外国学校経験者特別入試

第2種）海外生活での経験を活かしたグローバルな視点から地球をとらえ、地球環境、地球史に関する幅広い興味をベースに優れた思考力や理解力を発揮できる能力と地球学類の授業を理解するために必要な基礎学力等を総合的に評価します。

●編入学試験

自然科学や社会科学に関係する高度な基礎学力を身に付けた志願者から、地球環境や地球進化を学ぶ意欲と目的意識が明確で、論理的な思考力・表現力を持つ人材を選抜します。原則として、3 年次への編入学ですが、場合によっては 2 年次への編入学となることもあ

ります。
学部等名 理工学群
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/) (概要) 持続可能な社会に必要な幅広い教養、科学・技術の基礎から応用に至る専門性、柔軟な思考、知的創造及び問題発見・解決の能力を修得し、広い視野及び豊かな人間性を持ち、チームで仕事をするための協働能力を備え、国際社会に貢献できるグローバル人材を養成します。
学部等名 理工学群 数学類
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/) (概要) 純粋数学から応用数学まで現代数学の基礎について幅広い知識を習得することにより、高度な論理性を身につけると同時に、問題を分析しその構造を読み取って解決するという数学的思考能力を身につけた、社会の様々な分野でグローバルに活躍できる人材を育成することを目的としています。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/) (概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（理学）の学位を授与します。 ●自然科学の基礎的な知識を習得し、科学的な思考法を身につけている。 (関連するコンピテンス：自然科学の基礎知識) ●数学の基礎である「微分積分」と「線形代数」を自在に駆使できる。 (関連するコンピテンス：自然科学の基礎知識) ●数学的な論理展開の方法を理解し、数学的思考力・論理力と応用力を身につけている。 (関連するコンピテンス：数学の専門知識（代数学・解析学・幾何学・情報数学の理解）) ●代数・幾何・解析・情報数学のいずれかの分野における専門知識を習得している。 (関連するコンピテンス：数学の専門知識（代数学・解析学・幾何学・情報数学の理解）) ●専門分野に関する基礎的な英語能力および発表能力がある。 (関連するコンピテンス：数学の専門知識（代数学・解析学・幾何学・情報数学の理解）、数学英語力の養成)
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/) (概要) 学士（理学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。 ●総合的な方針 数学は非常に体系化された国際的普遍性のある学問であり、先進国の主要大学においてはどこでもほぼ同様なカリキュラムとなります。これに沿って、基礎から専門、発展・応用へと順を追ってスムーズに進行出来るよう教育課程を編成・実施します。 ●順次性に関する方針 ・1年次においては、自然科学全般に関する基礎的知識を習得するとともに、専門数学を学ぶための基礎として、全ての数学の土台である微分積分学と線形代数学を専門基礎科目と

して学びます。これらには講義のほかには演習の時間が付随し、実際に問題を解いてみます。また、共通科目、関連科目として語学など専門外の分野を広く履修します。

・2年次は基礎からの発展の時期です。微分積分と線形代数のより深い理論と、集合と位相、曲線・曲面など、専門分野への準備を行います。語学力と発表能力のアップのため、セミナー形式の数学外書輪講Ⅰもあります。

・3年次は専門分野の基礎科目を学びます。代数・幾何・解析・情報の4つの分野における基幹的知識を得るための講義と演習を行います。セミナー形式の数学外書輪講Ⅱもあり、また4年次の卒業研究へのスムーズな移行のための卒業予備研究があります。

・4年次では研究室に分かれて、研究室あたり数名の少人数セミナー形式による卒業研究を行います。同時に、専門的な話題に関する講義も開講されます。

●実施に関する方針

・主要科目には演習の時間をつけ、学生自ら例題や発展問題を解くことにより講義の理解を深めます。

・数学概論や数学外書輪講など、興味や関心を促す科目を用意します。

・幾つかの授業やセミナーにてテキストに洋書を用い、表現力や語学力アップを図るとともに、国際性に配慮します。

●学修成果の評価に関する方針

専門科目、専門基礎科目において、公正かつ厳格に成績評価を行います。また、教育が効果的に実施されているかを検証するため、すべての専門科目・専門基礎科目について授業評価アンケートを実施します。

●特色

・教育職員免許状（数学）がとりやすいカリキュラム設定がなされています。

・「数学手習い塾」を定期的に関講し、1年次の重要科目である微積分と線形代数に関することをはじめ、学生からの様々な疑問に答えられるようにしています。

・数学類キャリアパスセミナーでは、社会における数学のニーズの高さや、数学類卒業後の進路について幅広く学ぶために、企業の担当者に「数学専攻の強み」などを解説してもらいます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/admission-policy/>）

（概要）

●求める人材

数学が好きであり、分からないことがあれば、答えが出るまで根気強く考えることができる人材。また、論理的（数学的）思考能力を身につけたいと願っている人材を求めています。

●入学までに学んでおいてほしいこと

高校レベルの数学の理解を深めておくこと。また数学のみならず自然科学全般に対する関心と理解を深める姿勢を養って欲しい。

（入学者選抜方針）

●個別学力検査等（前期日程）

全般的な基礎学力と、数学を学ぶ上で必要な論理的思考力・数学的思考力・応用力を総合的に評価します。

●推薦入試

高等学校で優秀な成績を修めており、数学を学ぶ目的意識が明確であること、数学という学問に取り組む意欲等を総合的に評価します。

●国際バカロレア特別入試

自然科学に対する強い好奇心と国際的な広い視野を持っていること、数学に関連する基礎学力、および数学への学習意欲等を総合的に評価します。

●外国学校経験者特別入試

第1種）第2種）数学に対する高い関心、入学後に数学を学ぶために必要な語学力、基礎学力を総合的に評価します。

●編入学試験

専門的な数学教育を受容できる基礎的な学力を有していること、数学に対する強い関心

と思考力を有していること等を総合的に評価します。
学部等名 理工学群 物理学類
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/)
(概要) 多様に発展する現代物理学について、しっかりとした基礎と高度な専門的知識を備え、かつ、真理を探究する過程を通して育んだ柔軟な思考力と、物事の本質を洞察し問題を根本から解決する力を持つ人材を育成します。そして、それらの人材がそれぞれの能力を生かして社会の様々な分野で活躍することを目指します。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/)
(概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力(汎用コンピテンス)を修得し、本学群・学類の人材養成目的に基づき、以下の知識・能力(専門コンピテンス)を修得したものに、学士(理学)の学位を授与します。 ●自然科学の基礎となる概念や考え方を理解し、問題を解く能力(微積分、線形代数、および、化学、生物に関する科目など) (関連するコンピテンス：自然科学の理解) ●古典物理学の基礎となる概念や考え方を理解し、問題を解く能力(力学、専門電磁気学、解析力学、熱物理学など) (関連するコンピテンス：古典物理学の理解) ●現代物理学の基礎となる概念や考え方を理解し、問題を解く能力(量子力学、統計力学、相対性理論など) (関連するコンピテンス：現代物理学の理解) ●各分野の専門的な物理学の概念や考え方を理解し、問題を解く能力(卒業研究、各専門分野の物理学など) (関連するコンピテンス：専門物理学の理解) ●計算プログラムを理解・実装し、その結果を物理学的に正しく考察できる能力(卒業研究、計算物理学) (関連するコンピテンス：計算分析能力) ●実験の原理および操作を理解し、その結果を物理学的に正しく考察できる能力(卒業研究、物理学実験、実験物理学など) (関連するコンピテンス：実験分析能力) ●物理学の内容を英語等で表現および議論する能力(卒業研究、科学英語など) (関連するコンピテンス：専門的対話能力) ●自ら物理学における課題を探究し、その課題を解く能力(卒業研究、課題探究実習セミナーなど) (関連するコンピテンス：課題解決能力)
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/)
(概要) 学士(理学)に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。 ●総合的な方針 自然科学全般に関する基礎的知識を習得するとともに専門コンピテンスを効果的に習得できるように、体系的なカリキュラムを編成しています。学生が能動的に学習に取り組めるように、最適な科目形式(講義、演習、実験)を選んでいきます。 ●順次性に関する方針

物理学は、先人が築き上げたものを元に、新たに見いだされたものを積み上げて行くという過程を繰り返して発展してきました。現代物理学は高度に発展し、それぞれの分野での専門性が高いですが、一方では、基本的な概念が広い領域で普遍的に用いられています。学群の4年間では、古典物理学から始まって、現代物理学の骨格を成す基礎的科目へ、さらには専門性の高い発展的科目を順番に学習することが必要です。それぞれの科目には標準履修年次を設定しています。

・1年次…古典物理学を質点と場の観点から理解するとともに、数学・化学・生物学・地球科学などの自然科学を幅広く学びます。

・2年次…古典物理学をさらに深く学ぶとともに、現代物理学の骨格を成す量子力学などの基礎を習得します。

・3年次…現代物理学についてより発展的な内容を学ぶとともに、専門物理学を学びます。

・4年次…専門物理学を学ぶとともに、研究室に所属して卒業研究を行います。

●実施に関する方針

能動的な学習を促すためのe-ラーニングを活用した授業科目や、創造性を育む課題探求的科目を開設しています。さらに、国際的な舞台で研究を行う人材を輩出するために、外国人教員による授業科目を設置しています。

●学修成果の評価に関する方針

本学類の学修成果は、「学位授与の方針」に示す知識・能力の修得状況を基準として評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/admission-policy/>）

（概要）

●求める人材

高等学校のさまざまな科目についての基礎学力を有し、大学において物理学を学んでゆく能力を持った人材を求めます。また、広い視野を持ち、自ら学び、未知の物事に対して柔軟に対応できることが要求されます。

●入学までに学んでおいてほしいこと

高校レベルでの物理ならび数学に関する知識と理解、さらにはそれを応用する基礎的な能力。

（入学者選抜方針）

●個別学力検査等（前期日程）

全般的な基礎学力と、物理学を学ぶ上で必要な論理力・思考力・応用力を総合的に評価します。

●個別学力検査等（後期日程）

全般的な基礎学力の評価に加えて、物理学を学ぶ上で必要な論理力・思考力・応用力、ならびに物理学における広い興味と高い学習意欲を総合的に評価します。

●推薦入試

高等学校において優秀な成績を修めていることに加え、物理に関する高い関心と目的意識、学習に取り組む意欲等を総合的に評価します。

●国際科学オリンピック特別入試

国際物理オリンピックに出場した者、またはその代表選考会等において一定の成績を収めた者を対象として、明確な目標を持って学ぶ意欲や計画的に学ぶ意欲を評価します。

●国際バカロレア特別入試

自然科学に対する強い好奇心と国際的な広い視野を持ち、物理学に関連する基礎学力、そして物理学への学習意欲を総合的に評価します。

●外国学校経験者特別入試

第1種）第2種）物理学に対する高い関心、入学後に物理学を学ぶために必要な語学力、基礎学力を総合的に評価します。

●編入学試験

大学2年生程度の基礎学力と物理学を学び修得するために必要な論理力・思考力・応用力を総合的に評価します。

学部等名 理工学群 化学類
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/)
(概要) 自然界における普遍的な法則と未知物質・未知現象の探求、機能性物質の創製と材料開発、環境問題やエネルギー問題の解決、生命現象の分子レベルでの解明などに必要な基礎的で幅広い化学の知識を有する人材を育成します。その上で、これらの知識と理解に裏打ちされた柔軟な思考力と、国際的に活躍できる能力を有する人材を育成します。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/)
(概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（理学）の学位を授与します。 ●自然科学の基礎的な知識を習得し、科学的な思考法を身につけている。 (関連するコンピテンス：1 基礎化学の知識と理解力、2 無機・分析化学分野の知識と理解力、応用力、3 熱力学・統計力学分野の知識と理解力、応用力、4 量子化学・分光学分野の知識と理解力、応用力、5 有機化学分野の知識と理解力、応用力、6 生物化学分野の知識と理解力、応用力、7 化学実験の遂行能力) ●物質を分子・原子・電子・化学結合レベルで理解している。 (関連するコンピテンス：1 基礎化学の知識と理解力、2 無機・分析化学分野の知識と理解力、応用力、3 熱力学・統計力学分野の知識と理解力、応用力、4 量子化学・分光学分野の知識と理解力、応用力、5 有機化学分野の知識と理解力、応用力、6 生物化学分野の知識と理解力、応用力) ●自然界における普遍的な法則と未知物質・未知現象の探求、機能性物質の創製と材料開発、環境問題やエネルギー問題の解決、生命現象の解明に必要な化学的基礎知識を持っている。 (関連するコンピテンス：1 基礎化学の知識と理解力、2 無機・分析化学分野の知識と理解力、応用力、3 熱力学・統計力学分野の知識と理解力、応用力、4 量子化学・分光学分野の知識と理解力、応用力、5 有機化学分野の知識と理解力、応用力、6 生物化学分野の知識と理解力、応用力、7 化学実験の遂行能力) ●上述した化学に関する基礎的で必要不可欠な知識と理解に裏打ちされた柔軟な思考力と国際的に活躍できる能力を持っている。 (関連するコンピテンス：1 基礎化学の知識と理解力、8 化学英語の理解力、表現力) ●他者と協調して化学に関する問題を解決することができる。 (関連するコンピテンス：専門コンピテンス全般)
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/)
(概要) 学士（理学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。 ●総合的な方針 4 年間で化学の専門性を養うために、基礎から専門への積み上げ型の教育課程を編成・実施します。講義と実験を中心とした授業科目を設置するとともに、学生が能動的に学習に取り組めるようにするための実習・演習科目や化学に関する総合能力を養うための卒業研究を設置しています。

●順次性に関する方針

- ・1年次においては、自然科学全般に関する基礎的知識を修得するとともに、専門化学を学ぶための基礎を修得するために、講義を中心とした教育を行います。
- ・2、3年次においては、基礎から専門までの幅広い化学の知識や技術を身につけるために、専門化学の体系的な講義および講義の進行に合わせた実習、演習を行います。また、グローバルな化学情報の読解能力を修得するために、化学英語に関する講義を行います。
- ・4年次には、先端化学の知識を学ぶとともに、真理を探究する方法およびグローバルな化学情報を探索する手法を修得させるために、卒業研究が課されます。

●実施に関する方針

年次に合わせて化学のレベルが順次上がるように、基礎化学と専門化学のバランスを取った講義を実施します。自然現象を理解するための実験手法を修得するために、各種実習を実施します。自然の真理、未知現象の解明を行うための研究手法を修得するために、卒業研究を実施します。化学分野で国際的に活躍するためにも必要不可欠な英語を習得するために、化学英語の講義を実施します。

●学修成果の評価に関する方針

授業科目毎に到達目標を設定し、講義では、期末テストや小テスト、レポート、プレゼンテーション等により、実習では、レポートや実験に取り組む姿勢・質疑応答等により、総合的に達成度を評価します。

●特色

講義で習った内容をより深く理解するために、3年次において通年の専門化学実験を開講し、理論ばかりではなく、実験方法の習得にも力を入れています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/admission-policy/>）

（概要）

●求める人材

化学に関する十分な学力と、関連する分野の基礎学力を有し、自然界における普遍的な法則の追求と、新規物質や未知現象を探索する意欲を有する人材を求めます。

●入学までに学んでおいてほしいこと

高校レベルの化学についての基礎的知識を修得し、それを応用する能力を身につけていること、数学、物理学、生物学など関連分野に関する基礎的知識と語学の基礎的な能力を持つことが望ましい。

（入学者選抜方針）

●個別学力検査等（前期日程）

全般的な基礎学力と、化学を学ぶ上で必要となる高度な理解力・思考力・応用力を総合的に評価します。

●個別学力検査等（後期日程）

全般的な基礎学力と、化学を学ぶ上で必要となる理解力・思考力・応用力、化学に関する興味と意欲・表現力等を総合的に評価します。

●推薦入試

高等学校において優秀な成績を修めており、化学に関する高い関心、目的意識、学習に取り組む意欲等を総合的に評価します。

●国際科学オリンピック特別入試

国際化学オリンピックに出場した者、またはその代表者選考会等において一定の成績を収めた者を対象として、明確な目標を持って学ぶ意欲や計画的に学ぶ意欲を評価します。

●国際バカロレア特別入試

自然科学に対する強い好奇心と国際的な広い視野を持ち、化学に関連する基礎学力、そして化学への学習意欲を総合的に評価します。

●外国学校経験者特別入試

第1種）第2種）協調性、化学に対する高い関心、そして入学後に日本語で化学を学ぶために必要な語学力、基礎学力を総合的に評価します。

●編入学試験

専門的な化学教育を受容できる基礎的な学力、化学に対する強い関心、論理力、思考力、

応用力を総合的に評価します。
学部等名 理工学群 応用理工学類
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/) (概要) われわれの社会を維持・発展させ続けるために必要な最先端工学の基盤となる科学・技術を原理から理解し、さらに発展させることができる、創造力豊かな技術者・研究者を養成します。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/) (概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づく修得すべき知識・能力（専門コンピテンス）として、工学分野の様々な問題に対応するための基礎的能力（物理・化学・生物現象の理解力と数学的な論理力・計算力）と専門的能力（「応用物理と計測」、「電子・量子工学とナノ科学」、「物性工学と材料工学」、「物質・分子工学と複合化学」の4つの内、いずれかまたは複数の知識と論理的思考能力）を獲得し、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（工学）の学位を授与します。 ●最先端科学技術を原子・分子レベルで原理から理解できる基礎学力を備え、さらに発展・創造できる専門知識を身につけている ●科学技術で直面するさまざまな課題を物理、化学、生物の学際的で幅広い視点から論理的に思考できる ●チームのなかで活躍できる協調性や異分野の人とコミュニケーションして自己表現できる能力を身につけている ●国際的に活躍することができる語学力やプレゼンテーション能力を備えている
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/) (概要) 工学分野の様々な問題に対応するための基礎能力と論理的思考能力を獲得し、学修成果が学士（工学）の到達目標に達するためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。 ●総合的な方針 高度に進化した現代社会において、自然科学の成果を技術面から社会に還元して貢献することを学類教育の使命とします。そのためには、最先端科学技術を原理に立ち返って理解、発展させるのに必須の基礎学力と、最先端科学技術の専門的知識や国際性を身につけるための教育カリキュラムを提供します。 ●順次性に関する方針 2年次までに、最先端科学技術を理解するための基礎的・論理的思考力を養成するため、数学と物理と化学を重点化した教育を実施します。特に、2年次では演習を十分に行い、論理的思考力に加えて計算能力や処理能力の養成を目標としています。基礎科学の体験的・実験的学習に加えて協調性を涵養する場として、物理学系と化学系の必修の実験を2年次に開講します。さらに、各専門分野の入門的・概論的講義を通じて、3年次以降の専門分野への導入教育も行います。3年次では、高度に発展し続ける科学技術に対応するために、4つの主専攻（応用物理、電子・量子工学、物性工学、物質・分子工学）への振り分けを行い、専門性の高い講義と実験科目を提供します。主専攻振り分けは、学生の希望を最大限配慮して行います。4年次では、すべての学生が学類教員のいずれかの研究室に配属され、授業に加えて、卒業研究を行います。自ら新しい価値を見出すための研究という能動的学習の遂行能力を養成します。そして、問題提起・解決能力に加えて、研究発表等を通して情報発信力の養成を行います。

●実施に関する方針 専門分野教育においては、各分野で基礎となる共通性の高い科目（物理・化学・生物）を専門共通コア科目とすることで、分野横断的に俯瞰できる広い視野を有する学生を養成します。また、専門英語教育を3年次まで継続的に行うことで学生の語学力と国際性を高める教育をしています。 ●学修成果の評価に関する方針 カリキュラムに沿った科目の単位を取得し、汎用コンピテンス並びに専門コンピテンスが身に付き、学士（工学）にふさわしい見識、視野の広さ、問題解決能力を有しているか評価します。卒業研究では、課題の発見力、課題解決能力、研究実施能力などを評価し、卒業研究発表会においてプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、質問に対応する能力などを確認し、汎用・専門コンピテンスが養われているか総合的に評価します。 ●特色 低学年からのアクティブラーニングの一環として、研究に興味ある3年次までの学生を支援する先導的研究者体験プログラム（ARE）への参加を促します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/admission-policy/）
（概要） ●求める人材 先端科学技術を原理から理解するための基盤となる数学的・論理的思考力を有し、物理学・化学などの科学的基礎知識を備えたうえで、それらの先端的工学応用に興味を持つ人材を求めます。 ●入学までに学んでおいてほしいこと 数学Ⅲまでの数学および物理基礎・物理、化学基礎・化学の十分な知識・理解力・応用力を有していることが望ましい。また、生物基礎程度の基礎的知識と理解力が備わっているとさらに望ましい。 （入学者選抜方針） ●個別学力検査等（前期日程） 科学の技術分野への応用やミクロな自然法則に基づく科学・技術の習得に必要とされる数学や理科の学力を中心に判断します。基礎学力と進学後の勉学に対する適性を評価します。 ●個別学力検査等（後期日程） 先端技術を科学の視点から本質的に理解する基礎学力を持ち、かつ大学進学後の勉学の目的を明確に示すことができ、物理・化学法則に基づく工学分野へ進む意欲を持つ人材を選抜します。 ●推薦入試 高等学校において優秀な成績を修めていることに加え、自然科学の技術分野への応用を理解し、自然法則や物質、材料に関連する事柄について自分の興味や進路を適切に表現できる能力を持ち、かつ考察能力、分析能力を有する人材を選抜します。 ●国際バカロレア特別入試 先端科学技術を科学の視点から理解し発展させるために必要な強い意欲と数学や物理に関する基礎学力を有し、これを学ぶに必要な日本語および英語の語学力を有する人材を選抜します。 ●編入学試験 専門的な工学教育を受容できる大学2年生程度の基礎学力と勉学意欲、工学に対する強い関心と論理的思考力、コミュニケーション能力を総合的に評価します。
学部等名 理工学群 工学システム学類
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/）

(概要) 安全で安心であり、快適で豊か、かつ持続可能な人間生活を工学面から支え牽引できる人材、すなわち、 1. 広い分野に応用できる基礎能力、 2. 広い視野を持った仕事の遂行能力、 3. 社会人・職業人としての人間基本力 を身につけた技術者・研究者を養成します。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/)
(概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を習得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、工学分野の様々な問題に対応するための基礎能力と論理的思考能力を獲得し、学修の成果が以下に示す所定の水準に達したと認められる者に、学士（工学）の学位を授与します。 ●広い分野に応用できる基礎能力については、数学・物理学・コンピュータなどに係る専門基礎科目を修め、これらの知識を応用して工学的な諸問題を分析できることを求めます。具体的には、論理的・数学的な思考力と解析力を身につけ、物理的な自然現象に対する理解を深め、コンピュータを利用し情報を取得・処理する能力を身につけることを求めます。 ●広い視野を持った仕事の遂行能力については、各主専攻の専門科目を修め、これらの最新知識を獲得して、科学技術と社会・全世界・地球全体との関連を理解し、新たな技術を企画し、具体的なシステムを設計し運用できることなどを求めます。さらに、実験・卒業研究などで、同級生との協調・指導教員の指導などを経て、問題点に対する具体的な解決策を考案し、計画的に仕事を進められることなどを求めます。 ●社会人・職業人としての人間基本力については、外国語・実験・卒業研究などの科目を修め、国際的にも活躍できるコミュニケーション能力と、自分の考えを筋道を立てて第三者へわかりやすく表現できるプレゼンテーション能力を身につけることを求めます。さらに、自主性と行動力を伴い、技術者としての社会性と責任感・倫理観を持つことなどを求めます。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/)
(概要) 工学分野の様々な問題に対応するための基礎能力と論理的思考能力を獲得し、学修成果が学士（工学）の到達目標に達するためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。 ●総合的な方針 きわめて広い工学分野をカバーしている本学類は、知的・機能工学システム主専攻とエネルギー・メカニクス主専攻の2主専攻で構成されています。各主専攻で学ぶ内容に多少の違いはありますが、他主専攻の科目の履修は容易であり、また最終学年における研究室配属において主専攻の壁は設けません。主専攻による専門性の違いをある程度は保ちながら、できる限り分野横断性を重視するカリキュラムを用意しています。 ●順次性に関する方針 ・1・2年次は様々な専門分野を横断的に学ばせるカリキュラム体系により、工学システム学類のどちらの主専攻にも対応できる基礎能力を養うとともに、横断的に工学分野を捉えた「工学システム」の概念を学習します。 ・2年次秋学期からは二つの主専攻に分かれ、様々な専門分野の特色ある科目を選択し、深い専門知識を習得します。 ・2年次および3年次は各主専攻における基礎実験・専門実験・応用実験と関連の専門科目の履修を通して、様々なシステムの設計を行うために必要な統合・創造・解決能力を養います。また、全ての実験は数名の班を単位として実施されるため、チームワーク力の涵

養にも役立ちます。 ・4年次は、主専攻分野に限定することなく学類内の希望する研究室の一つに配属させ、修得した基礎能力と幅広い専門知識を活かして、卒業研究を完成させます。これにより人々の生活に役立つ工学的なシステムを構築する能力をもった技術者を育成します。また、2年次までの成績が優秀な学生は、3年次に特別卒業研究を実施して早期卒業も可能です。 ●実施に関する方針 本学類では社会が要請する教育水準を確保するため、実務系などの複数の専門科目において産業界からの非常勤講師を積極的に任用し、また外国人教員による専門英語科目を開設しています。更に、各学年で実施する実験・演習科目のために十分な数の実験室と装置、ならびに多数の学生が同時に利用可能な大規模なプログラミング演習室を用意しています。また毎学期、学生に対してクラス担任による個人面談を行い、学修をきめ細かく指導しています。 ●学修成果の評価に関する方針 成績評価はシラバスに記載された内容に従って厳密に実施し、成績評価の経緯を記録しています。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/admission-policy/） （概要） ●求める人材 工学システム学類の入学者には以下のことを求めます： 1. 工学系に必要な基礎学力とセンスがあること。 2. 好奇心と学習意欲に溢れていること。 3. 技術者になるという明確な目的意識があること。 4. 優れた思考力、判断力、表現力とコミュニケーション能力を身につけていること。 ●入学までに学んでおいてほしいこと 数学Ⅲと物理基礎・物理の内容および基礎的な英語能力を身につけていること。 （入学者選抜方針） ●個別学力検査等（前期日程） 自然科学、数学における基本的な概念や原理・法則への理解の深さ、事象を自然科学的に考察して理解するとともに数学的に処理する能力の高さを評価します。 ●個別学力検査等（後期日程） 基礎学力の評価に加えて、工学的システムに対する関心の高さと、自然科学や数学における基本的な概念の理解の深さ、並びに、勉学への意欲を評価します。 ●推薦入試 高等学校在学中における、授業科目の学習と生徒会やスポーツなどの課外活動への取り組みの両立を評価するとともに、数学など工学系に必要な基礎学力と科学的思考姿勢と工学センス、並びに、思考力、判断力、コミュニケーション能力などを評価します。 ●国際バカロレア特別入試 自然科学や数学の基礎学力に加えて、主体的に学びを考える力およびコミュニケーション能力、工学を積極的に学ぶ強い学習意欲を評価します。 ●外国学校経験者特別入試（第1種） 工学に対する関心や理解力、日本語能力に加え、入学後の学修に必要な基礎学力を総合的に評価します。 ●編入学試験 専門的な工学教育を受容できる基礎学力と勉学意欲、工学に対する強い関心と論理的思考力、コミュニケーション能力を総合的に評価します。
学部等名 理工学群 社会工学類
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/）

(概要) 人間行動が複雑に絡み合う社会的諸問題を工学的・実践的・戦略的に分析するために必要な文理融合型思考能力とデータ分析・活用能力を持ち、総合的な問題解決のためのシステムを設計できる人材を養成します。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/)
(概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ理工学群社会工学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（社会工学）の学位を授与します。 ●経済・企業・都市などの社会システムに関する基礎的理解と洞察力を有し、社会環境における不確実性を縮減するためにエビデンスに基づいた具体的政策を提言することができる。 (関連するコンピテンス：社会システムの基礎的理解と洞察力) ●複雑な社会が直面する諸問題を解決するために、数学（微積分・線形代数）・統計学（データ解析）・情報技術（プログラミング）に関する知識をツールとして用いることができる。 (関連するコンピテンス：複雑な社会問題解決のための数学・統計学・情報技術) ●現代社会が直面するグローバルな問題の本質を見極めることができる。 (関連するコンピテンス：グローバル課題の分析能力) ●経済学・経営工学・都市計画等の多面的な視点から社会的要請に柔軟に対応できる。 (関連するコンピテンス：社会的要請への対応力) ●経済学・経営工学・都市計画分野における専門家・技術者としての職業倫理を遵守できる。 ●客観的で説得力のあるコミュニケーション・スキルを持つ。 (関連するコンピテンス：コミュニケーション・スキル) ●英語を用いた基礎的なコミュニケーション・スキルを持つ。 ●チームによる協働が必要な場合は、その一員として協調的に行動できる。 ●主体的に課題を探究し、自主的・継続的に学習することができる。 (関連するコンピテンス：課題探究能力)
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/)
(概要) 学士（社会工学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。 ●総合的な方針 現代社会が直面する複雑・多様な諸問題は、もはや伝統的な学問の個別領域が単独で解決することが困難となってきました。このような現状に対処するため、社会経済システム・経営工学・都市計画の3つの主専攻分野を設け、政府・地方自治体・企業組織・地域社会が策定する政策や計画の決定過程における科学性・実証性を重視し、専門性と学際性の両面に優れた能力を身に付けられることを目標としています。このため、入学時には主専攻を決めず、2年次春学期の履修をふまえた上で、2年次秋学期に自己の専門性を高めるための主専攻を決める仕組みとしています。また主専攻に加えて副専攻の選択も可能としています。 ●順次性に関する方針 ・2年次春学期までは主として当学類の専門科目を学ぶために必要な専門基礎科目を履修します。その中には3主専攻の専門科目への入門的な性格を持つものも含まれています。 ・2年次秋学期から主専攻に所属し、専門科目を履修します。専門領域の構造を分かり易く示すために、各主専攻の専門科目をエリアという科目群に分けて、学生が学際的な専門性

を身につけることを奨励しています。さらに、成績優秀者の場合、3年次で卒業が可能なプログラムとなっています。

・4年次進級後、1年間を通して卒業研究を行います。工学、経済学、経営学、統計学、心理学、社会学など多彩な専門分野の研究者の中から指導教員を選び、理論的・実践的な研究を行います。

●実施に関する方針

・各主専攻の全エリアに演習を開設し、学生が主体的に理論と実践の学習に取り組めるように工夫しています。また、プレゼンテーションやディスカッションのスキルを演習を通じて徹底的に訓練することにより、実社会で生起する諸問題を工学的・実践的・戦略的に解決するために必要なスキルを身に付けられるようにしています。

●学修成果の評価に関する方針

学位授与の方針に掲げる9つのスキルについて基準を定めており、科目ごとにスキルの達成目標をシラバスにおいて示しています。スキルの修得状況の評価については、これらの科目の単位取得状況に基づき、達成度を測定しています。学位授与の可否については、卒業研究の評価と、卒業要件単位数充足の判定により、総合的に評価を行います。

●特色

実社会が直面する諸問題について政府・地方自治体・企業組織・地域社会と連携した問題解決型の学修機会を設けています。また、各主専攻の特性に応じたデータ分析・活用の演習を設けており、実践的なデータ活用人材を育成するための基盤が整っています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/admission-policy/>）

（概要）

●求める人材

社会・経済、企業・経営、都市・地域において生起する多種多様な社会問題を認識し対処するために必要な学際的思考力を修得し、国際社会に貢献できることを希望する人材。

●入学までに学んでおいてほしいこと

社会・経済現象、企業経営、都市計画上の問題に対して高い関心を有し、かつ論理的・数理的な思考ができること。

（入学者選抜方針）

●個別学力検査等（前期日程）

数学と外国語の基礎学力とともに、高等学校における国語・社会・理科の学習内容の理解度を評価して選抜します。

●個別学力検査等（後期日程）

高等学校における学習内容の理解度とともに、現代社会の課題や動きについての関心度、論理的・数理的な分析力、自分の言葉で表現する能力を評価して選抜します。

●推薦入試

高等学校における学習習慣と、入学後の学習に必要な基礎学力を備えた志望者の中から、問題意識の高い人材を選抜します。現代社会の課題や動きについての関心度、論理的・数理的な分析力、自分の言葉で表現する能力を評価します。

●国際バカロレア特別入試

数学の基礎学力を有し、国際的な経験を通して広い視野を持ち、一連の学習活動を主体的に行うことのできる明確な目的意識と勉学意欲を持つ人材を選抜します。

●外国学校経験者特別入試

第1種）広い視野を持ち、入学後の学習に必要な基礎学力・日本語能力を備えた志望者の中から、問題意識の高い人材を選抜します。社会の出来事や課題についての関心度、論理的・数理的な分析力、表現能力を総合的に評価します。

第2種）高等学校における学習習慣と、入学後の学習に必要な基礎学力を備えた志望者の中から、問題意識の高い人材を選抜します。現代社会の課題や動きについての関心度、論理的・数理的な分析力、自分の言葉で表現する能力を評価します。

●編入学試験

社会工学における専門的知識を修得できる基礎学力と勉学意欲、社会工学に対する強い

関心と論理的・数理的思考力、コミュニケーション能力を総合的に評価します。
学部等名 理工学群 総合理工学位プログラム
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/)
(概要) 工学教育の基盤となる数学と物理の確固たる基礎学力を備えて、モノを扱うミクロからマクロスケールにわたる分野横断的工学分野の課題を原理的な視点から理解・分析し、創造的解決に結びつけることのできるグローバル人材を育成します。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/)
(概要) 筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づく修得すべき知識・能力(汎用コンピテンス)を修得し、かつ理工学群総合理工学位プログラムの学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士(工学)の学位を授与します。 ●数学と物理学の確固たる基礎学力を身につけていること。 (関連するコンピテンス： ・数学的な論理力と計算力 ・物理現象の理解) ●分野横断的工学分野の課題を原理的な視点から理解・分析し、創造的に解決できること。 (関連するコンピテンス： ・化学・生物現象の理解、物理学実験 ・システム工学実験の分析力 ・マイクロ工学・ナノ科学の能力 ・マクロ工学・システム工学の能力 ・課題探求・解決能力) ●多文化・多分野のチームの中で活躍できる協調性、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけていること。 (関連するコンピテンス： ・課題探求・解決能力)
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/)
(概要) 学士(工学)に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。 ●総合的な方針 広範の異分野に渡って学際化している現代工学分野で活躍するためには、これらの分野で共通基盤となる数学と物理の確固たる基礎学力と、最先端科学技術において分野横断的な視野をもって自発的かつ創造的に課題解決できる能力が必要です。本学位プログラムではこれらの能力を養成するためのカリキュラムを提供します。 ●順次性に関する方針 1、2年次では理工系のすべての分野で基礎となる数学と物理を重点化した教育を実施します。特に、コンピュータを併用した演習を十分に行うことで、論理的思考力に加えて、基礎概念を実際に使える能力にまで昇華することを目標としています。また、基礎実験・専門実験を通して実験的学習と協調性を涵養します。3年次からは、マイクロ工学とマクロ工学の共通コアを形成する重要な専門科目を学修するとともに、すべての学生が2つの研究室に配属されて研究(PBL)を能動的に行うことで、より深い専門性と創造的能力、分野横断的能力を養います。 ●実施に関する方針

数学および物理の専門基礎科目および専門科目の多くで、世界標準の教科書を使用することで教育内容の世界水準を確保するとともに、コンピュータを用いた演習を行うことで情報処理能力やプログラミング能力の養成にも配慮しています。3年次と4年次のPBLでは2つの研究室に所属して、マイクロ工学とマクロ工学の両分野で研究を遂行し分野横断的能力を養成します。さらに、学生自身の専門分野の意義や、他分野との関連における専門分野の位置づけについての理解を深めるために、他学群・他学類の授業の履修を必修としています。 ●学修成果の評価に関する方針 授業科目では課題や中間試験および期末試験を用いて適正かつ厳正に評価することで学習達成度を検証します。実験や実習科目、PBLにおいては、実験や研究成果のプレゼンテーションや課題レポート等で能動的な学習遂行能力を評価します。 ●その他特筆すべき特色 日本人学生との交流や国際的協調性、日本語能力涵養のために、実験および実習科目は応用理工学類および工学システム学類の当該科目との共同開講にしています。最先端分野の研究に興味ある2年次までの学生には先導的研究者体験プログラム(ARE)の参加を促し、完了した学生には単位を認定します。国内大学院への進学のための早期卒業も可能です。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/）
（概要） (1) 超スマート社会における次世代のモノづくりを牽引するための志があること。 (2) 工学分野の学修に専念するために必要な英語能力があること。 (3) 広範な工学分野の学修を行うための数学の基礎学力があること。 (4) 工学分野の勉学に対する適性と意欲があること。
学部等名 情報学群
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/）
（概要） 知識と情報の記録、蓄積、共有、加工、利用といった諸活動にかかわる様々な情報技術やその原理となる科学を理解し、それらを使いこなす「21世紀の創造を担う人材」を養成します。また、科学的、技術的な側面だけでなく、人間の知的活動や社会的・文化的基盤についても十分な知見を身につけることを目指します。
学部等名 情報学群 情報科学類
教育研究上の目的（公表方法：http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/）
（概要） 現代社会の原動力である情報を収集・分析・理解・伝達・変換・活用するための工学的な技術やその原理となる数理や自然科学を理解し、それを実社会における様々な問題に適用して解決する実践力を備え、グローバルな視点に立って情報技術の発展を主体的に担うことができる人材を養成することを目的とします。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html）

(概要)

★学士（情報科学）

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（情報科学）の学位を授与します。

●情報科学を支える基礎知識を身につけている

（関連するコンピテンス：情報科学の基礎）

●数理モデリングとプログラムの構成原理および手法を理解し、質の高いソフトウェアを作り出す高い能力を備えている

（関連するコンピテンス：ソフトウェアサイエンス分野の専門能力）

●ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク技術を体系的に把握し、情報システムをデザインすることができる能力を備えている

（関連するコンピテンス：情報システム分野の専門能力）

●多様な知能情報処理技術ならびにメディア処理技術を体系的に理解・応用できる能力を備えている

（関連するコンピテンス：知能情報メディア分野の専門能力）

●情報科学に関する専門英語能力とグローバルな視野をもとに国際的に活躍できる能力を備えている

（関連するコンピテンス：専門英語コミュニケーション力）

●情報科学に関する未知の問題を解決する実践力、問題解決能力とイノベーション創出能力を備えている

（関連するコンピテンス：実践的技術力と問題解決能力）

●情報倫理、セキュリティ、知的所有権を理解している

（関連するコンピテンス：専門技術者としての情報倫理）

★学士（情報工学）

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（情報工学）の学位を授与します。

●情報科学を支える基礎知識を身につけている

（関連するコンピテンス：情報科学の基礎）

●数理モデリングとプログラムの構成原理および手法を理解し、質の高いソフトウェアを作り出す能力を備えている

（関連するコンピテンス：ソフトウェアサイエンス分野の専門能力）

●ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク技術を体系的に把握し、情報システムをデザインすることができる高い能力を備えている

（関連するコンピテンス：情報システム分野の専門能力）

●多様な知能情報処理技術ならびにメディア処理技術を体系的に理解・応用できる高い能力を備えている

（関連するコンピテンス：知能情報メディア分野の専門能力）

●情報科学に関する専門英語能力とグローバルな視野をもとに国際的に活躍できる能力を備えている

（関連するコンピテンス：専門英語コミュニケーション力）

●情報科学に関する未知の問題を解決する実践力、問題解決能力とイノベーション創出能力を備えている

（関連するコンピテンス：実践的技術力と問題解決能力）

●情報倫理、セキュリティ、知的所有権を理解している

（関連するコンピテンス：専門技術者としての情報倫理）

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html>）

(概要)

学士（情報科学）に係る学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

●総合的な方針

ハードウェア・ネットワークからソフトウェア・知能メディアまで、情報分野における国際標準のカリキュラムを包含し、最新の技術動向を反映した質の高いカリキュラムを提供します。情報科学・工学に関する幅広い知識とともに、プログラム言語理論や数理モデリング、ソフトウェア科学、知能インタフェースなどの情報科学分野における高度な専門性を身につけることができるようバランスのとれた教育を実施するとともに、学生が自ら選択し学ぶことを重視します。

●順次性に関する方針

・1・2年次には、英語を含む外国語、幅広い分野から自ら選択して学習する科目、体育などを通じて、社会人として活躍するための教養を身につけます。また、数学など情報科学・工学の基礎となる科目群を修得するとともに、ハードウェア、プログラミング、アルゴリズムなど情報分野全般にわたる基盤となる事項を実習や実験を交えて学習します。

・3年次には、ソフトウェアサイエンス主専攻のカリキュラムのもとで、数理モデリングとソフトウェア科学などを中心とした授業により、情報科学に関する知識と高い専門性を獲得します。さらに、ソフトウェアサイエンス実験により、実践的技術力と問題解決能力を獲得します。また、情報システムや知能情報メディア分野を含めた広範な情報科学・工学における専門的学修により、幅広い専門知識と専門技術を獲得します。

・4年次においては、上記の学修に加えて、卒業研究・専門語学により情報科学における革新的技術を生み出せる創造力とチャレンジ精神を滋養するとともに、国際的な視点からの発想力とコミュニケーション能力、協調性を身につけ、実社会で通用する能力を獲得します。

●実施に関する方針

情報科学・工学の専門科目のみならず、数学、英語などの基礎となる科目においても、演習やコンピュータによる実習・実験を多く取り入れ、講義で得た知識や技術への理解を深める教育を実施します。また、学生が自らテーマ設定・計画立案をして学習する科目など、学生の自主性を引き出すための科目群を用意します。

●学修成果の評価に関する方針

・評価方法：学生の成績および卒業要件達成状況、アンケート調査、卒業論文などの成果物、学会発表・課外活動成果等を通じて、教育プログラム全体を通じた学修成果の達成状況を評価します。

・評価指標（在学時）：単位修得状況、GPA、英語試験成績、進級・留年率、休学・退学率、課外活動状況等。

・評価指標（卒業時）：GPA、学位取得率、卒業論文・卒業研究発表、就職・大学院進学率、卒業時アンケート、課外活動成果等。

●特色「組み込み技術キャンパス OJT プログラム」では、企業で製品開発に携わる講師による実践的教育を受けることができます。

学士（情報工学）に係る学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

●総合的な方針

ハードウェア・ネットワークからソフトウェア・知能メディアまで、情報分野における国際標準のカリキュラムを包含し、最新の技術動向を反映した質の高いカリキュラムを提供します。情報科学・工学に関する幅広い知識とともに、ハードウェア・ネットワーク・基盤ソフトウェアから知能メディア・メディア情報学などの情報工学分野における高度な専門性を身につけることができるようバランスのとれた教育を実施するとともに、学生が自ら選択し学ぶことを重視します。

●順次性に関する方針

・1・2年次には、英語を含む外国語、幅広い分野から自ら選択して学習する科目、体育な

どを通じて、社会人として活躍するための教養を身につけます。また、数学など情報科学・工学の基礎となる科目群を修得するとともに、ハードウェア、プログラミング、アルゴリズムなど情報分野全般にわたる基盤となる事項を実習や実験を交えて学習します。

・3年次には、情報システム主専攻・知能情報メディア主専攻のカリキュラムのもとで、基盤ソフトウェア・システム構築や知能情報・メディア工学などの授業により、情報工学全般に関する知識と専門性を獲得します。さらに、情報システム・知能情報メディア実験により、実践的技術力と問題解決能力を修得します。また、ソフトウェアサイエンス分野を含めた広範な情報科学・工学における専門的学修により、幅広い専門知識と専門技術を獲得します。

・4年次においては、上記の学修に加えて、卒業研究・専門語学により情報工学における革新的技術を生み出せる創造力とチャレンジ精神を滋養するとともに、国際的な視点からの発想力とコミュニケーション能力、協調性を身につけ、実社会で通用する能力を獲得します。

●実施に関する方針

情報科学・工学の専門科目のみならず、数学、英語などの基礎となる科目においても、演習やコンピュータによる実習・実験を多く取り入れ、講義で得た知識や技術への理解を深める教育を実施します。また、学生が自らテーマ設定・計画立案をして学習する科目など、学生の自主性を引き出すための科目群を用意します。

●学修成果の評価に関する方針

・評価方法：学生の成績および卒業要件達成状況、アンケート調査、卒業論文などの成果物、学会発表・課外活動成果等を通じて、教育プログラム全体を通じた学修成果の達成状況を評価します。

・評価指標（在学時）：単位修得状況、GPA、英語試験成績、進級・留年率、休学・退学率、課外活動状況等。

・評価指標（卒業時）：GPA、学位取得率、卒業論文・卒業研究発表、就職・大学院進学率、卒業時アンケート、課外活動成果等。

●特色

「組み込み技術キャンパス OJT プログラム」では、企業で製品開発に携わる講師による実践的教育を受けることができます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/admission-policy/>）

（概要）

●求める人材

情報技術や自然科学・工学に強い好奇心と探究心を持ち、その学習のために必要な基礎学力を有し、修得した知識を創造的に活用・発展させて新しい課題に積極的に取り組み、情報化社会の中核を担う意欲のある人材を求めます。

●入学までに学んでおいてほしいこと

情報科学や情報技術についての基本的な理解力を身につけていることが望ましい。数学的な知識も備えていることが望ましい。

（入学者選抜方針）

●個別学力検査等（前期日程）

数学、理科、外国語の基礎学力に加えて、高等学校等における主体性をもった活動の状況を評価します。

●推薦入試

高等学校における学習状況と課外活動への取り組みとともに、情報科学や情報技術への関心、新しい技術を創造する意欲、自己表現能力、論理的に思考しその結果を的確に説明するコミュニケーション能力等を総合的に評価します。

●AC入試

情報科学や情報技術、または関連する分野に強い関心を持ち、自ら研究課題と明確な目標を設定して問題の分析や解決を創造的に図る意欲と能力を有し、その過程と結果を論理的に説明することのできる人材を選抜します。

●国際科学オリンピック特別入試 日本情報オリンピック本選でAランクとなった者、または情報処理推進機構が主催する未踏IT人材発掘・育成事業に採択されたテーマのクリエイターを対象として、明確な目標を持って学ぶ意欲や計画的に学ぶ能力を評価します。 ●国際バカロレア特別入試 情報科学や情報技術への関心、新しい技術を創造する意欲、論理的思考能力、語学力を含めたコミュニケーション能力等を総合的に評価します。 ●外国学校経験者特別入試 第1種)第2種)情報科学や情報技術への関心や学習意欲、数学の基礎学力と論理的思考力、日本語及び英語によるコミュニケーション能力等を評価します。 ●編入学試験 情報科学や情報技術を学ぶために必要な数学、情報基礎、専門的知識を学ぶために必要な大学2年次修了程度の英語(TOEFL/TOEICスコアによる)の学力を総合的に評価します。
学部等名 情報学群 情報メディア創成学類
教育研究上の目的(公表方法: http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/)
(概要) これからのネットワーク情報社会を発展させるために不可欠な基盤的技術分野や、Web・映像・音楽などの多種多様な情報をコンテンツとして扱い流通させる分野などにおいて、革新的技術や科学的理論を創造的に生み出すことができる技術者、研究者を養成します。
卒業又は修了の認定に関する方針
(公表方法:http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html) (概要) 筑波大学学士課程の教育目標に掲げられた知識・能力(汎用コンピテンス)を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士(情報メディア科学)の学位を授与します。 ●専門性…情報メディア科学に関する概念、原理、理論、技術を体系的に理解し、それらに関する研究開発を行うことができる。 (関連するコンピテンス:デジタルコンテンツ、ネットワークサイエンス、情報メディアとインタラクション、コンピューティングとシステム、数理的基盤、人間の認知と社会) ●デザイン力…工学・科学における機能美や実現可能性を論理的思考に基づいて客観的に判断できる審美眼的素養を備え、それに基づいて実システムとして設計できるデザイン力を身につけている。 (関連するコンピテンス:情報メディアとインタラクション、数理的基盤、デザインと創造性) ●ヒューマンスキル…プロジェクトチームで協働できるコミュニケーション能力、課題発見能力、問題解決能力を身につけている。 (関連するコンピテンス:情報メディアとインタラクション、人間の認知と社会、デザインと創造性) ●倫理観…知的財産保護や個人情報保護等に代表される技術と社会における倫理観を備えている。 (関連するコンピテンス:人間の認知と社会)
教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法: http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html)
(概要) 学士(情報メディア科学)に係る学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。総合的な方針 コンテンツの蓄積や流通を支えるネットワークメディア・テクノロジーと、コンテンツの活用・製作にかかわるコンテンツテクノロジーの2領域を中心に、これら2領域に欠かすことのできない情報科学・技術分野の教育を融合した情報メディア科学のカリキュラムを提供します。幅広い知識と高度な専門性を学生の主体的選択により身につけることがで

きるような科目群を提供します。

●順次性に関する方針

1 年次では、線形代数や微分積分といった数学科目とリテラシーやプログラミングの情報技術科目を中心に、情報科学・技術分野における基礎力を身につけるとともに、コンテンツ処理に関する導入科目でアートの素養などを身につけます。

2 年次では、データやアルゴリズム、ネットワークに関する科目、人・文化・社会に対する広い視野と教養を養うための人間の科学やネットワーク社会とビジネスに関する科目などにより、1 年次の基礎力に幅をもたせ情報科学に関する確かな技術力と応用力、倫理観を身につけます。

3、4 年次では、情報メディア科学に関する 6 つの分野（インターネット・通信技術、コンテンツの蓄積・流通技術、インタラクション技術、コンピュータサイエンス、コンテンツ処理・活用技術、コンテンツ製作基盤技術）の専門科目が幅広く提供されており、また長期にわたって 1 つのテーマを追究する実験科目の履修とあわせて、専門性はもとより、ヒューマンスキルや実践力なども身につけます。そして、4 年次の卒業研究により、情報メディア科学における専門知識、技術力などの総仕上げを行い、革新的技術や科学的理論を創造的に生み出すことができる実践力を身につけます。

●実施に関する方針

履修計画やモチベーションに応じて、共通する基礎を修得した上で、自由に科目を選べるカリキュラムとなっています。これにより、学生自身の希望や適性に適合した多様な履修計画が可能となり、社会のニーズに応じた様々な進路に対応できます。また、ダイナミックに変容しているネットワーク情報社会の現状、未来を見据え、産業界から招聘した講師陣による、実体験を踏まえた指導も生かしています。それらを通じて時代のニーズに合うカリキュラム構成となるよう、不断に見直し、改変を進めていきます。

●学修成果の評価に関する方針

卒業論文・卒業研究の成果、GPA、単位修得状況や履修状況に基づく面談等からカリキュラム全体における学習成果の達成状況进行评估します。

また、各授業科目においては、成績評価の基準及び方法を明示し、それに基づいて、学習成果を公正に評価します。

●特色

「組み込み技術キャンパス OJT プログラム」を始めとして、先端 IT 企業（ベンチャー企業も含む）等との連携により、実社会で真に必要なとされる技術の修得を目指す演習・実験科目を実施しています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/admission-policy/>）

（概要）

●求める人材

理数系の素養と文化や芸術に対する豊かな感性を兼ね備え、ネットワーク情報社会における各種の技術や学問分野に強い興味と学習意欲を持ち、創造的に社会貢献することを目指す人材を求めます。

●入学までに学んでおいてほしいこと

在学中に学んだ科目、特に数学や英語についてはよく復習して内容を身につけておくこと。また、情報ネットワークを基盤とする社会全体に対して広く関心を持ち、知識や見識を意欲的に広げていくことを普段から心がける姿勢。（入学者選抜方針）

●個別学力検査等（前期日程）

幅広い基礎学力に加えて、数学並びに外国語の学力と主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を総合的に評価します。

●推薦入試

高等学校在学中の学習状況や基礎学力、課外活動への取組みとともに、情報メディアの科学と技術に対する学習意欲や目的意識、自己表現能力、自己分析能力、コミュニケーション能力を総合的に評価します。

●A C 入試

コンテンツやネットワークメディアを支える情報メディアの科学と技術において、研究

課題を自ら設定する創造性と意欲、課題を緻密に分析し創造的に解決する問題解決能力、その過程および結論を論理的に説明できる能力を総合的に評価します。 ●国際科学オリンピック特別入試 日本情報オリンピック本選で A ランクとなった者を対象として、明確な目標を持って学ぶ意欲や計画的に学ぶ能力を評価します。 ●国際バカロレア特別入試 情報メディアの科学と技術に対する学習意欲や論理的思考能力、理解力、及び本学類での学修に必要な数学などの基礎学力や日本語でのコミュニケーション能力を総合的に評価します。 ●外国学校経験者特別入試 第 1 種) 第 2 種) 情報メディアの科学と技術に対する学習意欲や論理的思考能力、理解力、及び本学類での学修に必要な数学の基礎学力や日本語及び英語でのコミュニケーション能力等を総合的に評価します。 *編入学試験 情報メディアの科学と技術に対する高い学習意欲と、専門科目に関する知識を学ぶのに必要な大学 2 年次修了程度の英語 (TOEFL/TOEIC スコアによる)、数学及び情報基礎の学力を有する人材を選抜します。
学部等名 情報学群 知識情報・図書館学類
教育研究上の目的 (公表方法: http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/)
(概要) 知識や情報を活用する能力を育み、関連する社会制度と技術の専門教育を行います。これらの教育を通じて、知識資源の形成、加工、流通、利用の発展に寄与する専門家と人間、社会、技術にわたる総合的視野や問題解決能力を持った職業人を育成します。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法: http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html)
(概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力 (汎用コンピテンス) を修得し、かつ情報学群知識情報・図書館学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士 (図書館情報学) の学位を授与します。 ●文理融合型基礎の獲得: 情報学分野に関する文理にわたる幅広い基礎知識と視野を獲得していること ●知識共有現象の理解: 知識を生成・加工・蓄積・伝達・利用する知識共有現象を多様な学問的観点から理解していること ●調査研究能力: 量的調査、質的調査、統計解析などのさまざまな調査分析手法を習得し、調査研究を遂行できること ●知識基盤構築能力: 情報技術を駆使して知識資源やデータ基盤を形成・活用する能力を有していること ●知識伝達能力: さまざまな情報源から適切な情報を検索し蓄積された知識を適切に加工・表現して伝達する能力を有すること ●多様性の理解と倫理性の獲得: 文化や価値観の違いを理解し、倫理観と公共心を備えていること
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html)
(概要) 学士 (図書館情報学) に係る学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。総合的な方針 三つの主専攻に分け、知識科学主専攻では「人間」、知識情報システム主専攻では「技術」、情報資源経営主専攻では「社会」をキーワードに教育を行います。どの主専攻においても幅広い視野を養い、専門領域の内容に即して、人間、情報技術、社会・文化の結合と相互の役割を理解するための科目を展開します。

●順次性に関する方針

1年次では、総合科目、外国語や体育などの基礎科目に加えて、知識情報、情報システムなどについての概論や、プログラミング入門などの専門基礎科目を通して、基礎的知識や技術を学びます。2年次では、1年次に得た知識や技術をさらに深めていくため、主要なテーマごとに設定された講義と、技術を修得する知識情報演習などからなる専門基礎科目を履修します。3年次では三つの主専攻のいずれかに属して、専門科目を履修します。多様な視点を育成するため、所属する主専攻の専門科目だけでなく、他の主専攻の専門科目も履修することが要求されます。4年次では、研究室に所属して卒業研究を行い、論文を執筆します。

●実施に関する方針

科目数を厳選し、その多くを必修とすることですべての学生が一定水準以上の文理融合型の基礎を身につけるよう配慮しています。各年次に必修として演習・実習を配し、応用的・実地的な文脈で総合的に理解する仕組みを提供しています。また、図書館や企業における「インターンシップ」及び海外研修科目として「国際インターンシップ」を実施しています。

●学修成果の評価に関する方針

学類が開設する個々の科目においては、到達目標とそれに対応した評価基準をシラバスに明記し、科目の到達目標の達成を保証するよう単位を授与します。

成績評価を厳格化・透明化するために、成績分布の目標値を定めるとともに、科目ごとの成績分布を公表します。

教育課程全体では、学位授与の方針に記載した知識・能力を獲得できるよう卒業要件を構成しています。

●特色

先輩が色々な相談にのってくれる「春日ラーニングコモンズ」を図書館情報学図書館に設置しています。ここでは履修計画の立て方、学生生活の過ごし方、授業で出された課題のヒント、レポートの書き方、図書館の使い方などが教えてもらえます。「組み込み技術キャンパス OJT」や「分野・地域を越えた実践的情報教育協働ネットワーク (enPiT)」ではシステム・ソフトウェア開発の実践的教育も受けることができます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/admission-policy/>）

（概要）

●求める人材

知識スペシャリストにふさわしい豊かな発想と表現力をもった人材、知識ゼネラリストにふさわしい論理的思考力とコミュニケーション力をもった人材を求めます。

●入学までに学んでおいてほしいこと

高等学校までの学習内容に広く関心を持ち、特に英語、国語、数学（数Ⅱ・数Bまで）の基礎学力を身につけていること。

（入学者選抜方針）

●個別学力検査等（後期日程）

総合的な基礎学力に加えて、論理的思考力、表現力、広い視野からの発想を評価します。

●推薦入試

高等学校で学習する全教科がバランス良く優れていることに加え、論理的思考力、コミュニケーション能力、説得力、豊かな発想を評価します。

●A C入試

社会における情報の伝達や知識の創造に関して幅広く興味を持ち、関連した課題を自ら発見し、分析・解決していく能力を評価します。課題の分析結果を論理的に説明することや、説得力のある提案ができることも評価します。

●国際バカロレア特別入試

主体的に学ぶ意欲のある者を対象として、語学力を含む基礎学力や論理的思考力、コミュニケーション能力、説得力を評価します。

●外国学校経験者特別入試

第1種) 第2種) 知識と情報に対する学習意欲や日本語によるコミュニケーション能力

に加えて、日本語及び英語による理解力、論理的思考力、表現力等を総合的に評価します。 ●編入学試験 知識と情報に関する領域で学んだ知識・技術を深めたり、異なる領域で学んだ知識・技術を基に新しい領域に挑戦したりする意欲と学力を有する人材を選抜します。
学部等名 医学群
教育研究上の目的（公表方法： http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html ）
（概要） 良き医療者、すなわち優れた医療技術のみならず、しっかりしたコミュニケーション能力に裏打ちされた全人的対応のできるグローバルスタンダードに則った医療人、さらには医学、看護学、医療科学の分野における世界レベルの研究者を養成します。
学部等名 医学群 医学類
教育研究上の目的（公表方法： http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/ ）
（概要） 将来優れた臨床医、医学研究者、医学教育者あるいは保健・医療・福祉の専門家として、それぞれの分野でグローバルな活躍をもって地球規模課題の解決に挑み、社会に奉仕し貢献するために、基本的な臨床能力と医学研究能力を備え、高い問題解決能力と良好なコミュニケーション力をもって、患者の立場に配慮した医療および医学研究を生涯にわたり推進する人間性豊かな医師を養成します。
卒業又は修了の認定に関する方針
（公表方法： http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html ）
（概要） 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ医学類卒業時コンピテンシーを修得したと認められる者に、学士（医学）の学位を授与します。 ●プロフェッショナリズム 豊かな人間性と生命の尊厳について深い認識と倫理観を有し、人の命と健康を守る医師になる者としての自覚と責任感をもって医療を実践できる。常に向上心を持ち、省察を行い、生涯にわたり自己研鑽を続けることができる。 ●科学的思考 事象について、好奇心・探究心を持って科学的な視点でとらえるとともに、未知の問題を解決するための科学的な方法を理解できる。 ●コミュニケーション 多職種を含むチームで連携し患者中心の医療を提供するために、患者やその家族、およびチームメンバーとの間で適切にコミュニケーションをとることができる。 ●診療の実践 医療の基盤となっている基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学の知識を有し、それを応用して、患者の問題を全人的に理解し、それを解決するための適切な診療を実践できる。 ●医療の社会性 人間個体はもちろん、地域・社会あるいは人類全体のグローバルな問題を広くとらえ、保健・医療・福祉の関連法規、制度、システム、資源を理解した上で、社会基盤に基づく地域・社会の健康を支える活動を実践できる。 ●未来開拓力 自身の未来を切り拓き、広く社会に貢献するために、グローバルな視野を持ち、困難な状況においてもたくましくしなやかに、積極果敢に挑戦する姿勢を示す。また、「教育の筑波」としての伝統を継承し、情熱をもって教育を実践し、周囲と協働してリーダーシップを発揮できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html ）

(概要)

学士（医学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

●総合的な方針

全国の医学部に先駆けて、開学当初より基礎医学・臨床医学・社会医学を統合した6年間一貫教育を取り入れており、自己学習能力・問題解決能力の涵養を重要視していること、体験型プログラムが充実していることが特徴です。

●順次性に関する方針

・1～3年次…医学の基礎コース

8～9人の少人数グループに分かれ、チューター教員のファシリテートを受けつつ、事例を用いた討論や自習により自ら問題解決を行う学習方式「PBL テュートリアル」が中心です。基礎・臨床・社会医学の分野が統合された28コースから構成されます。

・4～6年次…診療参加型臨床実習（クリニカル・クラークシップ）

従来の見学を中心とする臨床実習とは異なり、医療チームの一員のStudent doctorとして参加型の臨床実習を行います。前半の1年間は大学病院を中心とした内科、外科などの必修診療科での実習を行い、後半では選択実習の他に、茨城県内の地域の医療機関における実習も行います。実習の前には、医療系大学間共用試験実施評価機構が行う、CBT（コンピューターを用いた知識の評価）とOSCE（基本的診療技能・態度の実技に関する客観的評価）に合格しなければなりません。

・1～6年次…医療概論

医療倫理、チーム医療、地域医療（プライマリ・ケア）、ヘルスプロモーション、医師患者関係など、上記の臓器系統別のプログラムでは修得が難しい領域を体系的に学びます。

・6年次…アドヴァンスト・エレクトィブズ各自の希望により、大学内外・国内外の医療機関、研究室、行政などで実習を行います。

・1～6年次…研究室演習・実習

自分が興味を持った分野の研究室で教員のアドバイスを受けながら、最先端の医学研究を行います。5年次後半には、将来の医学研究につながる「新医学主専攻」を選択することができます。また、6年次には新医学主専攻の学生のうち、卒業後直ちに大学院博士課程へ進学する者を対象とした「国際的医学研究人養成コース」も用意されています。

●実施に関する方針

自ら学ぶ態度と習慣をつけ、未知の問題を解決する能力を身につけさせるために、低学年では、少人数制によるテュートリアル方式を全面的に採用しています。この学習を支援するために、リソースパーソン（教員）を配置、e-learning環境など学習サポート体制を整備し、教授法の向上を目指した教員研修会を定期的の実施しています。

臨床実習は、大学附属病院各診療科を中心に行う他に、大学教員が茨城県内の地域医療の現場で直接指導を行う地域医療教育センター・ステーション制度も活用して行います。

●学修成果の評価に関する方針

各科目では、到達目標に達しているかをシラバスに記載されている方法を用いて公正に成績評価を行います。4年次には全国共用試験であるCBT、臨床実習前OSCEを受験し、合格した者がStudent Doctorの認証を受け病院実習に進むことができます。6年次には臨床実習後のOSCEが行われ、卒業に必要な要件となっています。進級・卒業判定は各学年の客観的判定基準に基づき、医学類教育会議運営委員会が厳格に行います。

●その他特筆すべき特色

英語教育改革や国際バカロレア特別入試を実施するなど、広く世界から国際感覚豊かな学生を募り、世界で活躍できる医師を養成しています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/admission-policy/>）

(概要) ●求める人材 自然科学、語学等の十分な基礎学力と豊かな創造性、探求心を有し、高い倫理観、協調性、コミュニケーション能力を持って、生涯にわたり人類の健康と福祉に貢献する強い意志を持つ人材を求めています。 ●入学までに学んでおいてほしいこと 自然科学、外国語についての十分な知識と理解、さらに応用する能力が必要である。特に自然科学や医学に関する英文記事を理解し要約する能力や、グループの中で積極的に討論に参加したり、意見をまとめる能力を備えていることが望ましい。 (入学者選抜方針) ●個別学力検査等（前期日程） 広い基礎学力に加えて、数学、理科、英語の学力を評価するとともに、医学を志向する動機、修学の継続性、適性、感性、社会的適応力など総合的な人間性について評価します。 【地域枠】＊ 上記に加え、将来茨城県の医療を担う強い意志を有する人材を、総合的に評価します。 ●推薦入試 高等学校で学習する全教科がバランス良く優れている者の中から、医師となる資質が十分な人材を小論文、適性試験によって総合的に評価します。 【地域枠推薦入試】 上記に加え、将来茨城県の医療を担う強い意志を有する人材を、小論文、適性試験により総合的に評価します。 ●研究型人才入試 広い基礎学力に加えて、自ら発見した自然科学の課題に対し、自主的かつ継続的に取り組み、その結果、到達した高い成果を評価します。また、医学を志向する動機、修学の継続性、研究者としての適性・資質、社会的適応力等総合的な人間性についても評価します。 ●国際バカロレア特別入試 広い基礎学力に加えて、数学、理科、英語の学力を評価するとともに、医学を志向する動機、修学の継続性、適性、感性、社会的適応力等総合的な人間性について評価します。 ●海外教育プログラム特別入試 広い基礎学力に加えて、数学、理科、英語の学力を評価するとともに、医学を志向する動機、修学の継続性、適性、感性、社会的適応力等総合的な人間性について評価します。 ●編入学試験 広い基礎学力に加えて、数学、理科、英語の学力を評価するとともに、医学を志向する動機、修学の継続性、適性、感性、社会的適応力等総合的な人間性について評価します。
学部等名 医学群 看護学類
教育研究上の目的（公表方法： http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/ ）
(概要) 広い教養と深い人間理解を基盤に、人々のニーズに合った質の高い看護を提供し、保健・医療・福祉チームの一員として協働できる優れた看護職を育成するとともに、保健医療分野における行政官、国際的な視野に立った看護職、学際的な研究や行進を育てる教育者など、広く社会に貢献する人材を養成することを目的とします。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html)
(概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（看護学）の学位を授与します。 ●教養教育（リベラルアーツ）の学習に裏付けられた専門科目を修得している。 (関連するコンピテンス：看護における対象理解、看護の専門知識・技術) ●科学的根拠に基づいた知識・技術、および高度看護専門職にふさわしい倫理観と態度を

身につけている。

(関連するコンピテンス：科学的根拠に基づく看護の実践力、看護倫理とケアリング)

●自ら新たな知識・技術を学ぶ態度と習慣を身につけ、未知の問題を解決する能力を獲得している。

(関連するコンピテンス：科学的根拠に基づく看護の実践力)

●生涯にわたって自己学習を継続する能力を備えている。

(関連するコンピテンス：看護職としてのキャリア形成力)

●国際的な動向の理解、多様な視点から看護の役割を探究する能力を身につけている。

(関連するコンピテンス：医療における連携・協働、国際的な看護の視点)

筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ医学群学位プログラムの学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（ヘルスケア）の学位を授与します。

●教養教育（リベラルアーツ）の学習に裏付けられた専門科目を修得している。

(関連するコンピテンス：ヘルスケアのニーズに対する理解、ヘルスケアの専門知識・技術)

●科学的根拠に基づいた知識・技術、およびヘルスケアサービスの専門職にふさわしい倫理観と態度を身につけている。

(関連するコンピテンス：学際的視点に基づいたヘルスケア、ヘルスケアと倫理)

●自ら新たな知識・技術を学ぶ態度と習慣を身につけ、未知の問題を解決する能力を獲得している。

(関連するコンピテンス：学際的視点に基づいたヘルスケア)

●生涯にわたって自己学習を継続する能力を備えている。

(関連するコンピテンス：ヘルスケアの場に対するキャリア形成力)

●国際的な動向の理解、多様な視点からヘルスケアサービスの専門職としての役割を探究する能力を身につけている。

(関連するコンピテンス：ヘルスケアにおける連携力、国際的なヘルスケアの視点)

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html>）

(概要)

学士（看護学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

●総合的な方針

総合大学の特性を生かして、他学類の学生と総合科目・専門導入科目などを通じて学習交流できる場を提供しています。理論と実践が乖離しないように、学内の演習では、現職の臨床看護スタッフを招き、現状での最先端技術に対応できるような、現実に応じた実践能力の向上を目指した教育を行なっています。また、実習においては附属病院、県内の施設との連携を深め、最新の医療・ケアの体験を通して学ぶ機会をつくっています。

●順次性に関する方針

1年次・2年次では、看護の専門的な役割理解を中心に、看護の基盤となる基本的な看護技術を学習し、専門分野の学修に結びつくようなカリキュラム構成としています。また、看護の専門基礎科目を充実させ、広い視野に立って看護学の専門性が理解できるような工夫も行っています。3年次から4年次にかけては、臨床看護学、精神看護学、高齢者看護学、ウィメンズヘルス看護学、小児・発達支援学を学習することで、各分野のエビデンスに基づいた高度な専門技術を学修します。学修支援として、客観的臨床実技試験（OSCE）などを実施し、技術習得の向上を図っています。また、地域看護、在宅看護の学びによって、保健医療福祉行政などの知識を修得します。さらには、グローバルな人材育成を目指すため、国際保健学、国際看護学、国際看護研修などの学びを通して、国際的な視野に立った看護実践を学ぶ機会を提供しています。4年次は、看護の専門領域について、これまでの学習を活用し、さまざまな指導教員の下看護実践について探究する科目を行っています。

●実施に関する方針

自ら学ぶ態度と習慣をつけ、未知の問題を解決する能力を養うために、少人数制によるテュートリアル方式を採用した演習・実習を行っています。これらの学習を支援するために、いつでもどこでもコンピューターネットワークを通じて、効果的な学習支援が可能なe-learningをとりいれ、それらの学習成果を自己点検できるように、インターネットを通じて試験が可能なIBTなどの導入を図り、情報環境の活用による学習のサポート体制を整備しています。また、教員の教育力のアップを図る目的で、ファカルティ・ディベロップメント（教授法の向上を目指した教員研修会）を積極的に実施しています。

●学修成果の評価に関する方針

各授業科目では、担当教員が厳正な教育評価を実施しています。

科学的根拠に基づいた知識や技術は、専門基礎、専門科目の講義での学習成果について、試験やレポート等によってその到達度を客観的に評価します。

高度看護専門職にふさわしい倫理観と態度は、専門基礎、専門科目の講義、演習も試験やレポート等により客観的な評価を行い、また実習の中では複数人の担当教員により到達度を評価します。

学習に対する主体性や未知の問題の解決能力、生涯にわたる自己学習を継続する能力は、専門科目である看護学の発展領域の科目の学習成果ならびに看護学の探究演習で評価します。

国際的な動向の理解、多様な視点から看護の役割を探究する能力は、国際保健学、国際看護学等の試験やレポート等により客観的に評価します。

●特色

看護の専門性に合わせてコース選択を行うことができます。つまり看護師免許の受験資格は基本的資格要件として全員が資格取得可能なカリキュラムとし、その他、保健師コース、養護教諭コースを選抜制で設けています。また、助産師免許を取得したいと思い、本学大学院看護科学学位プログラムに進学する学生や、教育・研究職を視野に入れ、大学卒業と同時に看護科学学位プログラム（博士前期課程）に進学する学生や、卒業後臨床の場で経験を積んでから大学院に進学する卒業生もいます。看護学類の卒業生のキャリアアップを支援できるようにしています。

学士（ヘルスケア）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

●総合的な方針

総合大学の特性を生かして、他学類の学生と総合科目・専門導入科目などを通じて学習交流できる場を提供しています。理論と実践が乖離しないように、学内の演習では、現職のスタッフを招き、現状での最先端技術に対応できるような、現実に即した実践能力の向上を目指した教育を行なっています。また、実習においては高齢者施設、附属病院等との連携を深め、最新のヘルスケアサービスに関する体験を通して学ぶ機会をつくっています。

●順次性に関する方針

1年次は主に日本語を学習します。2年次から看護学類生と共に、ヘルスケアの基盤となる生活援助科学に関する科目を学習の起点とし、専門分野の学修に結びつくようなカリキュラム構成としています。また、看護の専門基礎科目の他に、広い視野に立ってヘルスケアサービスが理解できるような工夫も行っています。3年次から4年次にかけては、国際ヘルスケア概論、ヘルスケア実習等の学びによって、各分野のエビデンスに基づいた高度専門技術を学修します。また、地域看護、在宅看護の学びによって、日本ならびに国際的な保健医療福祉行政などの知識を修得します。さらには、グローバルな人材育成を目指すため、国際保健学、国際看護学などの学びを通して、国際的な視野に立ったヘルスケアサービスについて学ぶ機会を提供しています。また、これまでの学習を活用し、ヘルスケアサービスについて探究する科目を行っています。

●実施に関する方針

自ら学ぶ態度と習慣をつけ、未知の問題を解決する能力を養うために、少人数制によるテュートリアル方式を採用した演習・実習を行っています。これらの学習を支援するために、いつでもどこでもコンピューターネットワークを通じて、効果的な学習支援が可能な

e-learning の充実を実施し、それらの学習成果を自己点検できるように、インターネットを通じて試験が可能な IBT などの導入を図り、情報環境の活用による学習のサポート体制を整備しています。また、教員の教育力のアップを図る目的で、ファカルティ・ディベロップメント（教授法の向上を目指した教員研修会）を積極的に実施しています。

また、ヘルスケアコースでは、日本人看護学生によるチューター制度を設けています。

●学修成果の評価に関する方針

各授業科目では、担当教員が厳正な教育評価を実施しています。

科学的根拠に基づいた知識や技術は、専門基礎、専門科目の講義での学習成果について、試験やレポート等によってその到達度を客観的に評価します。

高度看護専門職にふさわしい倫理観と態度は、専門基礎、専門科目の講義、演習も試験やレポート等により客観的な評価を行い、また実習のなかでは複数人の担当教員により到達度を評価します。

学習に対する主体性や未知の問題の解決能力、生涯にわたる自己学習を継続する能力は、専門科目である看護学の発展領域の科目の学習成果ならびに看護学の探究演習で評価します。

国際的な動向の理解、多様な視点から看護の役割を探究する能力は、国際保健学、国際看護学等の試験やレポート等により客観的に評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/admission-policy/>）

（概要）

●求める人材

科学的な知識や語学力などの十分な基礎学力を有し、看護学に関する深い興味と関心が有り、保健医療福祉を支えるための看護について探究し、新しい看護学を開拓できる能力と意欲を有する人材を求めています。

科学的な知識や語学力などの十分な基礎学力を有し、ヘルスケアに関する深い興味と関心が有り、国際的にヘルスケアサービスについて探究し開発できる能力と意欲を有する人材を求めています。

●入学までに学んでおいてほしいこと

高等学校での学習内容を深めておくと共に、とくに生物学および外国語については、十分な知識を有し理解していることが望ましい。また、優れた文章読解能力や文章表現能力を有していることが望ましい。

（入学者選抜方針）

●個別学力検査等（前期日程）

国語、理科、英語の学力を中心に、基礎学力を評価するとともに、看護を志向する動機、適性、感性、社会的適応力及び人間性等について総合的に判断します。

●推薦入試

看護に関連する分野において必要とされる明確な問題意識と優れた洞察力について評価します。また、部活動、地域活動、社会活動等の実績について評価します。

●国際バカロレア特別入試

看護に関連する分野において必要とされる明確な問題意識と優れた洞察力、大学で看護学を修得するために必要な基礎知識ならびに思考力や学力などを総合的に評価します。

●編入学試験

医療人としての更なる飛躍を目指す動機に加えて、大学で看護学を修得するために必要な基礎知識ならびに思考力や学力などを総合的に評価します。

●Japan-Expert（学士）プログラム

基礎学力とヘルスケアシステムやヘルスケア技術を学習する動機、日本語での学習能力、適性、感性、社会的適応力、並びに人間性について総合的に評価します。

学部等名 医学群 医療科学類

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.tsukuba.ac.jp/public/education/>）

(概要) 医学・医療の様々な分野で活躍するために必要な医科学の基礎的な知識、技能を修得し、医療人としての使命感と責任感を身に付け、将来、医療の向上と発展に貢献する医科学領域の研究・教育を推進する人材および診断や治療に必要な新たな技術の開発とその実践にかかわって高度専門医療を担う人材を養成します。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html)
(概要) ★学士（医療科学） 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ医学群医療科学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（医療科学）の学位を授与します。 ●人間に関する幅広い知識を身に付け、生命の尊厳と倫理を尊重する人間観を学んでいる。 ●人間科学の学習に必要な基礎知識と技能ともに、人間の健康と疾病に関する医学的知識を修得している。 ●臨床検査技術に関する基礎的な知識、技能を身につけ、臨床検査技師に必要な専門科目を修得して、臨床検査技師として備えるべき基礎学力、臨床能力ならびに倫理性を身につけている。 ●医科学分野における研究開発を経験し、自ら研究を推進する幅広い基礎学力、情報収集能力ならびに自学自習能力を獲得している。 ●チーム医療の役割を理解し、臨床検査技師として行動する基礎能力と医療コミュニケーション能力を獲得している。 ★学士（国際医療科学） 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ医学群医療科学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（国際医療科学）の学位を授与します。 ●人間に関する幅広い知識を身につけ、生命の尊厳と倫理を尊重する人間観を学んでいる。 ●人間科学の学習に必要な基礎知識と技能とともに、人間の健康と疾病に関する医学的知識を修得している。 ●医科学分野における研究開発を経験し、自ら研究を推進する幅広い基礎学力、情報収集能力ならびに自学自習能力を獲得している。 ●医科学研究の原理と基本的な技術を身につけている。 ●医科学の分野において世界的に活躍できる基礎学力、技能、研究コミュニケーション力を修得し、国際的な問題を解決するために学ぶ態度と探索能力ならびに対応立案能力を獲得している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：http://www.tsukuba.ac.jp/education/ugstandard.html）
(概要) 学士（医療科学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。 ●総合的な方針 臨床検査分野の基礎的知識と専門知識、関連技能、倫理性、臨床検査技師として社会に貢献する姿勢と基礎能力を養うことを目的として、臨床検査技師教育に必要な科目を中心に広い検査技術分野の科目を配した教育課程を編成・実施しています。 ●順次性に関する方針 教養、理系基礎科目で構成する基礎科目および医科学の基礎科目で構成する専門基礎科目を学修した後に専門科目の学修にすすむようにしています。専門科目では臨床検査技師として必要な専門知識と技能の修得を目的とした科目を中心に授業、実習で構成し、その履修を終えた後、病院における臨床検査技師の実践力を養うために病院実習を、さらに医

療人としてのチームワークを形成するための医学類、看護学類との合同科目を置いて医療人としての能力を学修するようにしています。また、臨床検査分野に加えて広く医科学各分野の研究の基礎を学ぶための卒業研究を設定しています。

●実施に関する方針

医療科学主専攻へは3年次進級の際に選択します。基礎科目、専門基礎科目、一部の専門科目の学修状況により、進級判定を行います。病院実習は臨床検査技師として必要な専門知識、技能の科目修得を条件として認めています。

●学修成果の評価に関する方針

医療人としての倫理性と人間性は、基礎科目の講義での学習成果について、試験等によってその到達度を客観的に評価します。人間の健康と疾病の理解は、専門基礎科目の講義・実習の学習成果について、試験やレポート等によってその到達度を客観的に評価します。臨床検査の知識と実践力は、専門基礎科目の講義・実習の学習成果について、試験やレポート等によってその到達度を客観的に評価します。さらに臨床実習で学習成果の評価もあわせて行います。医科学の研究推進能力は、卒業研究の学習成果を面談、卒業研究発表及び卒業研究論文で評価します。チーム医療の理解と実践能力は、ケア・コロキウムと臨床実習での学習成果を評価します。

●特色

検査技術を中心に医療分野での専門知識と技能、臨床・チームワーク能力を養う授業・実習を中心とした教育を提供しています。

学士（国際医療科学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

●総合的な方針

医科学分野の基礎的知識と専門知識、関連技能、想像力、倫理性、社会に医科学研究者としてグローバルに貢献する姿勢と基礎能力を養うことを目的として、医科学研究とコミュニケーション能力を養うための科目を中心とした教育課程を編成・実施しています。

●順次性に関する方針

教養、理系基礎科目で構成する基礎科目および医科学の基礎科目で構成する専門基礎科目を学習した後に専門科目の学修に進むようにしています。専門科目では医科学研究に必要な研究法と英語での研究コミュニケーション能力を養うため英語による専門科目を多く配置しています。これらの専門科目を履修しながら研究とコミュニケーション能力の実践力を養うために長期間の卒業研究を設定しています。

●実施に関する方針

国際医療科学主専攻への3年次進級の際には、基礎科目、専門基礎科目、一部の専門科目の学修状況と英語力により、進級判定を行っています。専門英語の修得と討議能力を養うため専門科目を留学生とともに履修し、医科学研究の基礎能力と将来を先見した専門能力を養うために早期のうちから指導者について、長期間の研究演習と卒業研究を行います。

●学修成果の評価に関する方針

生命科学の倫理性と人間性は、基礎科目の講義での学習成果について、試験等によってその到達度を客観的に評価します。人間の健康と疾病の理解は、専門基礎科目の講義・実習の学習成果について、試験やレポート等によってその到達度を客観的に評価します。医科学分野の知識と技術は、専門基礎科目の講義・実習の学習成果について試験やレポート等によってその到達度を客観的に評価します。医科学の研究推進能力は、研究演習、卒業研究の学習成果を定期面談、卒業研究発表及び卒業研究論文で評価します。国際課題の理解と対応立案能力は、健幸医科学グループワーク、国際生命医科学研修、国際生命医科学、実践英語及び医科学専門語学での学習成果を評価します。

●特色

国際医療科学主専攻は、留学生と共に英語の授業・実習により学び、医科学に関する専門知識と技能、想像力と学力を国際性の日常化の場面で身につけていく教育を提供しています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/admission-policy/>）

(概要) ●求める人材 医科学の分野に強い関心をいただき、医科学分野の研究や医学・医療分野の検査技術において国際的に活躍する意欲を持つとともに、チーム医療での役割を理解し、行動することができる柔軟性を持った人材を求めています。 ●入学までに学んでおいてほしいこと 数学、生物、物理、化学についての基礎的な知識と理解、日本語の文章表現力、英語の読み書き会話の能力を有し、医学や医療に関して関心のある分野と将来に対する希望を明確にもち、主体的に行動する能力を有していることが望ましい。 (入学者選抜方針) ●個別学力検査等（前期日程） 広い基礎学力と数学、理科、英語の学力さらに医療を志す動機、適性、感性、社会的適応力、主体的に行動する能力などを総合的に評価します。 ●推薦入試 医療人を志向する強い動機と適性、人を愛する感性、社会貢献への熱意に加えて、医科学を学ぶために必要な基礎学力と主体的に行動する能力を総合的に評価します。 ●国際バカロレア特別入試 医療や医科学を志向する動機と適性、人を愛する感性、社会貢献への熱意に加えて、医科学を学ぶために必要な基礎学力と主体的に行動する能力を総合的に評価します。 ●外国学校経験者特別入試 第1種) 第2種) 英語・日本語の総合学力と数学・理科の基礎的学力、論理的思考力、文章表現力を総合的に評価します。 ●編入学試験 医療人としての更なる飛躍を目指す動機に加えて、大学で基礎あるいは臨床医学を修得するに足る基礎知識、思考力や学力、主体的に行動する能力などを総合的に評価します。
学部等名 体育専門学群
教育研究上の目的(公表方法： https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/)
(概要) 優れた運動技能と幅広い運動経験を基盤に体育・スポーツ、健康、コーチングに関する総合的な知識と最新の科学的知見を活かしながら、組織を的確にマネジメントして諸々の問題解決を図ることのできる知・徳・体を具備した体育・スポーツ界のリーダーを育成することを目的とします。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/)
(概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ学群の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（体育学）の学位を授与します。 ●幅広い運動に関する基本的な技能と初心者に対する指導力を身に付けている。 (関連するコンピテンス：コーチング学の理解、コーチング学の応用展開力) ●特定の運動種目に関する高い運動能力とアスリートに対する指導力を身に付けている。 (関連するコンピテンス：コーチング学の理解、コーチング学の応用展開力) ●体育・スポーツ、健康、コーチングに関する幅広い知識と理論を身に付け、それらを今後の社会との関係から体系づける能力を身に付けている。 (関連するコンピテンス：体育・スポーツ学の理解、健康体力学の理解、コーチング学の理解) ●体育・スポーツ、健康、コーチングに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組むことができる能力を身に付けている。

(関連するコンピテンス：体育・スポーツ学の分析能力、健康体力学の分析能力、コーチング学の応用展開力) ●嘉納治五郎先生の「精力善用・自他共栄」「一世化育」の理念を理解し、体育・スポーツ組織をマネジメントするためのリーダーシップやコミュニケーション力(外国語能力を含む)を身に付けている。 (関連するコンピテンス：キャリア形成力)
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/）
(概要) 学士（体育学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。 ●総合的な方針 主専攻は体育学1専攻です。体育・スポーツ、健康、コーチングに関する知識や理念の学習と運動実践や健康科学に関する演習を通して、体育・スポーツ界のリーダーに必要な知・徳・体を身に付けます。体育学を創設した嘉納治五郎先生の理念に触れつつ、これからの社会に必要な体育・スポーツのあり方についても追究します。 ●順次制に関する方針 ・1年次及び2年次には、専門基礎科目を中心に、体育・スポーツ、健康、コーチングの分野にかかわる理論的な授業と臨海実習などの実技授業を通して、基礎的・総合的な知識と技能を身に付けます。嘉納治五郎先生の理念と行動についても学びます。また、運動実践に関する自身の課題を科学的データに基づいて分析するという学習を行います。この学習成果に基づいて、自らの履修計画やトレーニング実践を設計するとともに、自身の課題の解決のためのプログラムを創り出して、課題解決に取り組みます。 ・3年次には、それまでに修得した実技レベルや学科レベルを自己評価・点検しつつ、体育・スポーツ、健康、コーチングに関するより専門的な理論を社会との関係と絡めて学修し、知識・技能および指導力のさらなる向上を図ります。また、自分自身の関心の高いテーマを学問的に追究するために、卒業研究領域（38領域）の一つを選び、当該分野の最新の科学的知見を学修し、3、4年次で卒業論文を完成させることになります。これは学群教育の到達点であると同時に、大学院進学への足がかりにもなります。 ●実施に関する方針 卒業研究領域の選択を含めて、各授業科目の選択は学生の自主性に任せられていますが、基本的な履修モデルを作成し、学修プロセスを示しています。本学群では、教育課程全体を通じて学生の課題解決学習が重視されており、特に実技授業においては映像データなどの豊富なデータベースが用意され、自学自習できるように工夫されています。 ●学修成果の評価に関する方針 学群全体としては、単位修得状況、卒業研究、GPA、免許・資格の修得状況から、学群としての学修成果の達成状況を評価します。各授業科目については、試験、レポート、毎回のコメントペーパーの結果から、シラバスに設定された授業の目的および到達目標に照らして学修成果の達成状況を評価します。 ●特色 夏には、海外からの研究者の講義を英語で学ぶ機会が提供されているとともに、海外からの学生との交流も行われます。さらに本学群では課外活動としての運動部活動による教育も重視しています。課外活動では、自らの競技力の向上を図るとともに、専門性の高い科学的指導法を学びます。また、豊かな人間性と国際交流に貢献する姿勢を身に付けることも目指しています。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/admission-policy/）
(概要) ●求める人材 体育・スポーツ、健康、コーチングに関する分野に強い関心があり、教養を高め運動経験の幅を広げるだけでなく、これまで身につけた運動技能や関連する知識をさらに高め、体育・スポーツの国内的・国際的発展に貢献する情熱と意欲を持った人材。

●入学までに学んでおいてほしいこと 高校の保健体育で学ぶ内容を習得し、さらに英語の基礎的能力を身につけていること。 (入学者選抜方針) ●個別学力検査等(前期日程) 優れた学力及び運動能力を有し、体育・スポーツ、健康、コーチングの分野での活躍が期待できる人材を選抜するために、学力と運動能力の両方を対等に評価します。 ●推薦入試 ひとつの運動種目に抜群の技能を有し、体育・スポーツ、健康、コーチングの分野での活躍ができる人材を選抜するために、本学群における修学力とともに、運動技能を重点的に評価します。 ●AC入試 スポーツに関する科学的知識の主体的な活用と論理的思考力、およびそれらに基づいた、ひとつの運動種目における特に優れた技能や卓越した取り組みを多面的に評価します。 ●国際バカロレア特別入試 体育・スポーツ、健康、コーチングの分野に強い関心をもち、将来、それらの分野での国際的に活躍できる学力、運動能力、国際性を総合的に評価します。 ●外国学校経験者特別入試 第1種) 体育・スポーツ、健康に対する強い関心と、思考能力、基礎的な日本語能力、高い英語能力、及び優れた運動能力を総合的に評価します。 第2種) 体育・スポーツ、健康に対する強い関心と、保健体育に関する基礎学力、高い英語能力、日本語能力、及び優れた運動能力を総合的に評価します。
学部等名 芸術専門学群
教育研究上の目的(公表方法: https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/)
(概要) 学際的・国際的な視野と確かな学力を持ち、かつ柔軟な発想力と豊かな表現力を備え、創造的活力に満ちた美術及びデザインの専門家を養成することを目的とします。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法: https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/)
(概要) 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力(汎用コンピテンス)を修得し、かつ芸術に関する学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士(芸術学)の学位を授与します。 ●創造的表現力 芸術に関する独創的で柔軟な発想や思考を、美術・デザインの専門的知識・技能を駆使して適切に表現できる。 ●問題解決能力 現代における美術・デザインに関する諸問題を自発的に見出し、習得した知識・技能を活用して柔軟な考察と的確な判断によって解決できる。 ●幅広い知識に基づく論理的思考力 学際的・国際的な教育による幅広い視野と専門的な知識・経験に基づき、多様な諸課題に対して論理的な思考ができる。 ●感性豊かなコミュニケーション能力 形による感性の発信力や感性を共有し協働する能力を培い、豊かでクリエイティブな人間関係を形成するコミュニケーションができる。 ●自律的・社会的な創造活動のための基礎力 社会における芸術の意義と役割を理解し、美術・デザインの専門家として自律的に創造活動を継続できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法: https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/)

(概要) 学士（芸術学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。 ●総合的な方針 総合大学における芸術教育の場という特色を活かし、広く学際的な知性（汎用智）と、深い専門能力（専門智）に芸術的感性を統合した統合智を醸成し、創造力に溢れた美術及びデザインの専門家を育成します。 美術・デザインの諸領域の基礎を横断的に履修する専門基礎科目と、専門科目によって芸術の専門的基盤を形成します。さらに、学年や専門分野の枠を超えた横断的科目を配置することによって感性豊かなコミュニケーション能力を養います。 ●順次性に関する方針 ・基礎と専門が統合されたカリキュラム 1・2年次では、多様な専門に繋がる基礎科目を必修とし、芸術に関する創造的表現力、問題解決能力、論理的思考力を柔軟に使いこなす基盤を養います。また、専門領域の基礎を学ぶと同時に学際的・国際的な講義・演習を選択的に履修することで専門的な知識の活用力を養います。 3年次以降に、諸領域におけるより高度な専門科目の講義や演習・実習を通じ、多様な諸課題に対する論理的思考力と横断的知識を活かす卓越した表現力や説得力を養い、卒業研究へと結びつけます。 ・卒業研究 4年間の集大成である卒業研究は学生の自立を保証するものです。卒業研究の指導では、学生自ら研究テーマを見出し、思考し、表現することにより、美術・デザインの専門家として自律的・社会的に創造活動を行う基礎力を養い、感性溢れる表現能力や感性を共有し豊かでクリエイティブな人間関係を形成するコミュニケーション能力を磨きます。基本的にすべての卒業研究は学外の公立美術館で公開展示され、卒業研究作品集の公刊とともに社会の評価を仰ぎ、優秀作品は顕彰され大学に収蔵されます。 ●実施に関する方針 ・学生の個性を尊重した教育 芸術教育において学生の個性は最大限に尊重されるべきものです。諸領域における専門教育は可能な限り少人数クラスとし、対話を通して個性を伸ばす指導を行います。 ・「現場」と繋がる授業 全学の学生・教員や市民と協働する学際的なカリキュラムを配置し、企業、行政、美術館、教育現場等との協働や教育交流など、実務と直結した教育を実施し、時代に即した高いコラボレーション力と学際的な視野を持つ学生を育成します。 ・創造的表現力と論理的思考力の両立制作と論文執筆の二つを卒業要件とすることで、ものづくりの実践による創造的表現力と、客観的・論理的な思考方法を基盤とした確実な文章表現力の習得をめざします。 ・世界的視野に基づく創造力の育成 国際交流協定等に基づく交換留学や研究交流、作品交流展、国際インターンシップなどの機会を活用し、国際的コミュニケーション能力と世界的視野に立った創造力を育成します。 ●学修成果の評価に関する方針 学修の成果を集約または発展させた卒業研究（「論文」および「作品」、もしくは「論文」）によって評価する。また、卒業研究の公開展示や卒業研究作品集の公刊によって学外の評価を仰ぐ。	入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/admission-policy/geijutsu/）
(概要) ●求める人材 芸術を追求する熱意のある人材、社会的・国際的観点から創造活動にチャレンジする意欲	

のある人材、多領域に関わる知識や方法に基づいた美術・デザインによる表現によって社会に貢献する意欲のある人材を求めています。 ●入学までに学んでおいてほしいこと 美術・デザインの専門に関する基礎的な知識と技能及び幅広い基礎学力を習得していることが望ましい。 (入学者選抜方針) ●個別学力検査等 前期日程 幅広い基礎学力と芸術に関する能力を総合的に評価します。 ●個別学力検査等 後期日程 基礎学力と芸術に関する基礎的な能力を総合的に評価します。 ●推薦入試 高等学校（後期中等教育）における学習や活動の成果に加え、芸術に関する資質、意欲、能力を総合的に評価します。 ●国際バカロレア特別入試 国際バカロレア資格を取得した者を対象として、本学の教育を受けるのに必要な基礎学力、問題発見・解決能力、行動力等の一般的能力と、芸術に関する資質、意欲、基礎的な能力を総合的に評価します。 ●外国学校経験者特別入試 第1種）高等学校（後期中等教育）における学習・活動の成果や日本語能力に加え、芸術に関する資質、意欲、基礎的な能力を総合的に評価します。 第2種）高等学校（後期中等教育）における学習・活動の成果に加え、芸術に関する資質、意欲、基礎的な能力を総合的に評価します。 ●Japan-Expert（学士）プログラム 高等学校（後期中等教育）における学習の成果や日本語能力に加え、提出された書類や作品等も含め、芸術に関する資質や意欲を総合的に評価します。
学部等名 学際サイエンス・デザイン専門学群
教育研究上の目的（公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/） （概要） データサイエンスを基軸とし、自然科学、人文社会科学の考え方、技術を広く環境・社会問題等に適用し、デザイン思考を踏まえつつ創造的に地球規模課題解決に貢献する人材を育成します。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/） （概要） 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本専門学群の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（学術）の学位を授与します。 ●データサイエンスを理解し利活用できる能力が身についている。 ●地球規模課題解決の観点から、自然科学、人文社会科学を理解し利活用できる能力が身についている。 ●環境学を理解し地球規模課題解決のために利活用できる能力が身についている。 ●多様な他者に敬意を払いつつ円滑なコミュニケーション力をとる能力が身についている。 ●日本文化や伝統の理解を通じた多様な価値観に基づき思考する能力が身についている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/）

(概要) 学士（学術）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。 ●人文社会科学の基礎、日本文化と社会の理解、自然科学の基礎、データサイエンスの基礎学理となる数学やプログラミング、統計の基礎と応用に関する授業科目を設定する。特に、データサイエンスを基軸として思考・実践できるようにするための配慮として、情報リテラシー及びデータサイエンスを1年次に配当した後、これらの科目で修得した内容を、課題解決型学修を行う科目で利用・応用するようにして経験を積むことでデータサイエンスを深く理解するためのレディネスを涵養し、3年次でデータサイエンスに関連して基礎となる数学を配置することで理解を深められるようにする。 ●時事課題に関する論考や課題解析、課題解決法の提案などに関する演習を、課題解決型学修で実施する授業科目として構成し、十分な学修量（単位数）を確保して設定する。これらの演習は入学当初から3年次まで配当する。4年次は3年次までに涵養した能力と、学生各自が選択した問いを探究すべく卒業研究を実施する。 ●本学で定める共通科目として必要な総合科目3科目、体育、外国語、情報リテラシーとデータサイエンスを配当し、本学学士課程において共通に修得すべき能力を涵養する。 ●マレーシアにおける高等教育政策に基づき、マレーシアの社会や言語等に関する科目を配当する。 ●データサイエンスを基軸として各授業科目間の連携を明確にし、自然科学基礎、人文社会科学基礎、日本語と学問等の専門基礎科目で学んだ知識、技術が、時事課題解析演習、時事課題解決法提案演習等の課題解決型学修において有用であることを学生が理解できるようにする。 ●課題解決型学修を行う科目及び卒業研究の各年次末において、学修成果を報告する発表会を実施する。各学生には、学修成果が可視化できるレポートを提出させ、また学修成果に関する口頭発表を課す。これらの内容により各学生の学修成果を評価する。 教育課程の特色 本専門学群の人材養成目的を達成するため、特にグローバル化の世界において地球規模で生起する諸課題に対して解を見つけられるように、科学的エビデンスに基づきデータサイエンスによって抽出・特定する能力を涵養すべく、課題解決型学修（Problem Based Learning: PBL）を教育課程の中で多く取り入れます。こうして実社会での実装も視野に入れた具体的な解決策を提示できる能力を育成することに重点を置きます。
入学者の受入れに関する方針(公表方法:https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/admission-policy/utmy/) (概要) ●求める人材 1. マレーシア及び東南アジア域等において顕在化する地球規模課題とその解決に、強い関心と意欲を持っている。 2. 地球規模課題解決のために自然科学及び人文社会科学を学ぶことに関し、関心と意欲を持っている。 3. 客観的なデータや資料に基づき情報の適否を判断し、自身の考え方を合理的にまとめることに関し、関心と意欲を持っている。 4. 日本語や日本文化に関心を持つとともに、異なる価値観や考え方を尊重することができる。 ●入学までに学んでおいてほしいこと データサイエンスの基礎となる統計学や微分・積分の基礎を習得していることが望ましい。 (入学者選抜方針)

●推薦入試 高等学校等において優秀な成績を修め、地球規模課題解決への高い関心と学修意欲等があること、かつ日本語で学ぶ素養があることを総合的に評価します。 ●適性入試 全般的な基礎学力と、データサイエンスを学ぶ上で必要となる高度な理解力、思考力、地球規模課題への関心と表現力等を総合的に評価します。
学部等名 地球規模課題学位プログラム
教育研究上の目的（公表方法： https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/ ）
（概要） 本学位プログラムは、地球規模課題全般を俯瞰する幅広い基礎知識を身に付け、人間と環境に関する課題を解決するために分野を超えて必要な情報・技術を自ら意欲的に求めていく姿勢を持ち、多くの選択肢の中から最適な解決を意思決定できる人材を養成します。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法： https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/ ）
（概要） 筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ地球規模課題学位プログラムの人材養成目的に基づき所定の年限在学し、所定の単位数を修得した者に学士（学術）の学位を授与します。学位プログラムの卒業にあつては、以下の各号に到達していることを目標とします。 ●文理融合の立場から、地球規模課題を俯瞰できる幅広い知識を修得していること。 （関連するコンピテンス：基礎的知識、情報解析力、専門的知識） ●地球規模課題に関して、体系的な専門知識を身に付け、多角的な視点から総合的に分析し、創意工夫によって課題解決に取り組む能力を修得していること。 （関連するコンピテンス：基礎的知識、情報分析力、専門的知識、問題発見・解決能力） ●グローバル社会において自分自身の見解を論理的かつ説得的に主張しつつ、他者の意見にも十分耳を傾ける柔軟なコミュニケーション能力を有し、異分野・異文化の環境において積極的にリーダーシップを発揮し、社会に貢献できる能力を修得していること。 （関連するコンピテンス：論理的コミュニケーション能力、問題発見・解決能力、提言力） ●グローバル社会における高い倫理観及びダイバーシティに関する理解能力を修得していること。 （関連するコンピテンス：基礎的知識、専門的知識、問題発見・解決能力）
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/ ）
（概要） 学士（学術）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。 ●教育課程編成方針 地球規模課題を俯瞰するという明確な目的をもった総合的な知識を修得し、課題解決のために必要な情報を自ら収集し分析する能動的姿勢を身に付け、グローバルな交渉力とマネジメント力を培う教育課程を編成します。 ●総合的な方針 身近な事柄から環境と人間に関する地球規模課題に取り組む姿勢を身に付け、演習・実習を通じて課題解決に必要な専門知識と汎用スキルを学び、卒業研究あるいは長期実習により社会に貢献できる発信力のある専門研究を深めます。 ●順次性に関する方針 1 年次は共通科目、専門基礎科目の履修を通じ、地球環境、人類社会の幅広い基礎知識を学んでいきます。 2 年次では、基盤演習・実習の履修により、地球環境、リスクと安全、共生社会、健幸課

題に関する基礎的知識・応用スキルを身に付け、グローバル化する地域社会の諸問題を分析できるようにします。

3年次では、発展演習・実習の履修により、地球環境、リスクと安全、共生社会、健康課題に関する専門知識・応用スキルを深め、世界の諸問題を分析できるようにします。

4年次では、総合演習・実習および卒業研究または長期実習を通じて、各自が特定プロジェクトに取り組み、決断力と発信力を鍛え、卒業後のキャリアを準備します。

●実施に関する方針

1年次は「地球規模課題リテラシー」の涵養により地球規模課題の共通基盤を作ります。2年次、3年次は4つの主課題の課題解決型学習（Problem Based Learning）とオンザジョブトレーニング（On-the-Job Training）により専門知識・スキル、汎用知識・スキルを修得していきます。4年次は各自の適性を生かした専門性の高い特定プロジェクトを立て実行します。

●学修成果の評価に関する方針

カリキュラムに沿った科目の単位を取得し、汎用コンピテンス並びに専門コンピテンスが身に付き、地球規模課題に取り組む学士（学術）にふさわしい見識、俯瞰的に把握する能力、課題を解決に導く能力を有しているかを評価します。卒業研究または長期実習では、課題の発見力、課題解決能力、研究または実務実施能力などを評価し、卒業研究発表会においてプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、質問に対応する能力などを確認し、汎用・専門コンピテンスが養われているか総合的に評価します。

●特色

本プログラムは、すべて英語で課題解決型学習（Problem Based Learning）を実施します。専門科目は全学群から幅広く履修ができます。また、国際基督教大学との連携により、同大学において英語による基礎科目（教養科目）を履修します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://bpgi.tsukuba.ac.jp/en/wp-content/uploads/2024/11/253c0adae358f4502a8ef1c804c43da8.pdf>）

（概要）
地球環境（気候変動、自然破壊、公害等）、人類社会（食糧、貧困、長寿社会等）の問題に関心を持ち、文系及び理系の知識を活用しながら、将来国内外のグローバル企業、国際機関等で社会に貢献できる、又はイノベーションに貢献できる人材を選抜します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.tsukuba.ac.jp/education/organization-ug-list/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	12人	—					12人
本部	—	25人	15人	—	25人	15人	—
人文社会系	—	68人	65人	—	68人	65人	—
ビジネスサイエンス系	—	26人	15人	—	26人	15人	—
数理物質系	—	68人	54人	—	68人	54人	—
システム情報系	—	81人	72人	—	81人	72人	—

生命環境系	—	57 人	63 人	—	57 人	63 人	—
人間系	—	34 人	31 人	—	34 人	31 人	—
体育系	—	40 人	38 人	—	40 人	38 人	—
芸術系	—	20 人	23 人	—	20 人	23 人	—
医学医療系	—	107 人	99 人	—	107 人	99 人	—
図書館情報メディア系	—	17 人	21 人	—	17 人	21 人	—
計算科学研究センター	—	17 人	11 人	—	17 人	11 人	—
生存ダイナミクス研究センター	—	5 人	4 人	—	5 人	4 人	—
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0 人			1,380 人				1,380 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：https://trios.tsukuba.ac.jp/ja					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
本学の教育の発展及び学修の充実に資することを目的として設置された教学マネジメント室において、全学的な F D 活動の実施及び各教育組織における F D 活動の支援を行っている。							
本学の F D 活動は、教育組織の長等を対象としたマクロレベル、各教育組織のカリキュラム委員等を対象としたミドルレベル、主に授業担当教員（研究指導の担当教員を含む。）等を対象としたミクロレベルの F D 活動に分類し、体系的かつ組織的な F D 活動を展開する。							
その一例として授業評価アンケート調査や各種ステークホルダーへのアンケート調査等が挙げられ、これらの調査結果を基に現状の傾向の把握・分析を行うとともに、得られた知見を F D 研修会や全学及び各教育組織の教育会議等で共有し、教育改善に活用している。							

④ 入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人文・文化学群 人文学類	90 人	93 人	103.3%	450 人	482 人	107.1%	人	人
人文・文化学群 比較文化学類	60 人	65 人	108.3%	300 人	331 人	110.3%	人	人
人文・文化学群 日本語・日本 文化学類	20 人	18 人	90.0%	140 人	133 人	95.0%	人	人
社会・国際学群 社会学類	60 人	66 人	110.0%	320 人	344 人	107.5%	10 人	10 人
社会・国際学群 国際総合学類	60 人	57 人	95.0%	300 人	343 人	114.3%	人	人
人間学群 教育学類	32 人	34 人	106.3%	137 人	146 人	106.6%	人	人
人間学群 心理学類	45 人	48 人	106.7%	195 人	218 人	111.8%	人	人
人間学群 障害科学類	32 人	35 人	109.4%	137 人	151 人	110.2%	人	人
生命環境学群 生物学類	60 人	60 人	100.0%	300 人	312 人	104.0%	人	5 人
生命環境学群	100 人	109 人	109.0%	480 人	505 人	105.2%	10 人	10 人

生物資源学類							
生命環境学群							
地球学類	37 人	38 人	102.7%	187 人	206 人	110.2%	人 1 人
理工学群							
数学類	30 人	32 人	106.7%	150 人	154 人	102.7%	人 2 人
理工学群							
物理学類	45 人	47 人	104.4%	225 人	259 人	115.1%	人 1 人
理工学群							
化学類	37 人	39 人	105.4%	187 人	195 人	104.3%	人 3 人
理工学群							
応用理工学類	90 人	96 人	106.7%	470 人	502 人	106.8%	10 人 10 人
理工学群							
工学システム学類	105 人	105 人	100.0%	500 人	545 人	109.0%	5 人 6 人
理工学群							
社会工学類	90 人	91 人	101.1%	450 人	478 人	106.2%	人 2 人
情報学群							
情報科学類	66 人	82 人	124.2%	330 人	373 人	113.0%	14 人 14 人
情報学群							
情報メディア創成学類	39 人	56 人	143.6%	213 人	241 人	113.1%	14 人 16 人
情報学群							
知識情報・図書館学類	60 人	75 人	125.0%	380 人	445 人	117.1%	10 人 11 人
医学群							
医学類	129 人	134 人	103.9%	824 人	823 人	99.9%	5 人 5 人
医学群							
看護学類	65 人	70 人	107.7%	295 人	306 人	103.7%	10 人 7 人
医学群							
医療科学類	27 人	28 人	103.7%	144 人	156 人	108.3%	3 人 2 人
体育専門学群	240 人	246 人	102.5%	960 人	1042 人	108.5%	人 人
芸術専門学群	95 人	101 人	106.3%	395 人	450 人	113.9%	人 人
学際サイエンス・デザイン専門学群	40 人	12 人	30.0%	40 人	12 人	30.0%	人 人
総合学域群第1類	126 人	126 人	100.0%	126 人	127 人	100.8%	人 人
総合学域群第2類	154 人	154 人	100.0%	154 人	166 人	107.8%	人 人
総合学域群第3類	125 人	125 人	100.0%	125 人	128 人	102.4%	人 人
合計	2,159 人	2,242 人	103.8%	8,914 人	9,573 人	107.4%	91 人 105 人
(備考)							
学際サイエンス・デザイン専門学群の収容定員は、令和7年5月1日現在、1年次のみ (令和6年9月1日に一期生が入学)							

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・ 修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人文・文化学群	239 人 (100%)	48 人 (20.1%)	164 人 (68.6%)	27 人 (11.3%)
社会・国際学群	183 人 (100%)	24 人 (13.1%)	139 人 (76.0%)	20 人 (10.9%)
人間学群	131 人 (100%)	46 人 (35.1%)	75 人 (57.3%)	10 人 (7.6%)

生命環境学群	263 人 (100%)	199 人 (75.7%)	53 人 (20.2%)	11 人 (4.2%)
理工学群	552 人 (100%)	437 人 (79.2%)	89 人 (16.1%)	26 人 (4.7%)
情報学群	270 人 (100%)	150 人 (55.6%)	91 人 (33.7%)	29 人 (10.7%)
医学群	258 人 (100%)	36 人 (14.0%)	210 人 (81.4%)	12 人 (4.7%)
体育専門学群	260 人 (100%)	59 人 (22.7%)	187 人 (71.9%)	14 人 (5.4%)
芸術専門学群	101 人 (100%)	34 人 (33.7%)	54 人 (53.5%)	13 人 (12.9%)
学際サイエンス・デザイン専門学群	- 人 (100%)	- 人 (%)	- 人 (%)	- 人 (%)
合計	2,257 人 (100%)	1,033 人 (45.8%)	1,062 人 (47.1%)	162 人 (7.2%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
【進学先】 筑波大学、東京大学、東京科学大学、慶應義塾大学、早稲田大学 等				
【就職先】 レバレジーズ株式会社、株式会社ベイカレント・コンサルティング、株式会社日立製作所日立総合病院、株式会社セプテーニ・ホールディングス、楽天グループ株式会社、国立大学法人 東京医科歯科大学医学部附属病院、総合病院土浦協同病院、筑波大学、東京都庁、茨城県厚生農業協同組合連合会、茨城西南医療センター病院、茨城県庁、茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター、株式会社サイバーエージェント、順天堂大学医学部附属浦安病院、NTT データ株式会社、株式会社NTTドコモ、株式会社SHIFT、株式会社三井住友銀行、群馬県庁、清水建設株式会社、千葉大学医学部附属病院、東京大学医学部附属病院、日本電気株式会社、日本放送協会（NHK） 等				
(備考) 学際サイエンス・専門学群は、令和6年度末時点でまだ卒業者が出ていない。				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) - 平成 20 年度から「シラバス作成のためのガイドライン」を作成し、それに沿って授業計画（シラバス）を作成している。 - 改定を行い、令和 7 年度から新ガイドラインに基づきシラバスを作成・公開する。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) - 学士課程における教育の目標とその達成方法及び教育内容の改善の方策を含む教育の枠組みを明らかにした「筑波大学 学群スタンダード」を作成し、広く社会に公表している。 - 卒業の認定に当たっての基準については、教育組織ごとに「履修細則」を定め公表している。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
人文・文化学群	人文学類	124 単位	有	45 単位
	比較文化学類	124 単位	有	45 単位
	日本語・日本文化学類	124 単位	有	45 単位
社会・国際学群	社会学類	126 単位	有	45 単位
	国際総合学類	126 単位	有	45 単位
人間学群	教育学類	124 単位	有	45 単位
	心理学類	124 単位	有	45 単位
	障害科学類	124 単位	有	45 単位
生命環境学群	生物学類	124 単位	有	45 単位
	生物資源学類	124 単位	有	45 単位
	地球学類	124 単位	有	45 単位
理工学群	数学類	124 単位	有	45 単位
	物理学類	124 単位	有	45 単位
	化学類	124 単位	有	45 単位
	応用理工学類	124 単位	有	45 単位
	工学システム学類	125 単位	有	45 単位
	社会工学類	124 単位	有	45 単位
情報学群	情報科学類	125 単位	有	45 単位
	情報メディア創成学類	124 単位	有	45 単位
	知識情報・図書館学類	124 単位	有	45 単位
医学群	医学類	199 単位	有	単位
	看護学類	124 単位	有	単位
	医療科学類	127 単位	有	単位
体育専門学群	—	124 単位	有	45 単位
芸術専門学群	—	124 単位	有	45 単位
学際サイエンス・デザイン専門学群	—	128 単位	有	45 単位
G P Aの活用状況（任意記載事項）		公表方法：大学ホームページ (https://www.tsukuba.ac.jp/education/gpa.html)		

学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法：
----------------------------	-------

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： ○キャンパス・施設の概要：http://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/campus.html 教室案内：https://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/support-campus/pdf/campusmap.pdf ○運動施設：https://www.sapex.tsukuba.ac.jp/sapex/?page_id=442 ○アクセス・キャンパスマップ：http://www.tsukuba.ac.jp/access/index.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
学 群 (学際サイエンス・デザイン専門学群を除く)		535,800 円	282,000 円	円	
学際サイエンス・デザイン 専門学群		マレーシア国籍を 有する学生： 35,000RM マレーシア国籍を 有する学生以外の 学生： 38,000RM	- 円	円	RM：マレーシア リンギット 入学金は徴収無
大学院	(下記法曹選考を除く)	535,800 円	282,000 円	円	
大学院	ビジネス科学研究科 (法曹専攻) 人文社会ビジネス科学 学術院 (法曹専攻)	804,000 円	282,000 円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
○クラス制度、学生担当教員制度、公的学生組織 本学には、全学的立場から学生生活を支える教員と職員の組織が設置されています。学生に対する指導・助言の場と学生からの意向反映の場を異なる三つのレベル ①クラス、②学類・専門学群、③全学 にそれぞれ設置することで、柔軟で深い教育を実践しています。 ・クラス制度：学生が構成員となるもっとも身近な組織。各クラスにはクラス担任教員が配置され、教育活動および 学生生活に関する諸事項を伝えるとともに、学生からの相談を受けています。 ・学生担当教員制度：学生生活に関わる諸問題を各学類・専門学群の枠組を超えて全学的視野に立つて対処する組織。学生担当教員は、学生担当教員会議において学生生活指導に関する諸問題を全学的立場から討論し、共通の理解のもとに学生生活指導等にあたります。 ・公的学生組織：クラスを基礎母体として、学類・専門学群、そして全学へと、より大きなレベルでの学生組織が設置されています。下位組織から選出された代表が、上位組織を構成する公的学生組織には、次の三つがあります。 ①クラスレベル：クラス会議 ②学類・専門学群レベル：クラス代表者会議 ③全学レベル：全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議（全代会） 公的学生組織の最上位に位置するのが全代会です。全代会には、運営、教育課程、学内行事、厚生、課外活動、広報の専門委員会があり、学生の意見や主張を反映させるためにアンケート、公

聴会を開催しています。この過程で集約された学生の意向は、懇談会を通じて副学長に伝えられます。

○奨学金・修学支援

学生の修学のために入学料・授業料の免除及び奨学金の給付等の様々な経済支援を行っています。本学が取り扱っている奨学金制度としては、筑波大学学生奨学金「つくばスカラシップ」、日本学生支援機構、地方公共団体、民間奨学団体等があります。これらの奨学金制度においては、それぞれの条件（学業成績、人物、健康状態及び家計の経済状況等）により認められたものが対象になります。

○留学生支援

留学生の健全な修学のため、以下の支援を実施しています。

- ・新規渡日留学生を対象に渡日直後にオリエンテーションを実施し、留学生の修学や在留管理、学生生活に必要な情報を日本語と英語で発信しています。
- ・留学生を支援するチューターを留学生1人につき1人配置し、不便なく日常生活や学習ができるよう渡日直後の支援を実施しています。また、「Ask Us Desk」を設置し、日本人学生がサポーターとなり、留学生への学内外の場所案内、諸手続き支援、履修や学生生活に関する質問への回答など、幅広い分野でサポートを行っています。
- ・留学生の修学・生活上の問題や精神的・身体的な問題に対し、日本語、英語、中国語で相談できる体制を整え、留学生のみならず、教職員からの相談にも対応しています。
- ・在留管理の徹底のため、在留期限の近い全ての留学生に対し、3か月前からメールによる注意喚起を行い、在留期間の適切な更新を促しています。また、在留期間更新等の手続きに必要な証明書の発行を行っています。
- ・地域交流団体等と連携を図り、地域社会と留学生との活発な異文化交流を可能にする情報を発信しています。
- ・本学の特定基金である留学生後援会基金では、学内外からの寄附を原資として、留学生を対象に一時金貸出や不測事態への支援等を実施しています。

○障害学生支援

本学では、ヒューマンエンパワーメント推進局を中心に、各教育組織、学生支援組織等と連携をしながら、障害のある学生へ主に以下のような修学支援を行っています。

① 入学時相談

障害のある新入生を対象に、各教育組織の関係教職員、共通科目に関わるセンター等の教職員、障害学生支援の専門スタッフによる入学時ガイダンスを実施しています。ガイダンスでは、全学的な支援内容や、共通科目の履修についての説明、個別相談等を行っています。また、各教育組織においても、障害学生支援の専門スタッフによる助言のもと、個々の障害のある学生に対する配慮事項について話し合いをする機会を設けています。

②授業・研究に関わる合理的配慮の調整/提供

修学に関する個別面談を行い、必要に応じて「合理的配慮情報提供書」を作成し、合理的配慮の調整を行っています。また、支援機器の貸出、構内移動支援（福祉タクシーの利用を含む）、ピア・チューター（学習補助者）による修学支援などを行っています。

③ピア・チューター制度

障害のある学生に対して、必要に応じてピア・チューターを配置しています。ピア・チューターは、一般の学生を対象に広く募集しており、毎年多くの学生が積極的にこの活動に参加しています。自由科目（特設）「障害学生支援技術」を開講し、ピア・チューターの養成も行っています。ピア・チューターによる支援活動に対しては、規定に基づいて大学から謝金を支給し、一定時間の支援活動を行った希望者には学長名の障害学生支援活動証明書を発行しています。

④アセスメント

学生が自身の発達上の特性をより良く理解するために、知的能力や発達障害の傾向に関する個別の心理教育的アセスメントを実施しています。障害の有無を問わず、在学生であれば利用できます。

⑤障害のある学生のキャリア支援

就職活動に向けて働き方等の相談を希望する障害学生向けに、キャリア支援企画の実施や障害のあるOB・OGとのネットワークの構築を進めています。また、障害学生支援チームとキャリア支援チームが連携して、個々に応じたキャリア支援を行っています。

○LGBTQ+等学生への支援

本学では、性的マイノリティに関する大学の基本理念とガイドラインを策定し、対応を行っています。これまでに、同性パートナーを持つ学生の対応のほか、トランスジェンダーや性別に違和を持つ学生には、氏名の変更や健康診断及び教育実習等の個別の対応、キャリア相談や就職相談等を行っています。加えて、全ての人が自らのジェンダー・セクシュアリティについてより安全に話すことができるセーフスペースの設置や学生スタッフによる意識啓発等の取組を進めています。

b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 本学では、ヒューマンエンパワーメント推進局を中心に、各教育組織と連携しながら、学生が自己理解を深め、社会についての視野を広げ、将来にむけた準備ができるよう支援を行っています。主な取り組みは以下のとおりです。 ① 教育・ガイダンス キャリア形成の基礎となる「ファーストイヤーセミナー」を実施し、進路選択ツール「つくばキャリアポートフォリオ (CARIO)」の活用を推進することで、学生が主体的にキャリアを考える機会を提供しています。また、「キャリアデザイン入門～世界にはばたく未来の自分～」などの科目を開講し、知識やスキルを習得できる環境を整えています。 ② 個別キャリア相談 国家資格を持つ相談員による進路選択や就職活動の支援を行い、自己成長診断ツール「SAGASU」などを活用し、学生が自身の強みや適性を客観的に理解できるようサポートしています。 ③ キャリアイベント 就活&インターンシップガイダンスや学内企業説明会（インターンシップ研究会、業界・企業研究会、学内合同企業説明会）を定期的に開催し、学生が業界や企業について深く学ぶ機会を提供しています。さらに、就職準備講座や内定者懇談会、OB・OG 交流会を通じて、実践的な準備やネットワーク構築を支援しています。 ④ 大学院博士後期課程学生支援 博士後期課程の学生向けに、大学院共通科目の「博士のキャリアパス」（春・日本語）と「Career Paths for Ph.D. Candidates」（秋・英語）を開講し、研究者の多様なキャリアパスを考える機会を提供しています。「合同研究所説明会」や「キャリア開発交流会」では、企業や研究機関で活躍する先輩との交流を通じて、具体的な進路を描けるよう支援しています。さらに、産学連携・キャリアマッチングの場として「PhD×FUTURE.」を運用し、企業との共同研究やインターンシップの機会を提供しています。 ⑤ 留学生支援 個別相談を日英で実施し、ガイダンスや交流会を通じて、日本の就職活動の流れやビジネスマナー、履歴書・面接対策を学ぶ機会を提供しています。さらに、企業情報や就職イベントの案内を行い、留学生が日本の就職市場へ適応できるよう支援しています。 ⑥ 障害学生支援 障害のある学生が希望するキャリアを実現できるよう、個別対応を中心に支援を行っています。インターンシップへの参加促進、企業との交流の場の設定に加え、障害のある学生が働きやすい環境について企業へ積極的に提案しています。学内の関係組織と連携しながら、安心して就職活動に取り組める環境を整えています。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
○保健管理センター 学生に対する応急診療や精神保健相談を行います。精神保健診療は専門の精神科医が相談・治療に応じます。 ○総合相談窓口・学生相談室 臨床心理士・大学カウンセラー等の専門資格を持ったカウンセラーが相談に応じます。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.tsukuba.ac.jp/about/disclosure-education/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F108110101423
学校名 (〇〇大学 等)	筑波大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	国立大学法人筑波大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		580人（ 27 ）人	566人（ 21 ）人	614人（ 33 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	307人	308人	
	(うち多子世帯)	0人	0人	
	第Ⅱ区分	146人	150人	
	(うち多子世帯)	0人	0人	
	第Ⅲ区分	100人	87人	
	(うち多子世帯)	0人	0人	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	27人	21人	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				14人（ 0 ）人
合計（年間）				628人（ 33 ）人
(備考) (多子世帯)の区分は令和7年度に新設されたため、第Ⅳ区分を除き前年度（令和6年度）支援対象者としては0人と記載している。				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	9人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当)	0人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	10人	人	人
計	14人	人	人
(備考) 「警告」の区分に連続して該当のうち、7名は、前回認定結果が「停止」で今回「警告」に該当し、廃止となった者。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、 高等専門学校(認定専攻科を含む。)及び専門学校(修業年限が2 年以下のものに限る。)			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学(期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。)の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考) 適格認定の結果、「終了(停止)」となった2名は計上していない。	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	15人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	46人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	46人	人	人
(備考) 「終了(警告)」の10名は計上していない。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。